

令和元年度

全国体力・運動能力，運動習慣等調査

鹿児島県結果分析



令和元年度全国体力・運動能力，運動習慣等調査について

1 調査の目的

全国体力・運動能力，運動習慣等調査は，子供の体力等の状況に鑑み，全国的な子供の体力の状況を把握・分析することにより，子供の体力の向上に係る施策の成果と課題を検証し，その改善を図るとともに，そのような取組を通じて，子供の体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立することを目的にスポーツ庁が実施しているものです。

2 調査の結果について

本調査結果は，実技調査8項目，及び運動習慣等の質問紙調査による体力等の特定の一部を示したものであります。

また，学校の教育活動は，多面的，総合的に行われるものであり，調査結果は，あくまで学校における教育活動の一側面であるので，御留意ください。

目 次

○ 県全体の調査結果(公立)	1
1 実技に関する調査結果概要	2
2 運動習慣等に関する調査結果概要	6
3 生活習慣等に対する調査結果概要	11
4 運動やスポーツ，体育・保健体育の授業に関する調査結果概要	13
5 児童生徒の回答と体力合計点とのクロス集計	19
6 学校質問紙から	22
7 全体考察	27
8 改善のポイント	28

県全体の調査結果〔公立〕

本県の調査実施状況

1 調査の期間

令和元年4月～7月末

2 調査の概要

- 調査方法：悉皆調査
- 対象学年：小学校第5学年，特別支援学校小学部第5学年
中学校第2学年，特別支援学校中学部第2学年
※ 小・中学校にはそれぞれ義務教育学校を含む。
- 調査事項
 - 児童生徒に関する調査
 - ・ 実技に関する調査：小・中学校ともに8項目の実技調査
① 握力 ② 上体起こし ③ 長座体前屈 ④ 反復横とび
⑤ 20mシャトルラン（中学校は持久走との選択）
⑥ 50m走 ⑦ 立ち幅跳び ⑧ ボール投げ
 - ・ 運動習慣や生活習慣，運動への興味・関心等に関する調査
 - 学校に対する質問紙調査
 - ・ 子供の体力・運動能力，運動習慣等の向上に係る取組等に関する調査

3 本県調査参加校及び参加児童生徒数

○ 小学校	： 495校	14,887人
○ 中学校	： 217校	13,338人
計		712校 28,225人

※ 小学校，中学校にはそれぞれ義務教育学校，特別支援学校を含む。

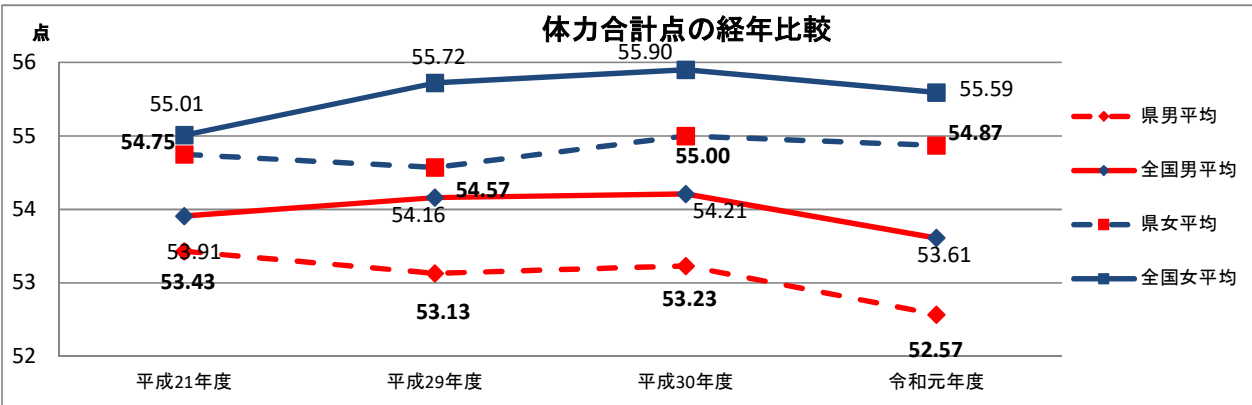
1 実技に関する調査結果概要

(1) 本県の体力合計点に関する調査の結果

ア【小学校】 過去最低は下線 過去最高は色塗り

小学校		平成21年度			平成29年度			平成30年度			令和元年度		
		県平均	全国平均	県平均の全国平均との差	県平均	全国平均	県平均の全国平均との差	県平均	全国平均	県平均の全国平均との差	県平均	全国平均	県平均の全国平均との差
小学校	5年男子	53.43	53.91	-0.48	53.13	54.16	-1.03	53.23	54.21	-0.98	52.57	53.61	-1.04
	5年女子	54.75	55.01	-0.26	54.57	55.72	-1.15	55.00	55.90	-0.90	54.87	55.59	-0.72

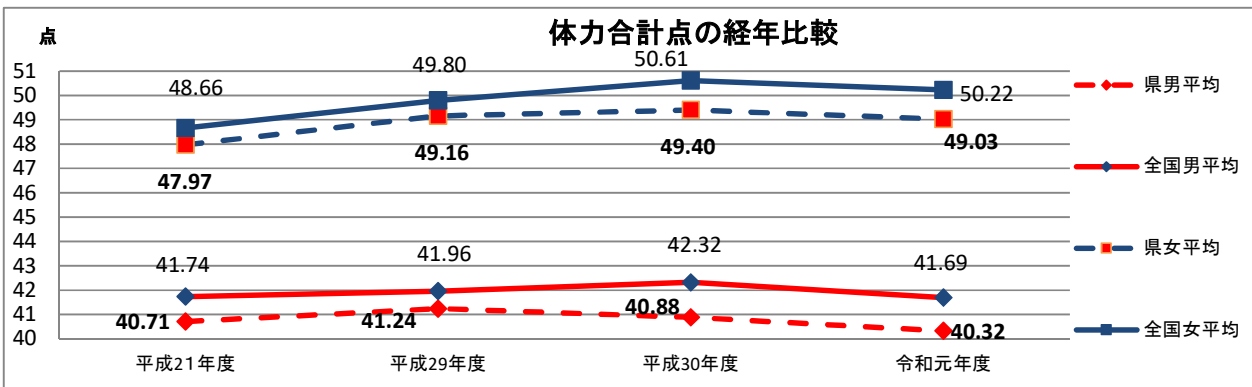
※ 体力合計点考察コメント(スポーツ庁)
 ±1点以上:高(低)い ±0.5~1点未満:わずかに高(低)い ±0.5点未満:ほとんど差がない



〈現状及び課題〉
 ○ 全国平均と比較すると、男子が「低い」、女子が「わずかに低い」結果となった。
 ○ 昨年度と比較すると、男女共に低くなった。
 ○ 男子は、調査開始以降で最も低くなった。

イ【中学校】 過去最低は下線 過去最高は色塗り

中学校		平成21年度			平成29年度			平成30年度			令和元年度		
		県平均	全国平均	県平均の全国平均との差	県平均	全国平均	県平均の全国平均との差	県平均	全国平均	県平均の全国平均との差	県平均	全国平均	県平均の全国平均との差
中学校	2年男子	40.71	41.74	-1.03	41.24	41.96	-0.72	40.88	42.32	-1.44	40.32	41.69	-1.37
	2年女子	47.97	48.66	-0.69	49.16	49.80	-0.64	49.40	50.61	-1.21	49.03	50.22	-1.19



〈現状及び課題〉
 ○ 全国平均と比較すると男女とも「低い」結果となった。
 ○ 県平均と全国平均との差については、昨年度とほとんど変わらないが、平成29年度と比べると広がっている状況である。

(2) 体力合計点の度数分布

体力合計点の度数分布のグラフについて

※ 体力合計点の総合評価は、実技項目(8項目)の記録を、1点から10点に得点化し、その8項目の合計点をA, B, C, D, Eの段階に区分したものです。

○小学校 A:65以上 B:58~64 C:50~57 D:42~49 E:41以下

○中学校 A:57以上 B:47~56 C:37~46 D:27~36 E:26以下

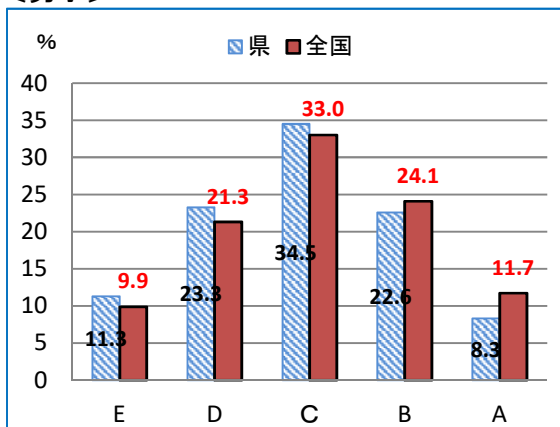
※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示しています。

※ 体力合計点考察コメント(スポーツ庁)

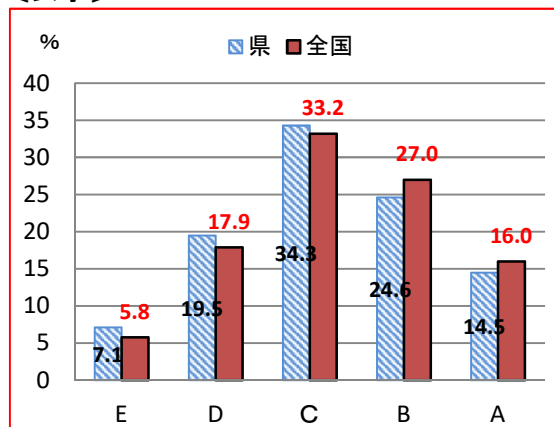
±1点以上:高(低)い ±0.5~1点未満:わずかに高(低)い ±0.5点未満:ほとんど差がない

ア【小学校】

[男子]



[女子]

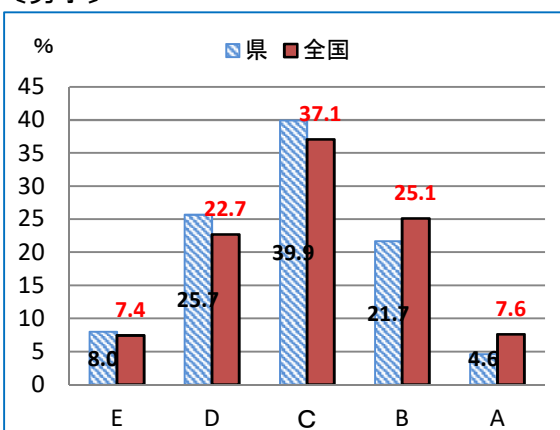


〈現状と課題〉

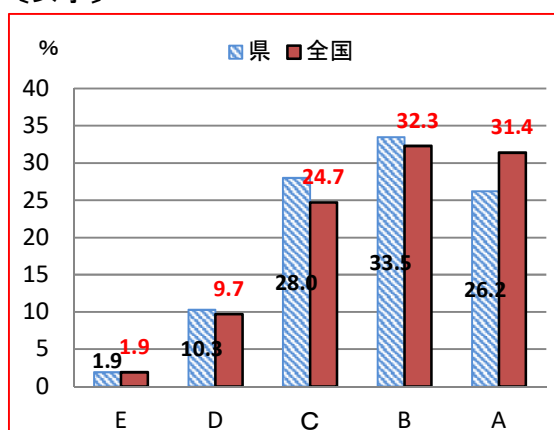
男女ともC, D, Eの割合が全国よりも高く, A, Bの割合が全国より低い。

イ【中学校】

[男子]



[女子]



〈現状と課題〉

男女ともC, Dの割合が全国よりも高く, Aの割合が全国より低い。

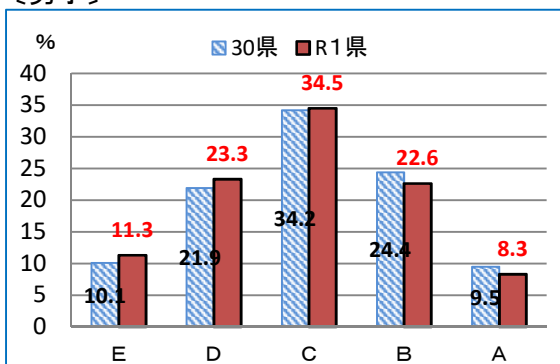
(3) 体力合計点の度数分布の前年度との比較

ア【小学校】

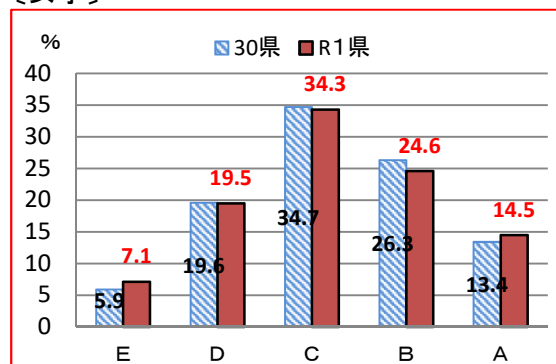
※ AB-DE値について

全体的な体力の状況をとらえる指標の1つで、体力合計点Cをはさんで、Cよりも高いABとCよりも低いDEの差をみるものである。

〔男子〕



〔女子〕



〔男子〕

	A	B	D	E	AB-DE値	増減
30年度	9.5	24.4	21.9	10.1	1.9	
R1年度	8.3	22.6	23.3	11.3	-3.7	↓

〔女子〕

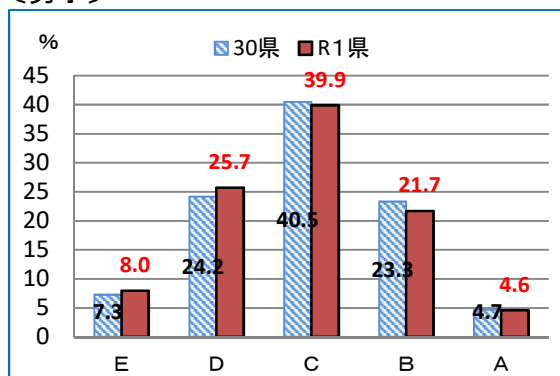
	A	B	D	E	AB-DE値	増減
30年度	13.4	26.3	19.6	5.9	14.2	
R1年度	14.5	24.6	19.5	7.1	12.5	↓

〈現状と課題〉

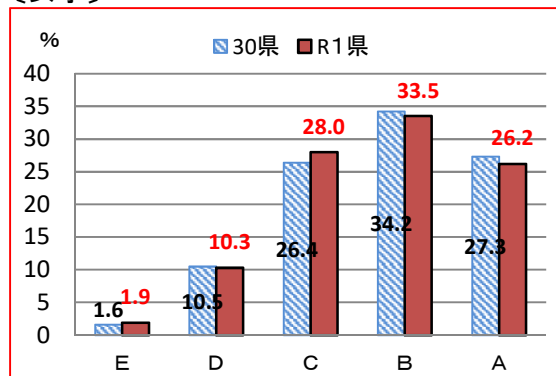
AB-DE値を前年度と比較すると、特に男子がマイナスポイントとなり、課題である。

イ【中学校】

〔男子〕



〔女子〕



〔男子〕

	A	B	D	E	AB-DE値	増減
30年度	4.7	23.3	24.2	7.3	-3.5	
R1年度	4.6	21.7	25.7	8.0	-7.4	↓

〔女子〕

	A	B	D	E	AB-DE値	増減
30年度	27.3	34.2	10.5	1.6	49.4	
R1年度	26.2	33.5	10.3	1.9	47.5	↓

〈現状と課題〉

- 男子は、AB-DE値がマイナスポイントとなっており、前年度よりマイナスポイントの数値が高くなっている。
- 女子は、前年度と同様、AB-DE値が高い数値となっており、体力向上が伺える。

(4) 各実技調査項目のT得点結果について

各実技調査項目のグラフについて

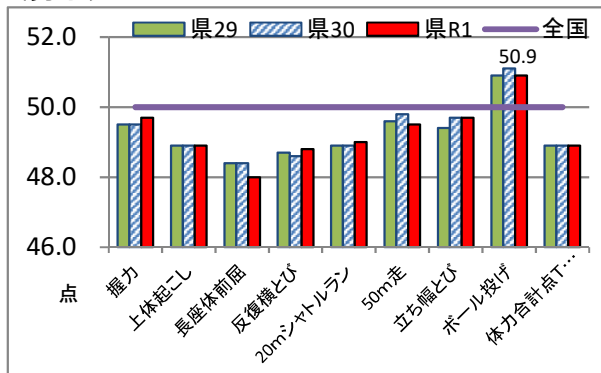
※ 実技調査項目は、握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン(中学校は、持久走との選択)、50m走、立ち幅とび、ボール投げの8項目、及び体力合計点のT得点を示したものです。

※ T得点とは、全国平均値に対する相対的な位置を示し、単位や標準偏差が異なる調査結果を比較するものです。平均値50点、標準偏差10点の標準得点。「T得点=50+10×(調査結果-平均値)/標準偏差」で算出します。

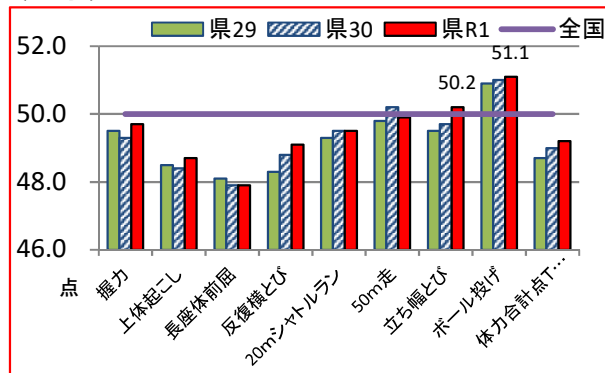
※ グラフ上の50.0の目盛り線は、全国のT得点を表しています。

ア【小学校】

〔男子〕



〔女子〕

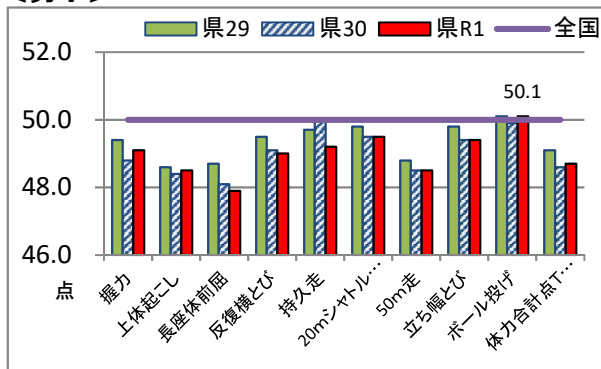


〈現状及び課題〉

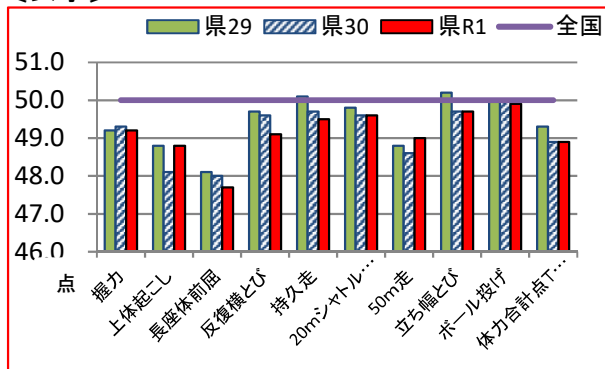
- T得点50以上の項目は、ボール投げ(男女)と立ち幅跳び(女子)である。
- 前年度から向上した項目数は、男子が3項目、女子が6項目である。
- T得点49以下の項目については、男子が4項目、女子が2項目である。特に長座体前屈は、男女ともに5年連続T得点49以下であり、柔軟性に課題がある。

イ【中学校】

〔男子〕



〔女子〕



〈現状及び課題〉

- T得点50以上の実技調査項目は、男子のボール投げのみである。
- 前年度から向上した項目数は、男子が4項目、女子が1項目である。
- 上体起こし、長座体前屈のT得点は、男女ともに4年連続して49以下であり、筋パワー・筋持久力及び柔軟性に課題がある。

2 運動習慣等に関する調査結果概要

運動時間(曜日別)グラフについて

※ 運動時間は、学校の体育の授業(保健体育)の授業以外で運動(体を動かす遊びを含む※注)やスポーツをした時間です。

※注(体を動かす遊びを含む)の文言は、平成26年度の質問から追加されたものです。

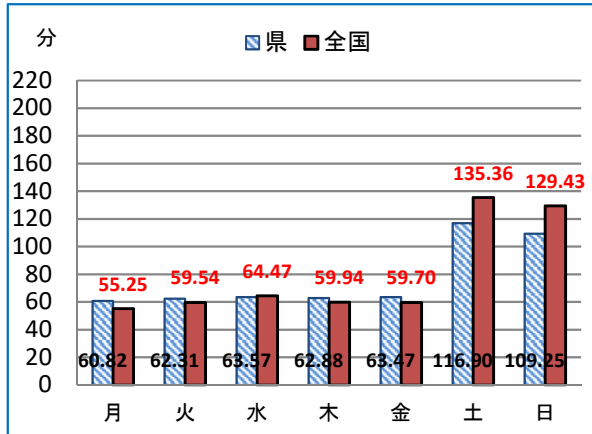
※ グラフの横軸は、曜日を示しています。

※ グラフの縦軸は、それぞれの運動時間(分)を示しています。

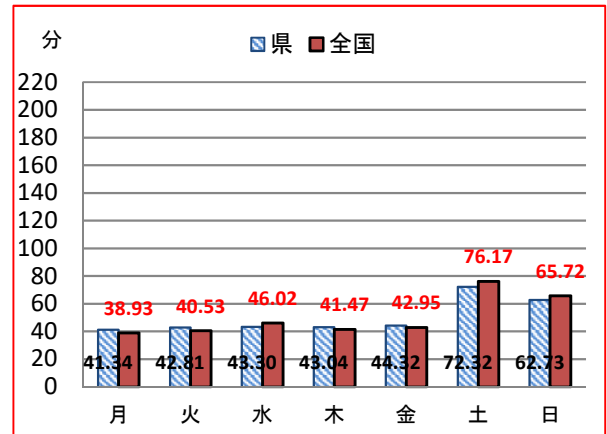
(1) 1週間の運動時間に関する全国との比較

ア【小学校】

〔男子〕



〔女子〕

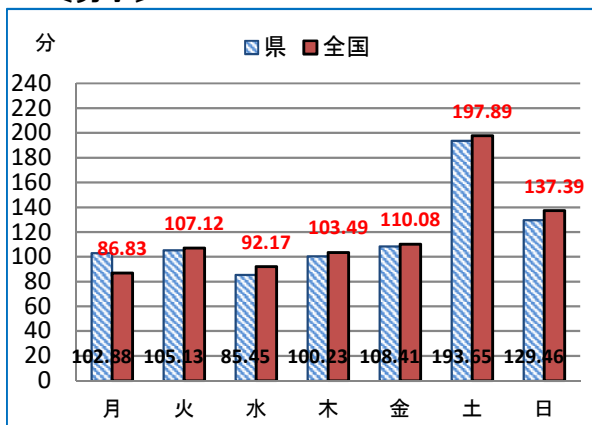


〈現状及び課題〉

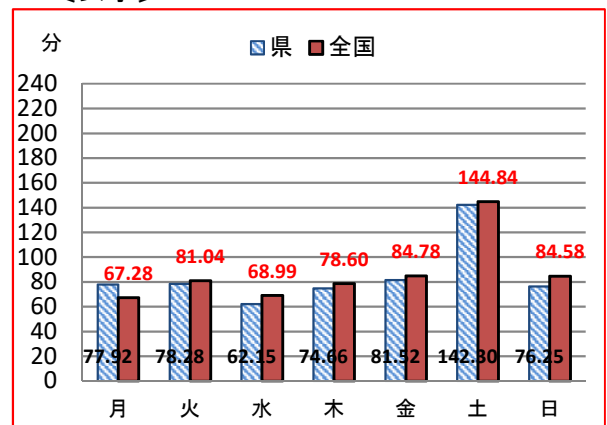
男女とも月～金曜日は全国よりも長いがほとんど差が見られないが、土・日曜日は全国より短くなっている。特に、男子の差が大きい。

イ【中学校】

〔男子〕



〔女子〕



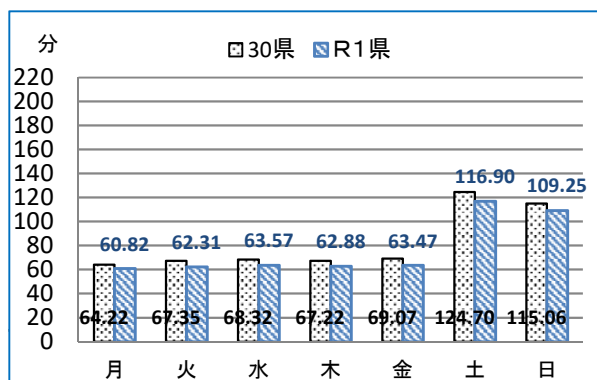
〈現状及び課題〉

- 男女とも月曜日は全国より長いですが、火曜日から金曜日まではほとんど差が見られない。
- 土曜日・日曜日については、男女とも全国より短くなっている。

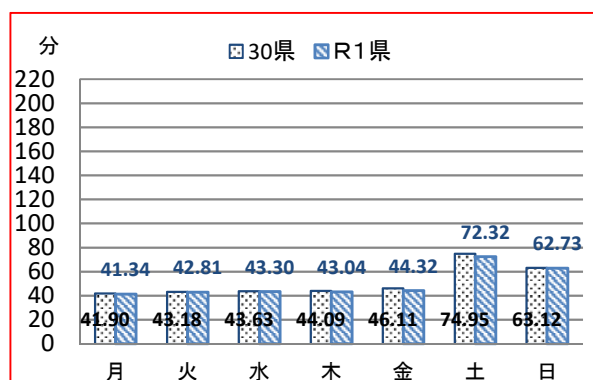
(2) 1週間の運動時間に関する前年度との比較

ア【小学校】

〔男子〕



〔女子〕

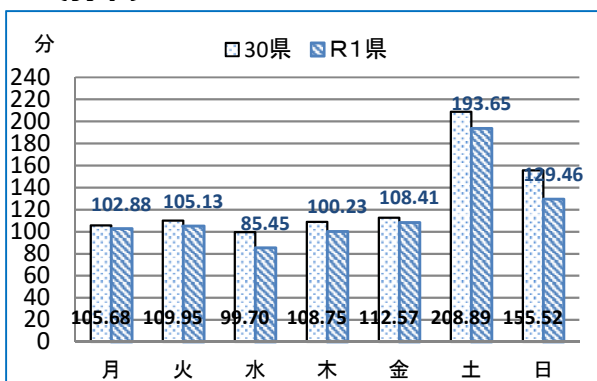


〈現状及び課題〉

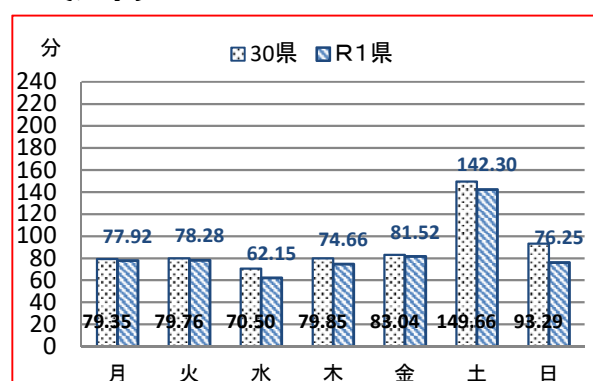
男女ともに、全ての曜日で前年度より運動時間が短くなっている。特に男子の土・日が短くなっている。

イ【中学校】

〔男子〕



〔女子〕

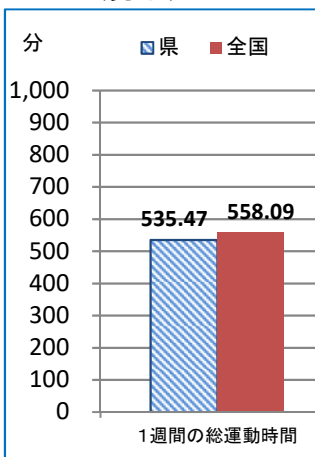


〈現状及び課題〉

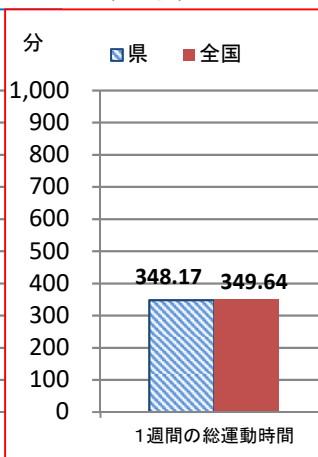
男女ともに、全ての曜日で前年度より運動時間が短くなっている。特に土・日が短くなっている。

(3) 1週間の総運動時間における全国との比較

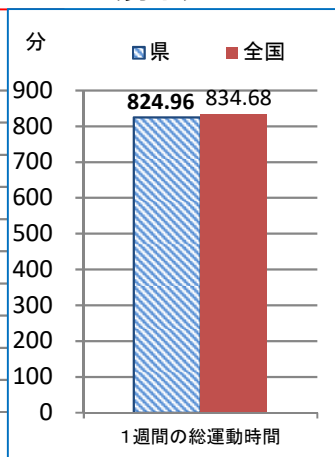
ア【小学校】
〔男子〕



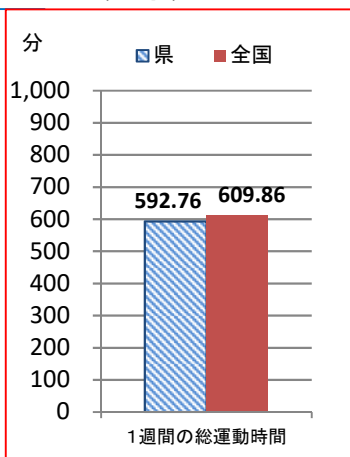
〔女子〕



イ【中学校】
〔男子〕



〔女子〕



〈現状及び課題〉

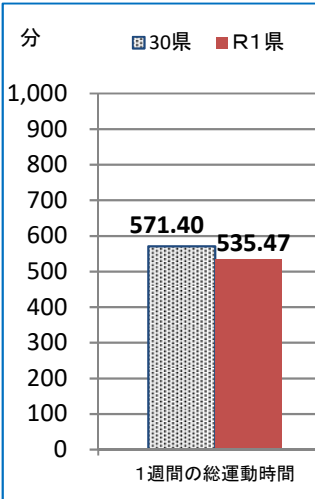
スポーツ庁の考察コメントに基づくと、小学校男子は全国平均よりわずかに短くなっているが、小学校女子、中学校男女は、全国とほとんど差がない状況である。数値で比較すると、いずれの学年も全国より短くなっている。

※ 1週間の総運動時間(分)の考察コメント(スポーツ庁)

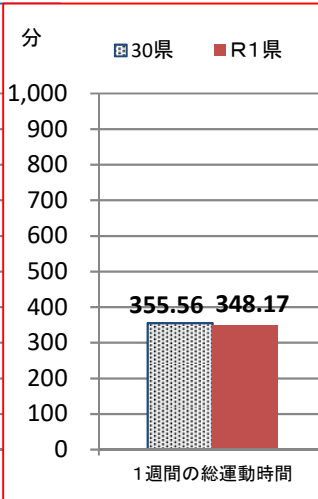
±35分以上:長(短)い ±21分~±35分未満:わずかに長(短)い ±21分未満:ほとんど差がない

(4) 1週間の総運動時間の前年度との比較

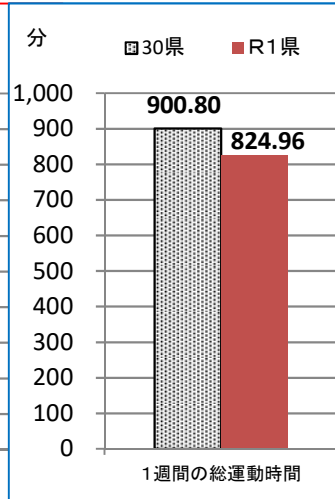
ア【小学校】
〔男子〕



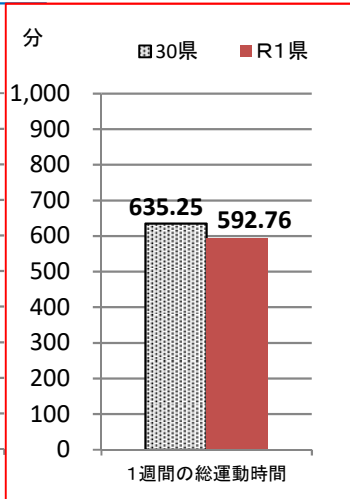
〔女子〕



イ【中学校】
〔男子〕



〔女子〕



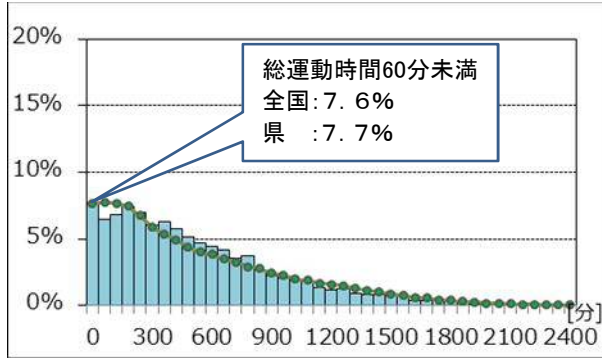
〈現状及び課題〉

小学校女子は「ほとんど差がない」状況であるが、小学校男子、中学校男女ともに、前年度より「短い」結果となった。

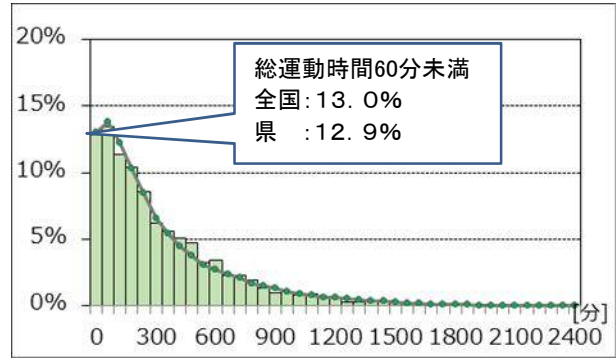
(5) 1週間の総運動時間(体育の授業を除く)の分布

ア【小学校】

〔男子〕

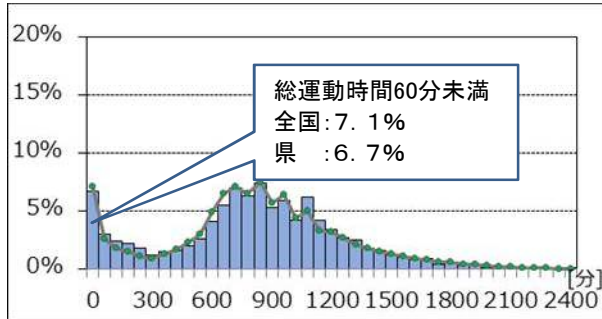


〔女子〕

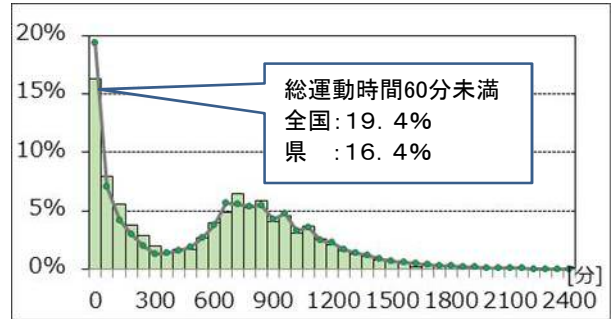


イ【中学校】

〔男子〕



〔女子〕



※折れ線グラフは、全国(公立学校)の分布

校種	男女	全国・県	0分	60分未満	60分～420分未満	0分～420分未満計
小学校 第5学年	男子	県	3.6%	4.1%	39.9%	47.6%
		全国	3.6%	4.0%	40.8%	48.4%
	女子	県	4.4%	8.5%	55.7%	68.6%
		全国	4.7%	8.3%	56.9%	69.9%
中学校 第2学年	男子	県	4.7%	2.0%	12.2%	18.9%
		全国	5.2%	1.9%	9.4%	16.5%
	女子	県	9.8%	6.6%	23.6%	40.0%
		全国	13.0%	6.4%	18.9%	38.3%

〈現状及び課題〉

- 本県児童生徒の1週間の総運動時間の分布は、おおむね全国と同じ傾向である。
- 総運動時間420分未満の割合については、小学校男女は全国平均より低く、中学校男女は全国より高くなっている。

(6) 1週間の総運動時間420分未満及び420分以上の児童生徒の推移

					前年度比減	前年度比増
	年度	0分	1～60分未満	60～420分未満	0～420分未満計	420分以上
小学校 第5学年男	28	2.4%	3.4%	36.8%	42.6%	57.3%
	29	2.1%	3.2%	36.8%	42.1%	57.9%
	30	2.8%	3.4%	38.2%	44.4%	55.6%
	R1	3.6%	4.1%	39.9%	47.6%	52.4%
小学校 第5学年女	28	3.7%	7.8%	52.4%	63.9%	36.1%
	29	2.9%	7.4%	54.2%	64.5%	35.5%
	30	3.7%	7.9%	55.2%	66.8%	33.2%
	R1	4.4%	8.5%	55.7%	68.6%	31.4%
中学校 第2学年男	28	3.9%	1.6%	10.7%	16.2%	83.9%
	29	3.6%	1.5%	9.1%	14.2%	85.8%
	30	4.7%	1.6%	10.7%	17.0%	83.0%
	R1	4.7%	2.0%	12.2%	18.9%	81.1%
中学校 第2学年女	28	11.2%	5.4%	21.5%	38.1%	62.0%
	29	10.3%	5.6%	21.2%	37.1%	62.9%
	30	10.8%	5.3%	22.6%	38.7%	61.3%
	R1	9.8%	6.6%	23.6%	40.0%	60.0%

〈現状及び課題〉

- 1週間の総運動時間が0～420分未満の割合が増え、420分以上の割合が減る傾向が見られる。
- 1週間の総運動時間が0分の児童生徒については、特に中学校女子の割合が依然として高い状況である。

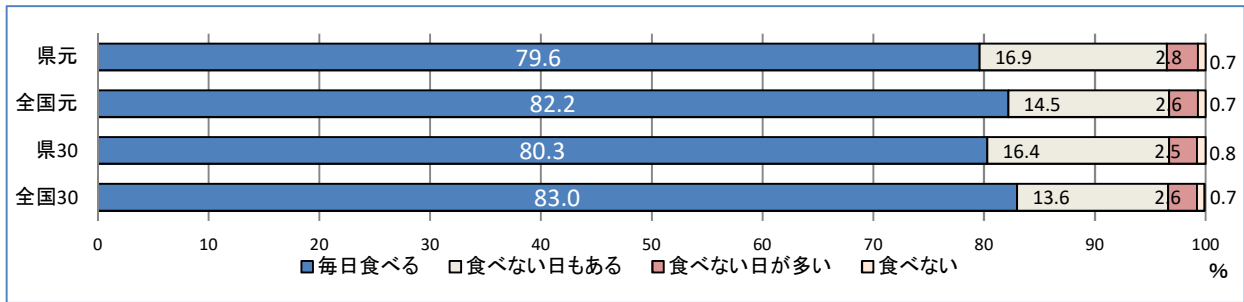
3 生活習慣等に関する調査結果概要

(1) 朝食の摂取状況(学校が休みの日も含める)の結果

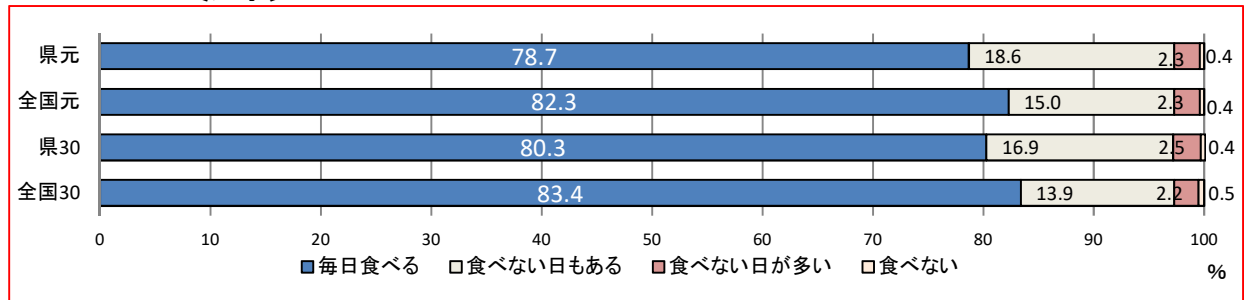
※ 質問紙調査考察コメントの基準(文部科学省)

±2%以上:高(低)い ±1%~±2%未満:わずかに高(低)い ±1%未満:ほとんど差がない

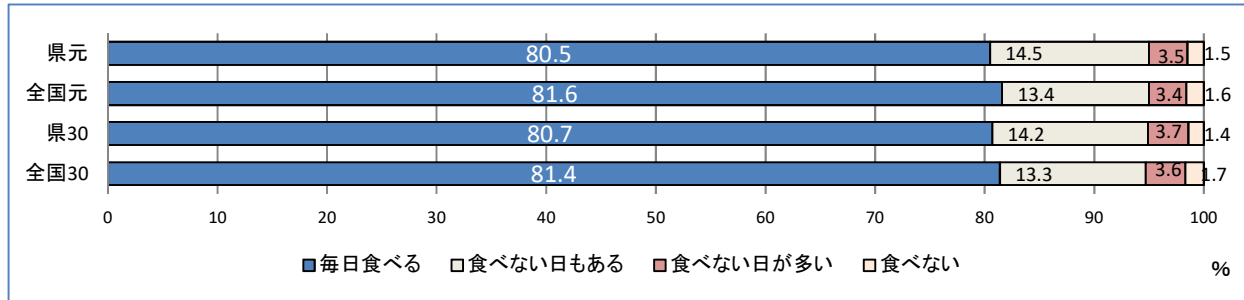
ア【小学校】[男子]



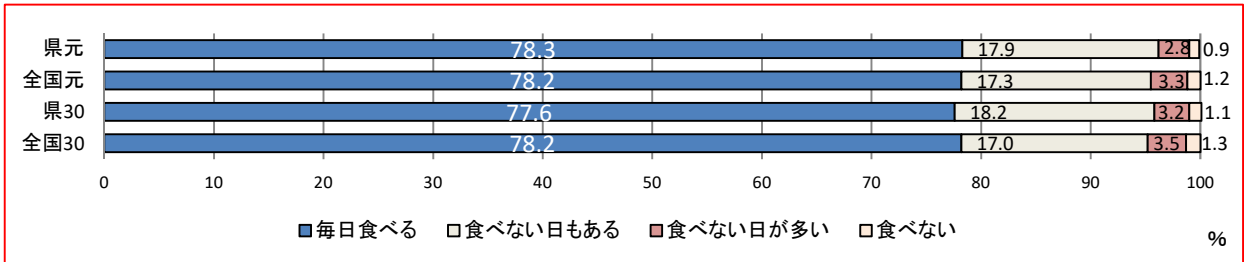
[女子]



イ【中学校】[男子]



[女子]



〈現状及び課題〉

【小学校】

○ 朝食を「毎日食べる」と回答した割合を全国平均と比較すると、男女とも低くなっている。

○ 県の前年度平均と比較すると「毎日食べる」と回答した割合は、男子はほとんど差がなく、女子はわずかに低い状況である。

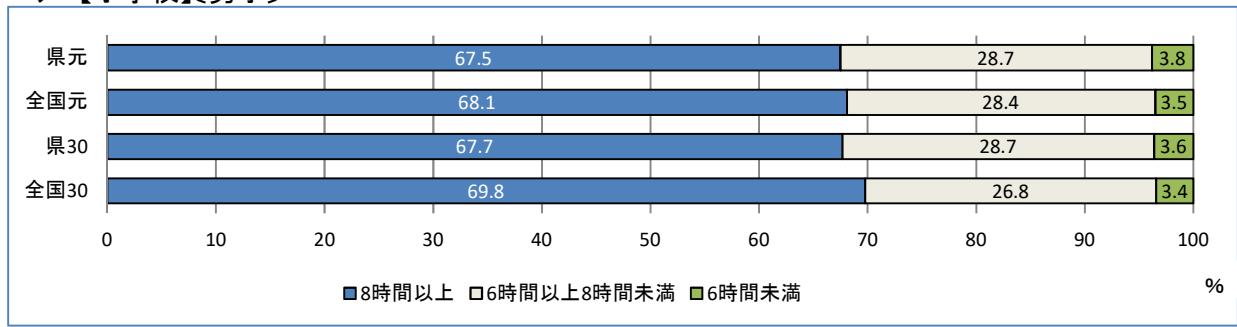
【中学校】

○ 朝食を「毎日食べる」と回答した割合を全国平均と比較すると、男子はわずかに低く、女子はほとんど差がない状況である。

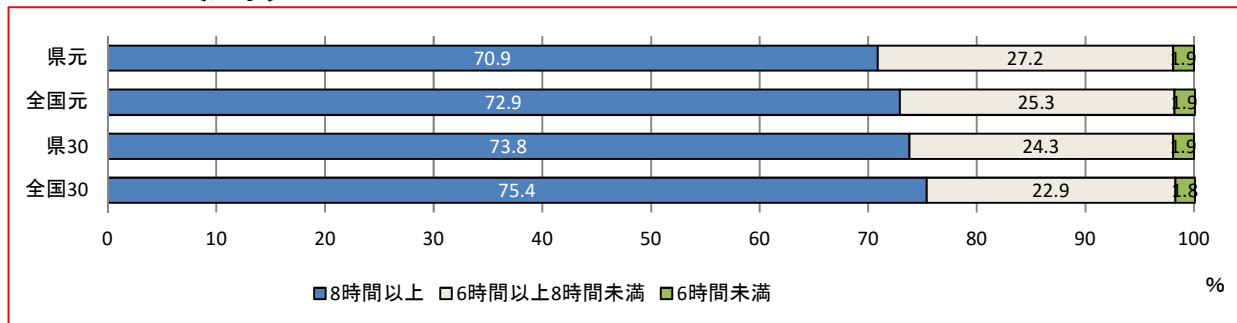
○ 県の前年度平均と比較すると「毎日食べる」と回答した割合は、男女ともほとんど差がない状況である。

(2) 1日の睡眠時間の結果

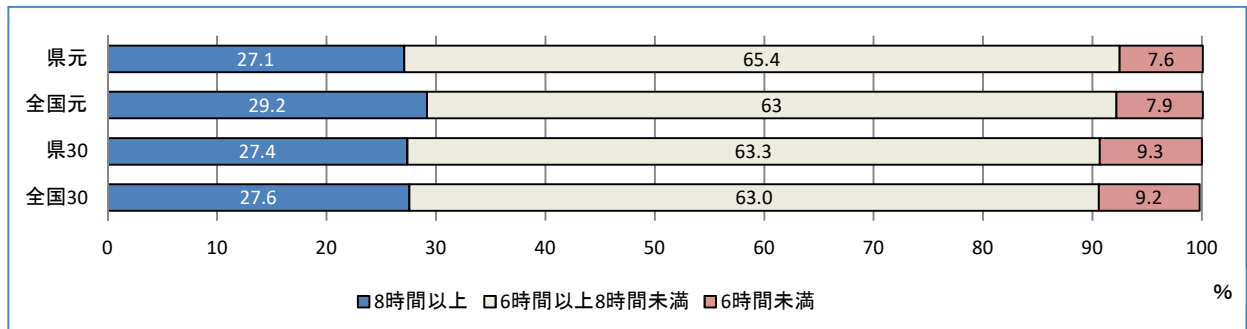
ア【小学校】〔男子〕



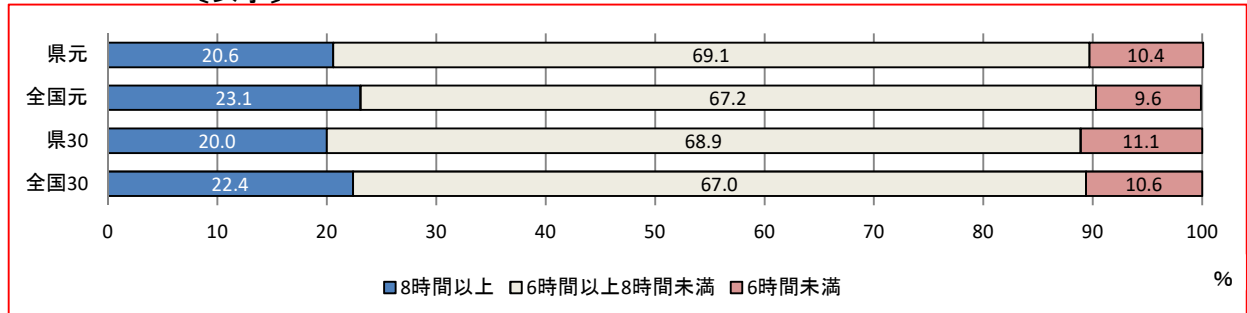
〔女子〕



イ【中学校】〔男子〕



〔女子〕



〈現状及び課題〉

【小学校】

- 睡眠時間が「8時間以上」と回答した割合を全国平均と比較すると、男子はほとんど差がないが、女子は低くなっている。
- 県の前年度平均と比較すると、「8時間以上」と回答した割合は、男子はほとんど差がないが、女子は低くなっている。

【中学校】

- 睡眠時間が「8時間以上」と回答した割合を全国平均と比較すると、男女ともに低くなっている。
- 県の前年度平均と比較すると、「8時間以上」と回答した割合は、男女ともにほとんど差がない。

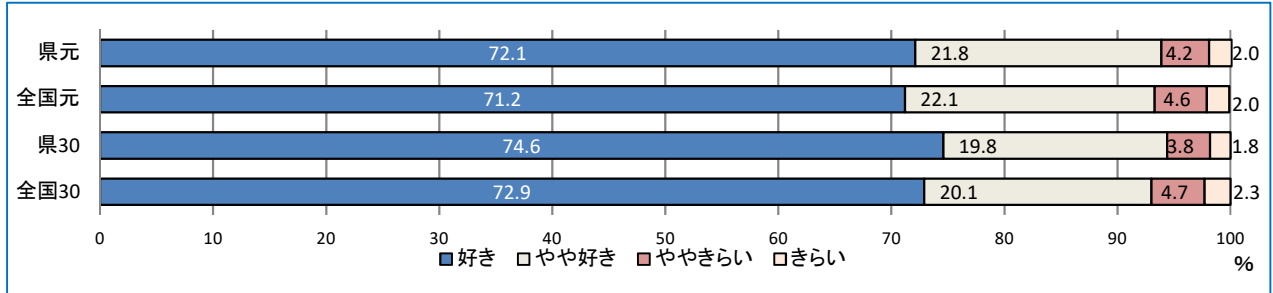
4 運動やスポーツ, 体育・保健体育の授業に関する調査結果概要

(1) 運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることの好き・嫌い

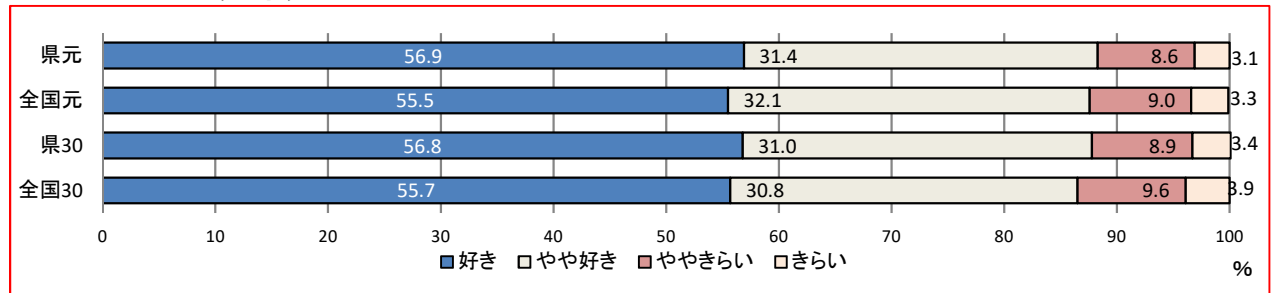
※ 質問紙調査考察コメントの基準(文部科学省)

±2%以上:高(低)い ±1%~±2%未満:わずかに高(低)い ±1%未満:ほとんど差がない

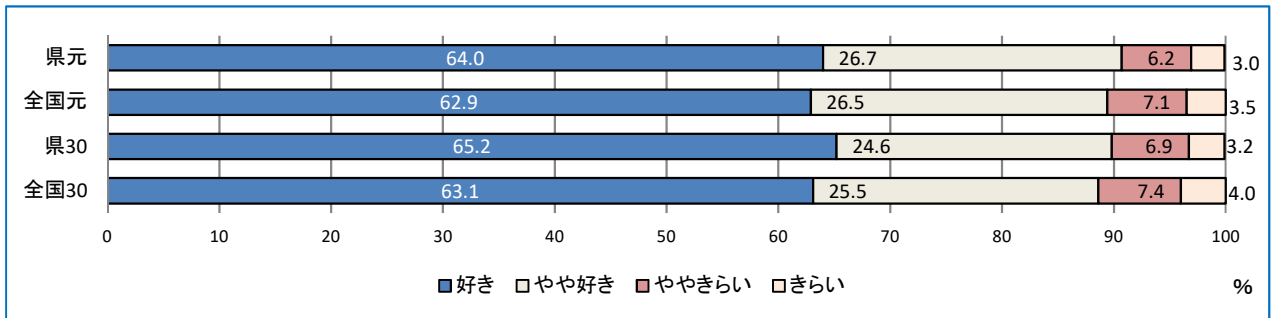
ア【小学校】〔男子〕



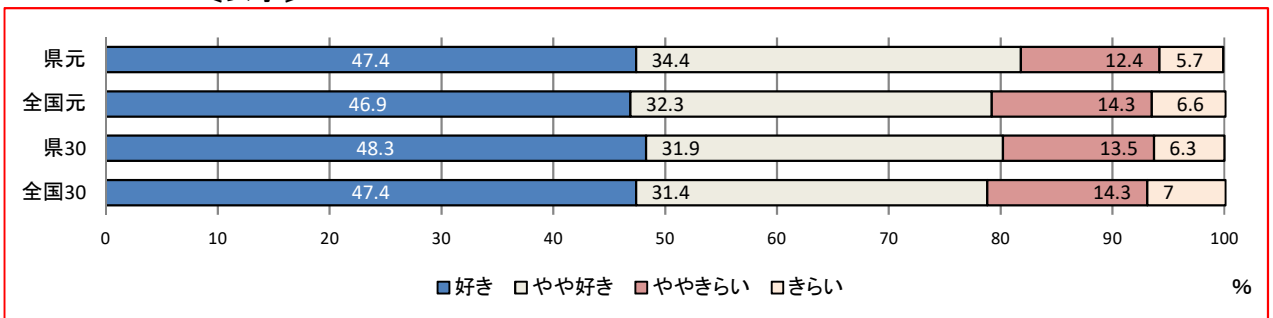
〔女子〕



イ【中学校】〔男子〕



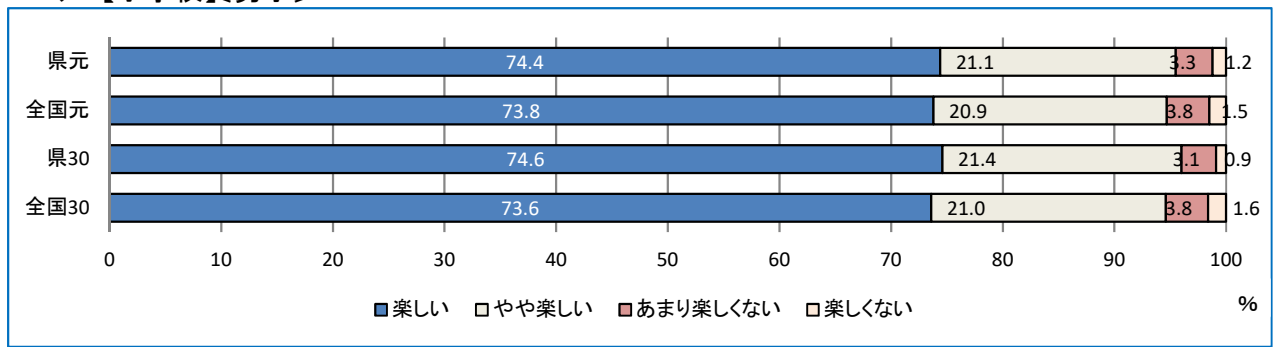
〔女子〕



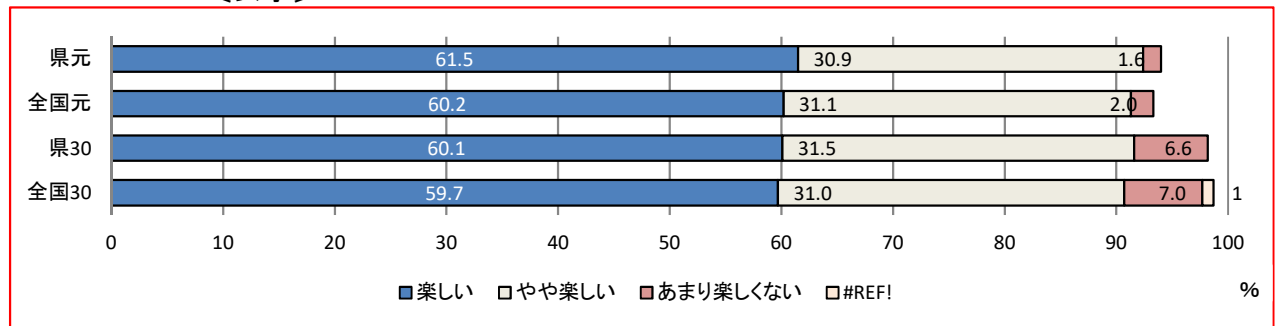
〈現状及び課題〉

- 運動やスポーツをすることが「好き」と回答した割合を全国平均と比較すると、小学校男子及び中学校女子はほとんど差がないが、小学校女子及び中学校男子はわずかに高くなっている。
- 前年度平均と比較すると、小学校女子、中学校女子は、ほとんど差がないが、小学校男子は低く、中学校男子はわずかに低くなっている。

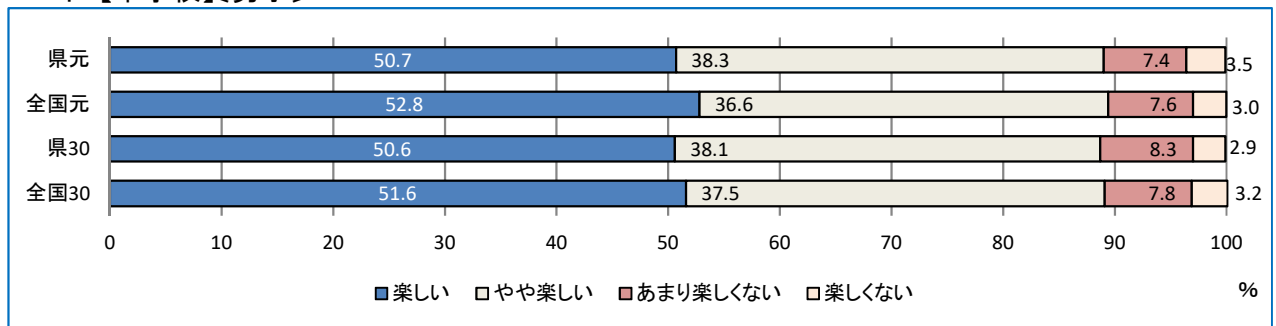
(2) 体育(保健体育)の授業が楽しいか
ア【小学校】[男子]



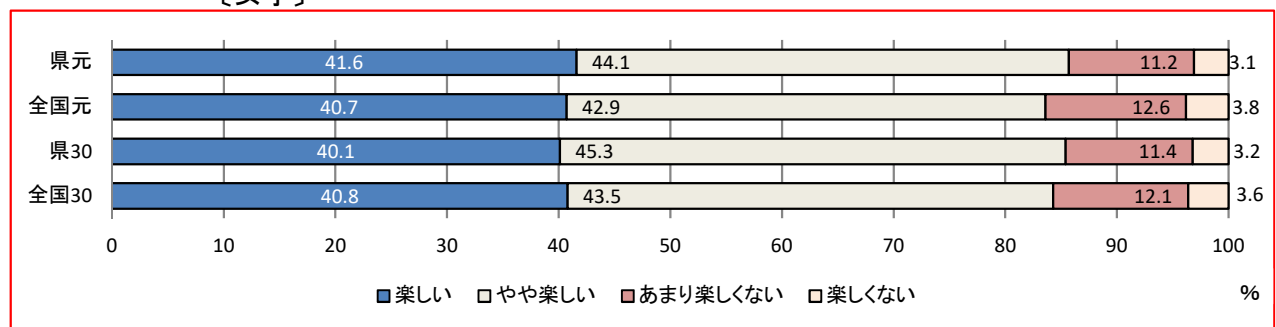
〔女子〕



イ【中学校】[男子]



〔女子〕



〈現状及び課題〉

【小学校】

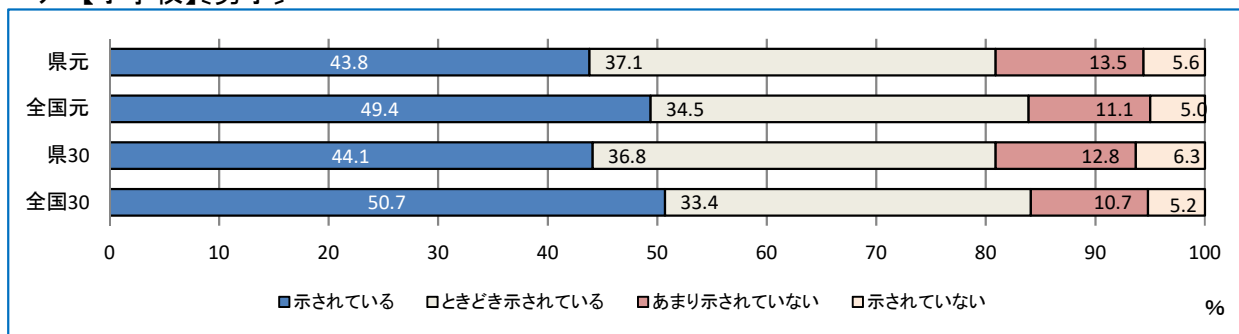
- 体育の授業が「楽しい」と回答している児童の割合を全国平均と比較すると、男子はほとんど差がなかったが、女子はわずかに高かった。
- 県の前年度平均と比較すると、男子はほとんど差がなかったが、女子はわずかに高くなった。

【中学校】

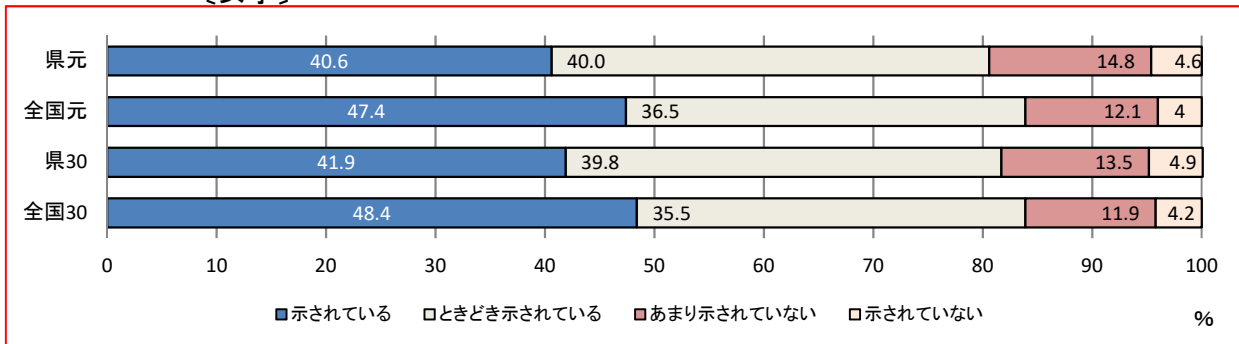
- 保健体育の授業が「楽しい」と回答している生徒の割合を全国平均と比較すると、男子は低く、女子はほとんど差がなかった。
- 県の前年度平均と比較すると、男子はほとんど差がなかったが、女子はわずかに高くなった。

(3) 体育(保健体育)の授業始めに目標が示されているか

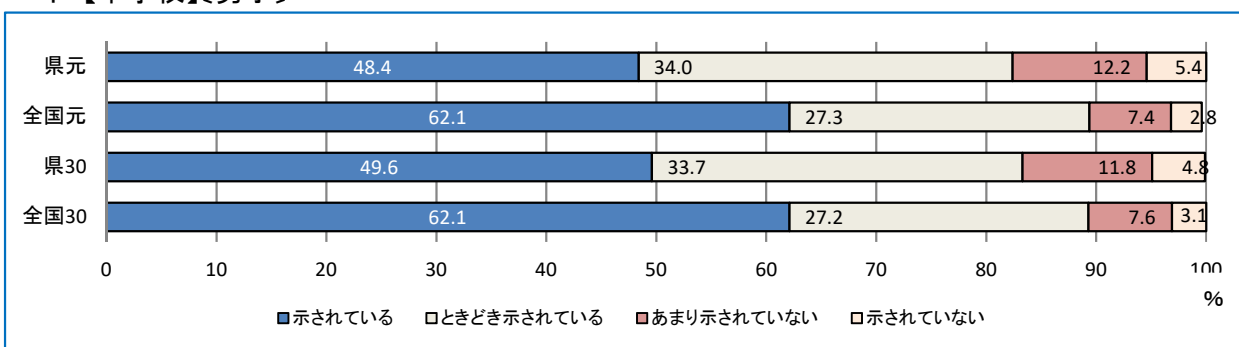
ア【小学校】〔男子〕



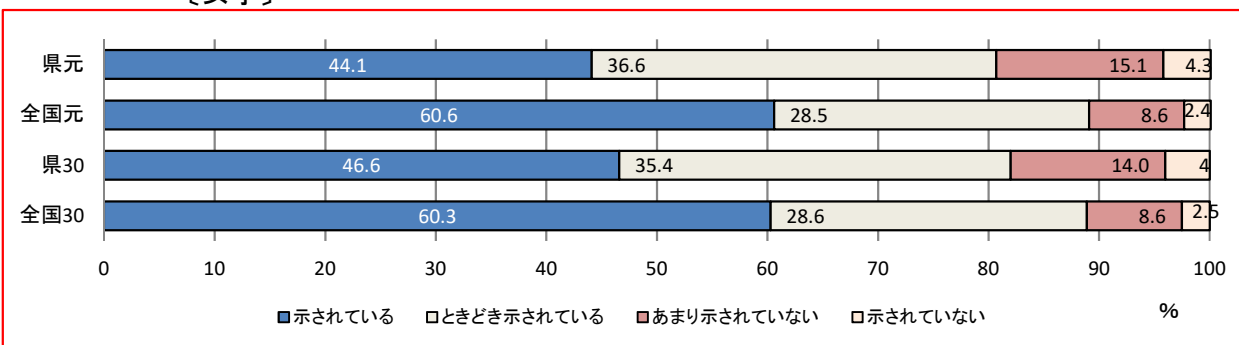
〔女子〕



イ【中学校】〔男子〕



〔女子〕



〈現状及び課題〉

【小学校】

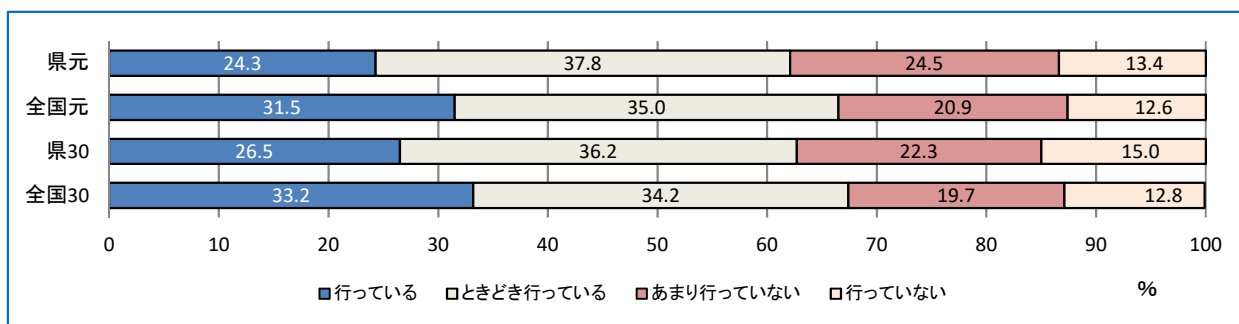
- 体育の授業の始めに「目標が示されている」と回答している児童の割合を全国平均と比較すると男女ともに低くなっている。
- 県の前年度平均と比較すると「目標が示されている」と回答した割合は、男子はほとんど差がなく、女子はわずかに低くなっている。

【中学校】

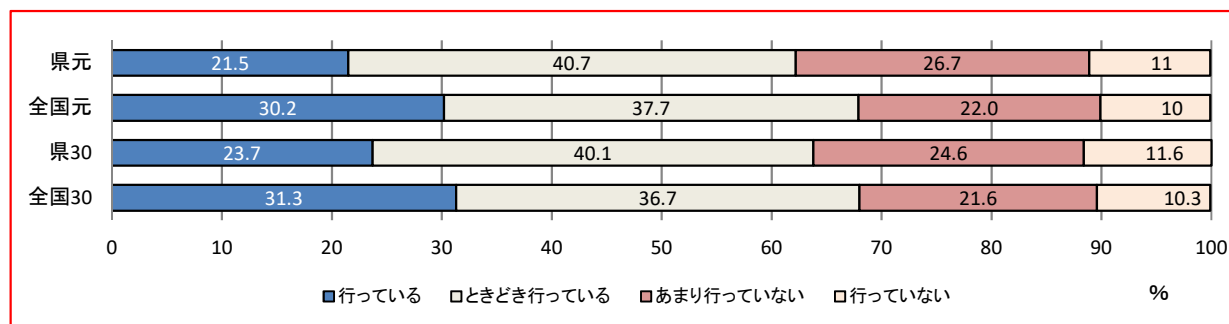
- 保健体育の授業の始めに「目標が示されている」と回答している生徒の割合を全国平均と比較すると、男女ともに低くなっている。
- 県の前年度平均と比較すると「目標が示されている」と回答した割合は、男子はわずかに低く、女子は低くなっている。

(4) 授業の最後に学習内容を振り返る活動を行っているか

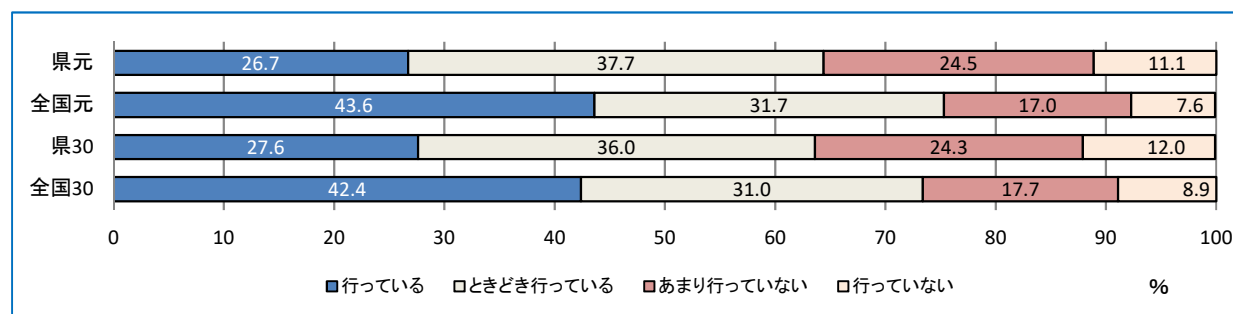
ア【小学校】〔男子〕



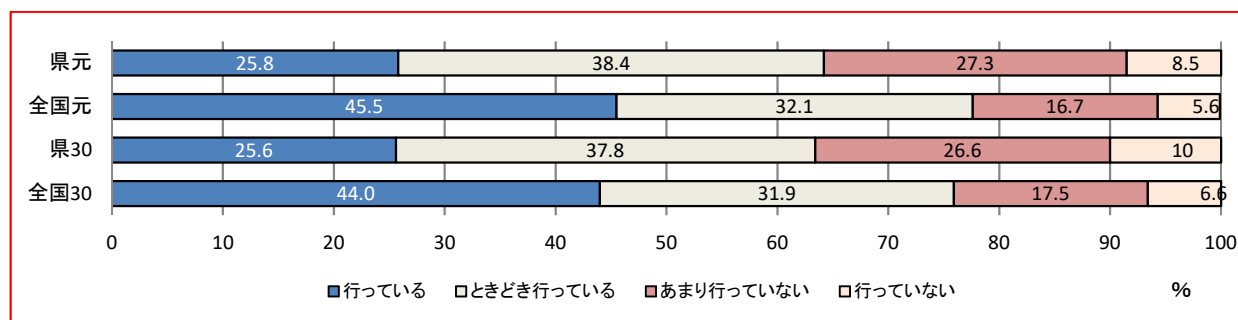
〔女子〕



イ【中学校】〔男子〕



〔女子〕



〈現状及び課題〉

【小学校】

○ 体育の授業の最後に「学習内容を振り返る活動を行っている」と回答している児童の割合を全国平均と比較すると、男女ともに低くなっている。

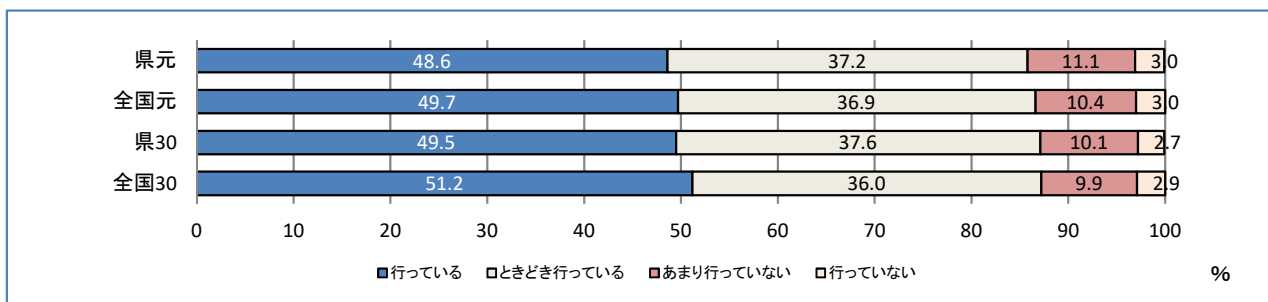
○ 県の前年度平均と比較すると「学習内容を振り返る活動を行っている」と回答した割合は、男女ともに低くなっている。

【中学校】

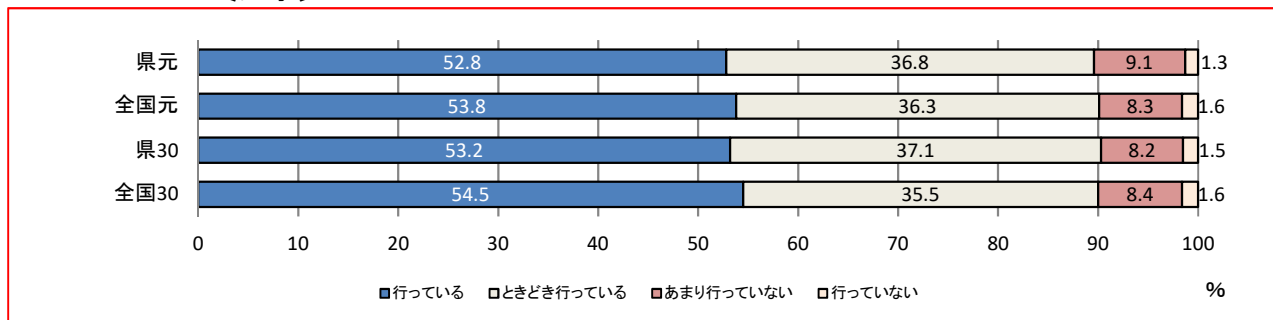
○ 保健体育の授業の最後に「学習内容を振り返る活動を行っている」と回答している生徒の割合を全国平均と比較すると、男女ともに低くなっている。

○ 県の前年度平均と比較すると「学習内容を振り返る活動を行っている」と回答した割合は、男女ともにほとんど差がなかった。

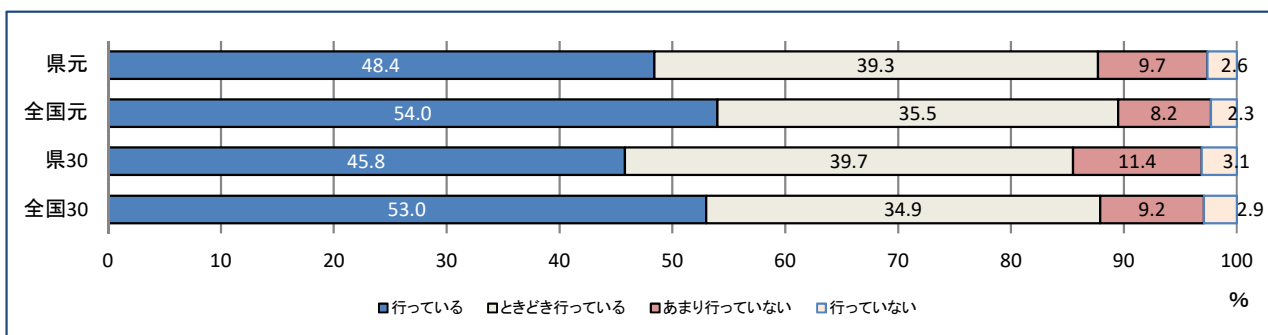
(5) 授業では友達と助け合い・役割を果たす活動を行っているか
ア【小学校】〔男子〕



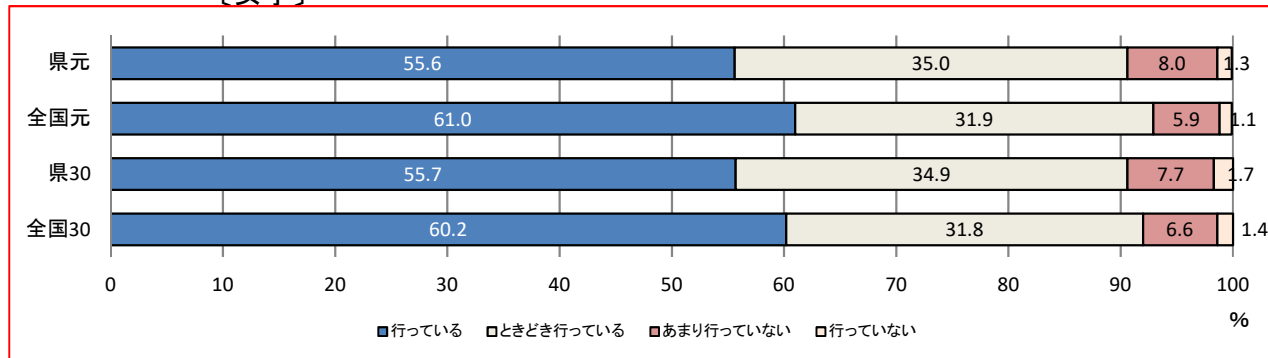
〔女子〕



イ【中学校】〔男子〕



〔女子〕



〈現状及び課題〉

【小学校】

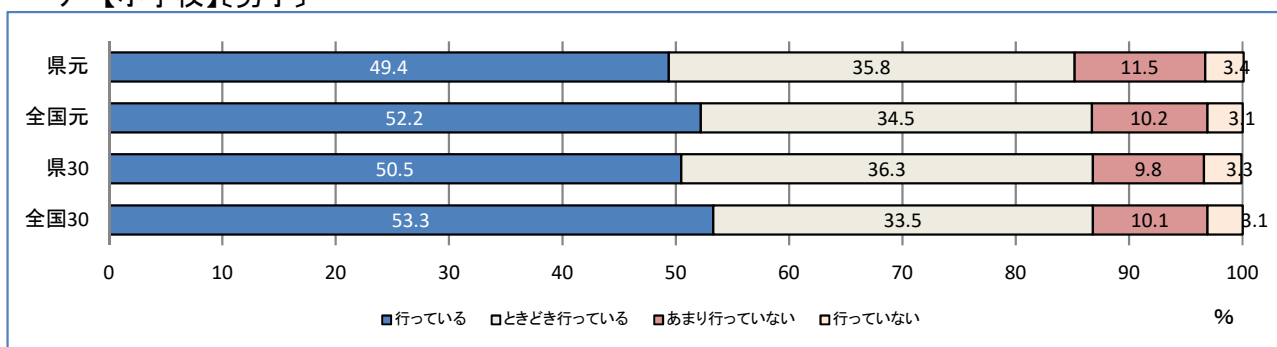
- 体育の授業で「友達と助け合う活動を行っている」と回答している児童の割合を全国平均と比較すると、男女ともわずかに低くなっている。
- 県の前年度の平均と比較すると、男女ともほとんど差がない。

【中学校】

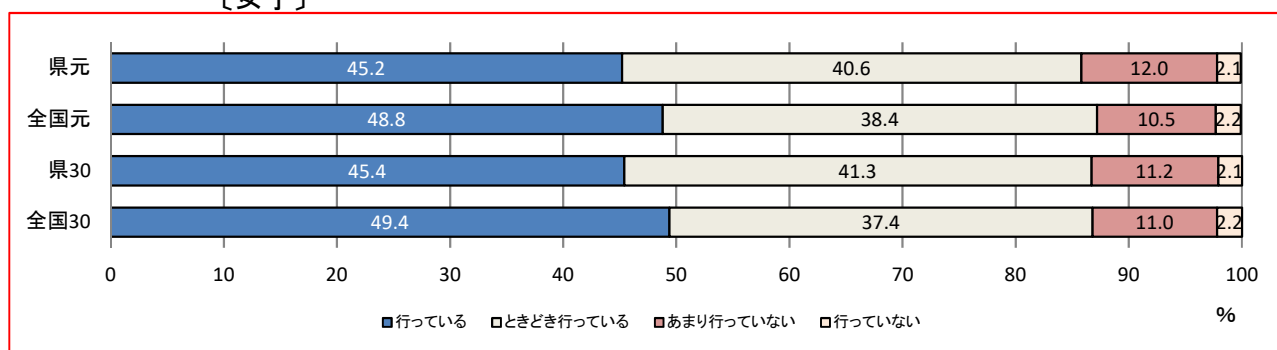
- 保健体育の授業で「友達と助け合う活動を行っている」と回答している生徒の割合を全国平均と比較すると、男女とも低くなっている。
- 県の前年度の平均と比較すると、男子は高くなっているが、女子はほとんど差がない。

(6) 授業では友達同士やチーム内で話し合う活動を行っているか

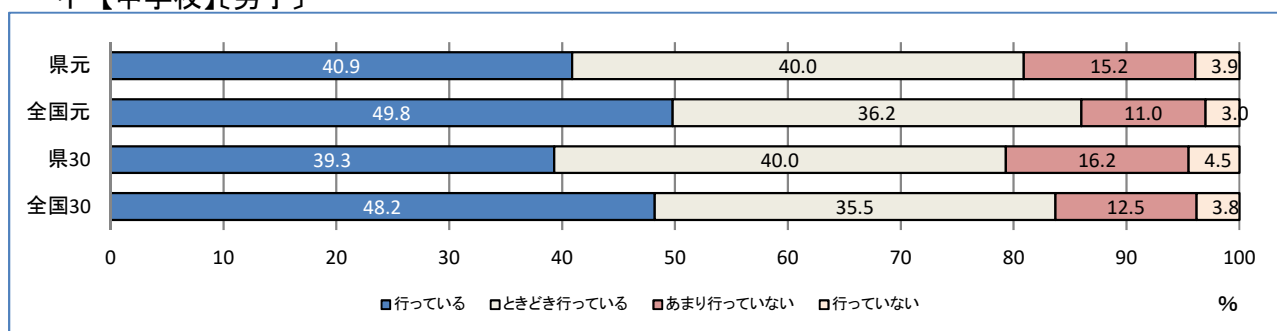
ア【小学校】〔男子〕



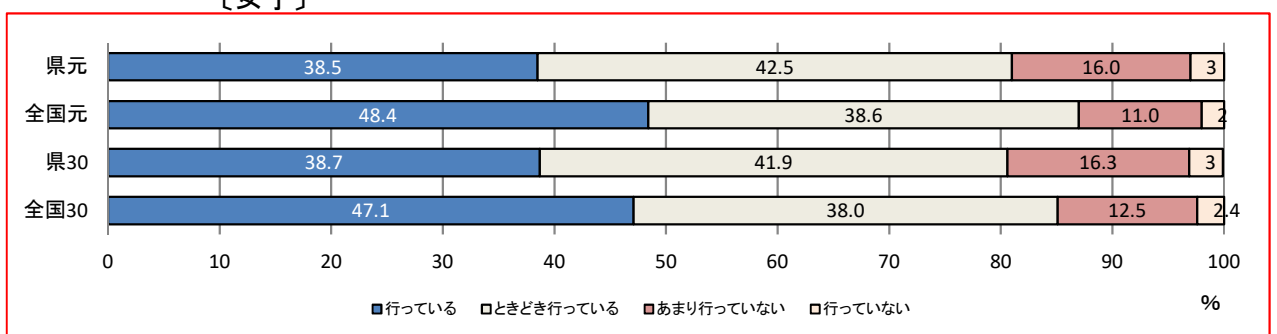
〔女子〕



イ【中学校】〔男子〕



〔女子〕



〈現状及び課題〉

【小学校】

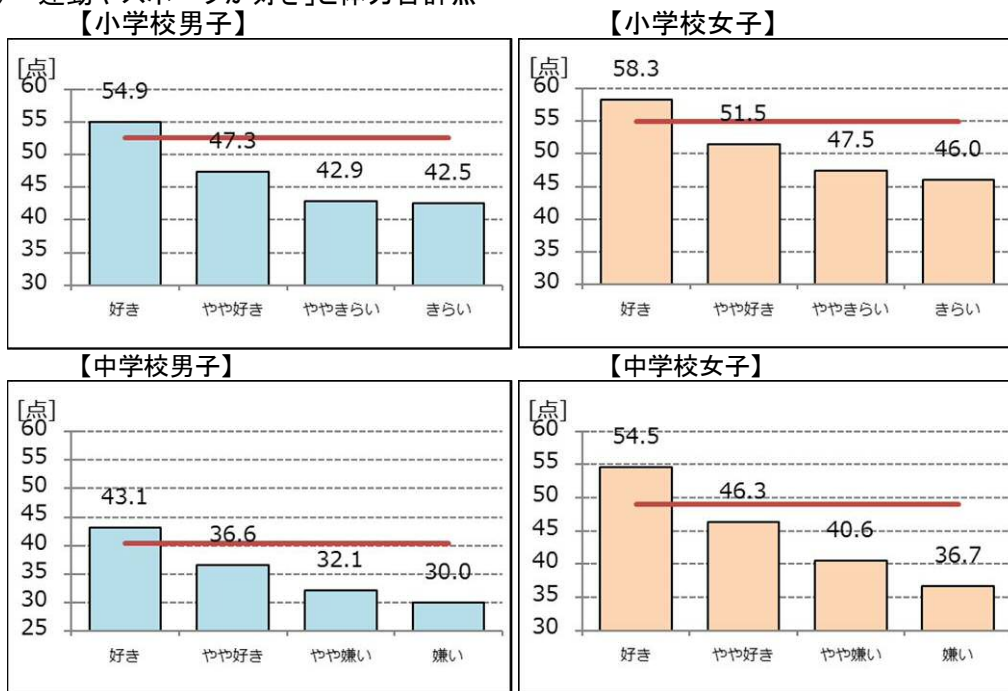
- 体育の授業で「友達同士やチーム内で話し合う活動を行っている」と回答している児童の割合を全国平均と比較すると男女とも低くなっている。
- 県の前年度の平均と比較すると、男子はわずかに低くなっているが、女子はほとんど差がなかった。

【中学校】

- 保健体育の授業で「友達同士やチーム内で話し合う活動を行っている」と回答している生徒の割合を全国平均と比較すると、男女とも低くなっている。
- 県の前年度の平均と比較すると、男子はわずかに高くなっているが、女子はほとんど差がなかった。

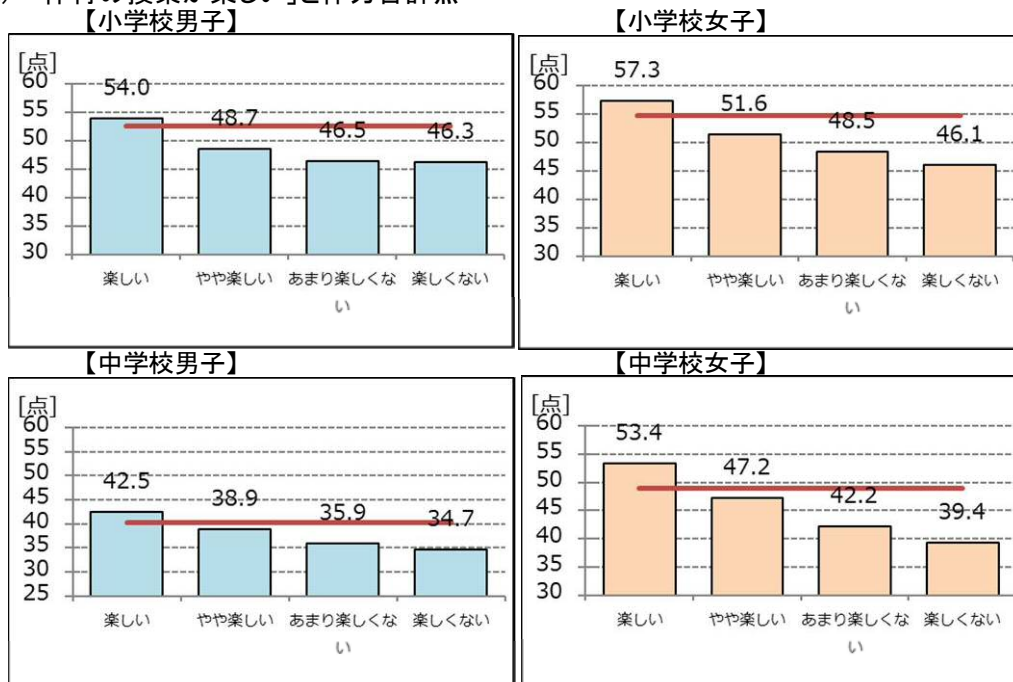
5 児童生徒の回答と体力合計点等とのクロス集計 ※グラフ内横線は県平均値

(1) 「運動やスポーツが好き」と体力合計点



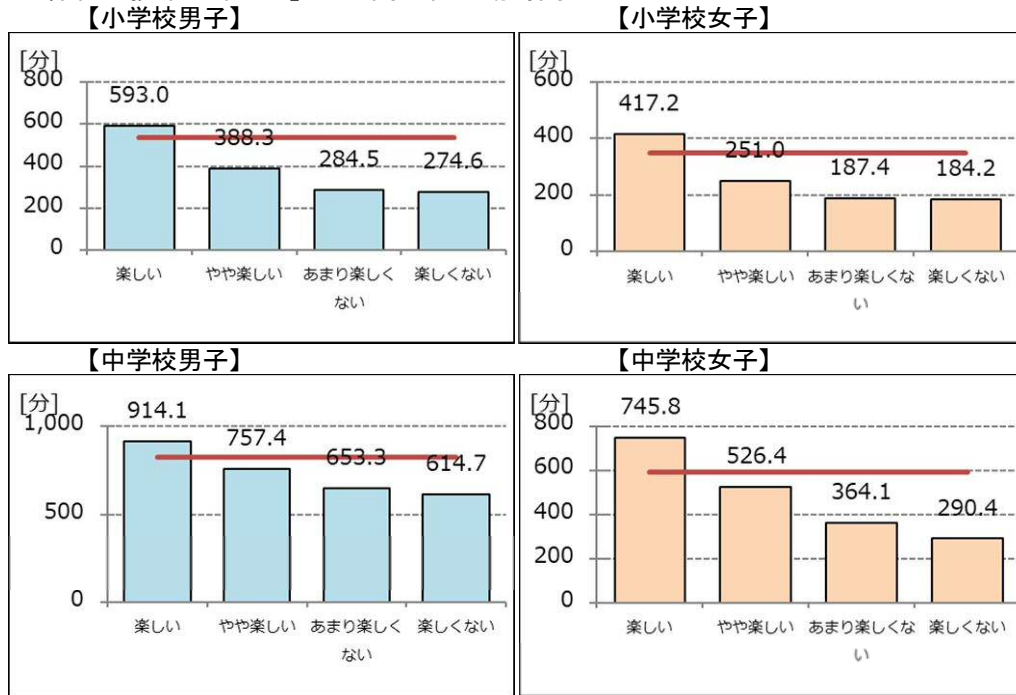
小中学校男女とも「運動が好き」と回答した児童生徒の体力合計点は高く、「運動がきらい」と回答した児童生徒の体力合計点は低くなっている。
「運動がきらい」な児童生徒への手立てを継続して行う必要がある。

(2) 「体育の授業が楽しい」と体力合計点



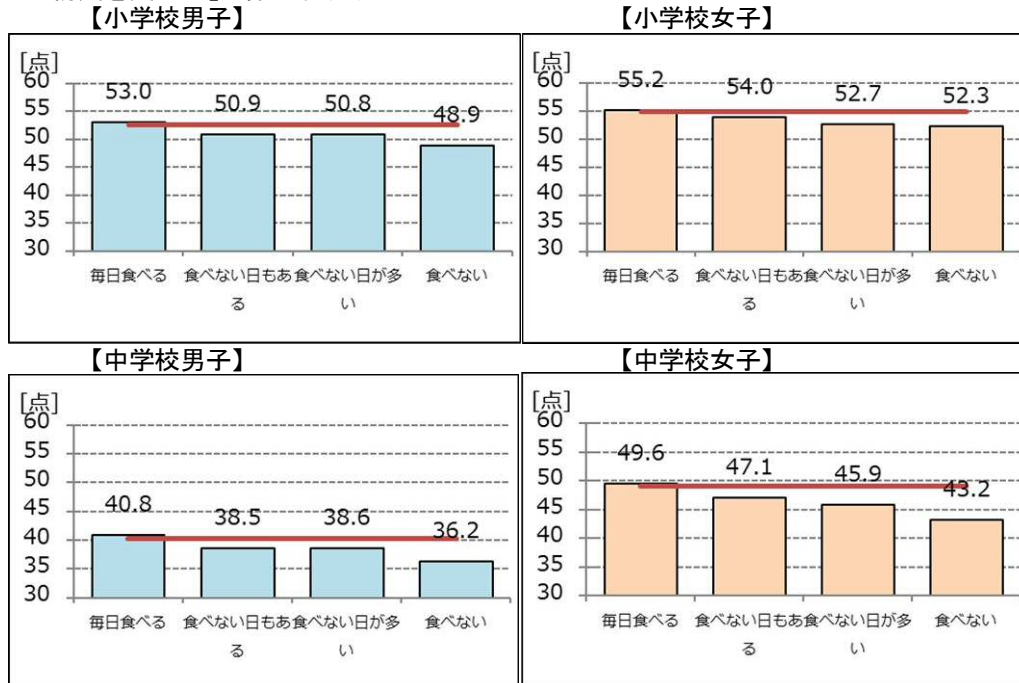
小中学校男女とも「体育の授業が楽しい」と回答した児童生徒の体力合計点は高く、「体育の授業が楽しくない」と回答した児童生徒の体力合計点は低くなっている。
「体育の授業が楽しくない」という児童生徒への手立てを継続して行う必要がある。

(3) 「体育の授業が楽しい」と1週間の総運動時間



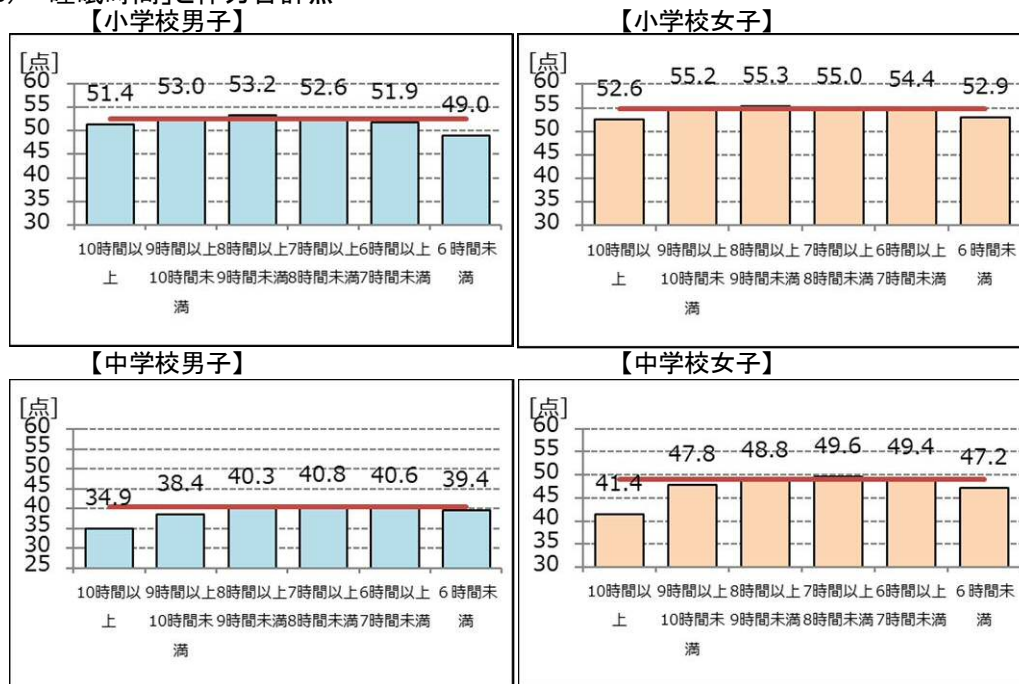
小中学校男女とも「体育の授業が楽しい」と回答している児童生徒の1週間の総運動時間は、「体育の授業が楽しくない」と回答している児童生徒より大幅に長くなっている。
児童生徒が「楽しい」「またやりたい」と思うような授業の工夫・改善を図り、運動の日常化へとつなげていくことが重要である。

(4) 「朝食を食べる」と体力合計点



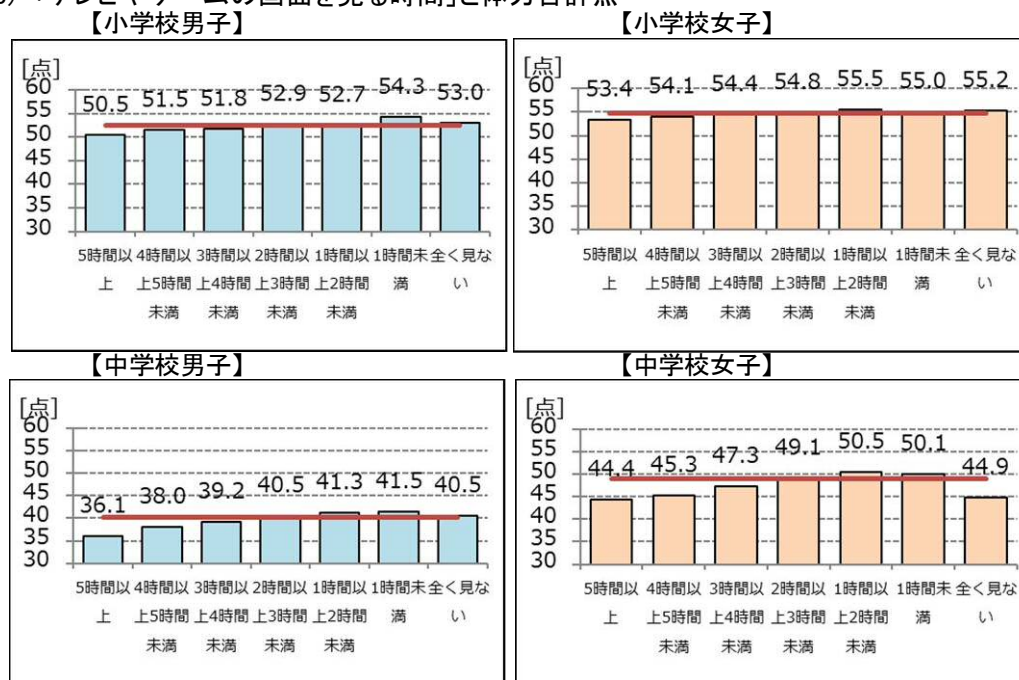
小中学校男女とも「朝食を毎日食べる」と回答している児童生徒の体力合計点は、「朝食を毎日食べない」、「食べない」と回答している児童生徒と比べると高くなっている。朝食を毎日摂ることが、体力の向上につながっていることが伺える。

(5) 「睡眠時間」と体力合計点



小中学校男女とも睡眠時間が「6時間未満」の児童生徒と睡眠時間が「10時間以上」の児童生徒の体力合計点は、「6時間以上10時間未満」の児童生徒と比べると低くなっている。適度な睡眠時間は、体力の向上につながっていることが伺える。

(6) 「テレビやゲームの画面を見る時間」と体力合計点

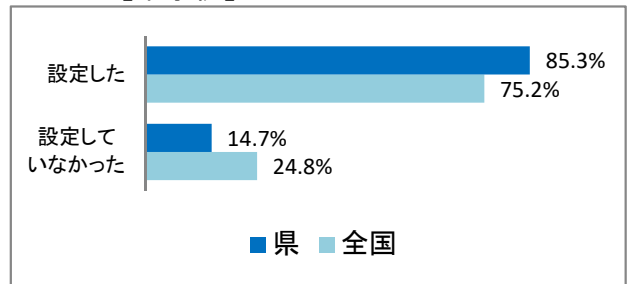
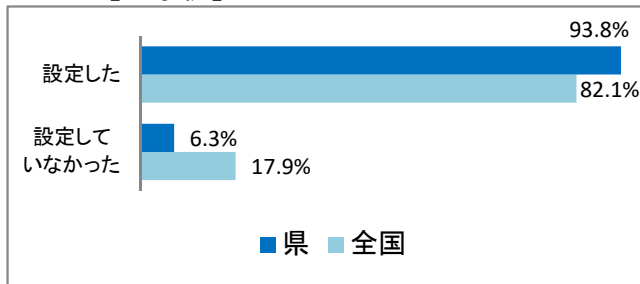


小中学校男女とも「テレビやゲームの画面を見る時間」が長くなるほど、体力合計点が低くなっていく傾向が見られる。「テレビの見過ぎ、ゲームのやり過ぎ」は、体力の向上を阻害する要因の一つになっていると考えられる。

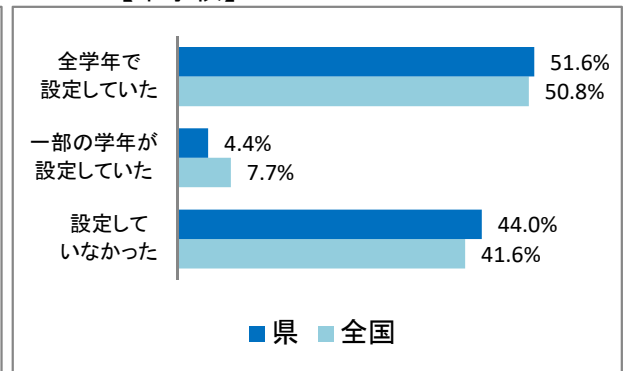
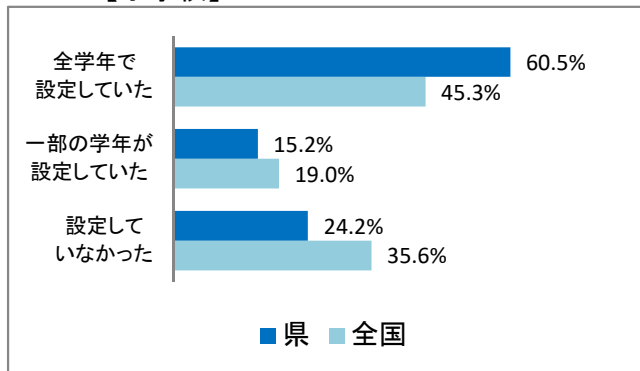
6 学校質問紙から

※ 全国の数値は公立

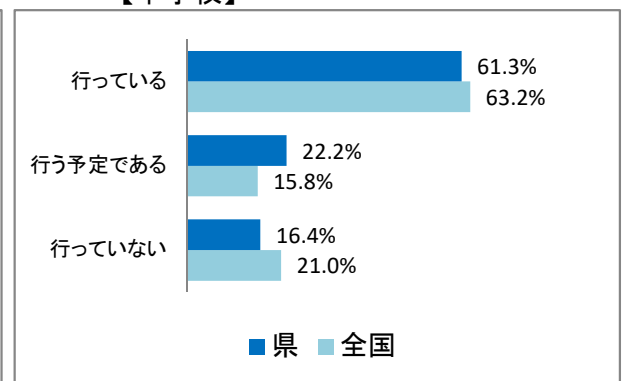
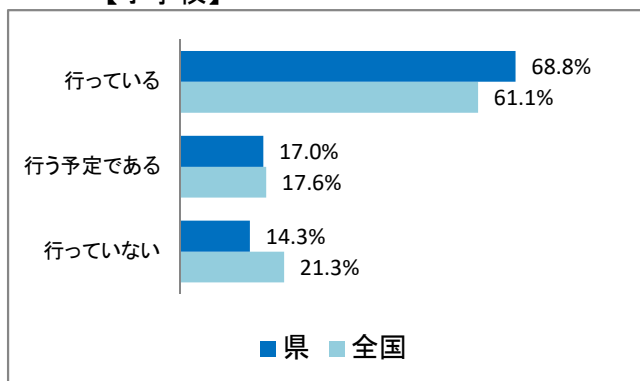
(1) 平成30年度における児童生徒の体力・運動能力向上のための学校全体としての目標設定



(2) 平成30年度における児童生徒の体力・運動能力向上のための学年としての目標設定



(3) 運動・スポーツが苦手な傾向にある児童生徒向け、性別に応じた取組



○ 平成30年度における児童生徒の体力・運動能力向上のための学校全体としての目標を「設定した」と回答した学校の割合は、小中学校ともに全国平均と比較して高い状況である。

○ 平成30年度における児童生徒の体力・運動能力向上のための学年としての目標を「全学年で設定した」と回答した学校の割合を全国平均と比較すると、小学校は高い状況であるが、中学校はわずかに高い状況である。

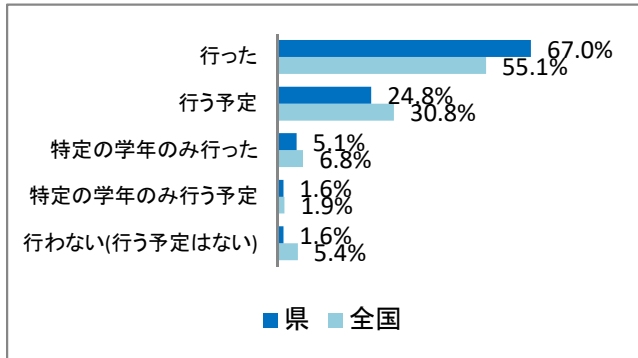
※ 学校全体の目標を基に、発達の段階に応じて学年の目標を設定し、体力向上に向けた取組を推進する体制づくりを構築する必要がある。

○ 運動・スポーツが苦手な傾向にある児童生徒、性別に応じた取組を「行っている」と回答した割合を全国平均と比べると、小学校は高いが、中学校はわずかに低い状況である。

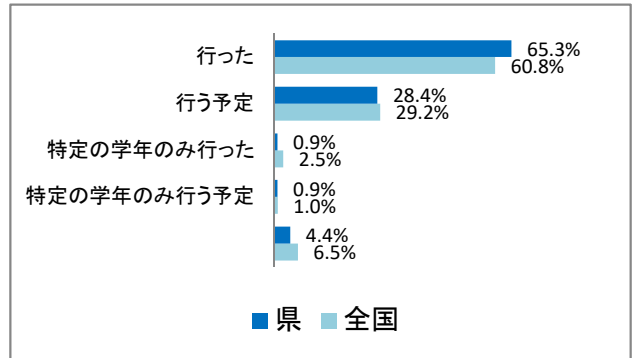
※ 小学校の新学習指導要領において、運動が苦手な児童・運動に意欲的でない児童への配慮の例が示され、年齢や性別及び障害の有無等にかかわらず、運動やスポーツの多様な楽しみ方や関わり方を共有するなど内容の改善が図られていることから、その趣旨に基づいた指導を工夫する必要がある。

(4) 平成30年度の調査結果を踏まえた授業改善の有無

【小学校】



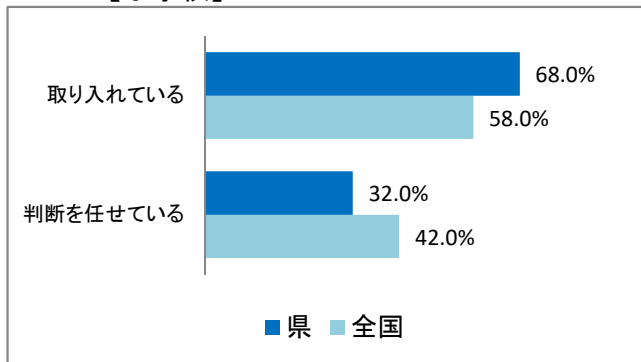
【中学校】



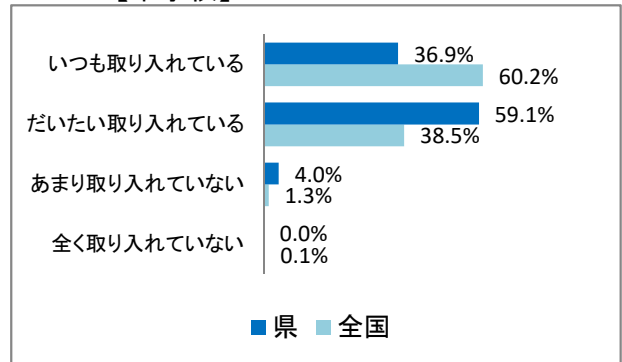
平成30年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果を踏まえた授業改善を「行った」と回答している学校の割合は、全国平均と比較すると、小・中学校ともに高い状況である。

(5) 体育・保健体育授業での目標(めあて・ねらい等)の提示

【小学校】

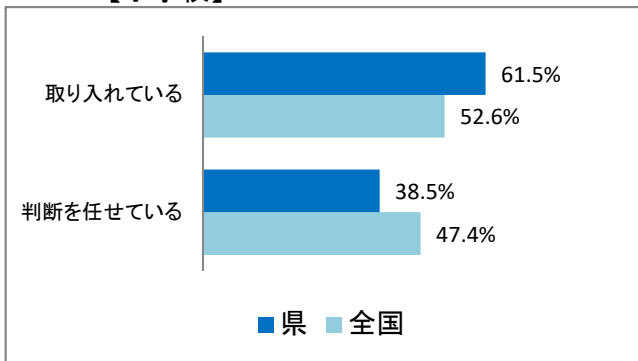


【中学校】

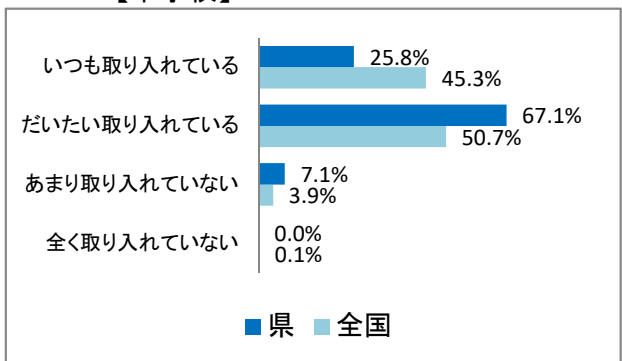


(6) 体育・保健体育授業での振り返りの活動の設定

【小学校】



【中学校】



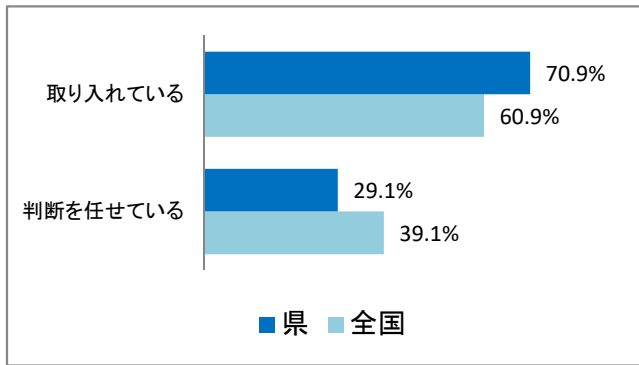
○ 体育・保健体育の授業において、目標(めあて、ねらい等)の提示を「取り入れている」と回答した小学校の割合は、全国平均と比較して高く、「いつも取り入れている」と回答した中学校の割合は、全国平均と比較して低い状況である。

○ 振り返りの活動については、「取り入れている」と回答した小学校の割合は、全国平均と比較して高く、「いつも取り入れている」と回答した中学校の割合は、全国平均と比較して低い状況である。

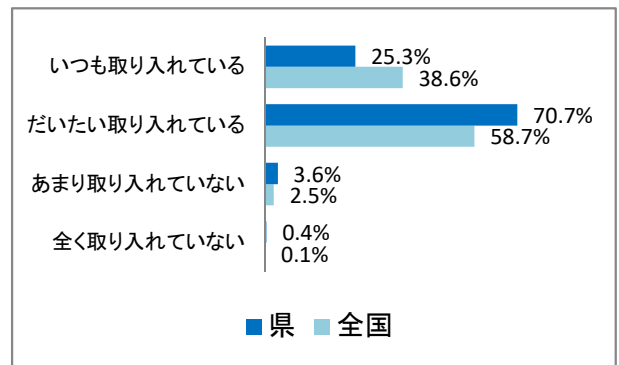
※ 特に、中学校は、全国平均よりもかなり低い状況であることから、児童生徒が、課題解決のための目標や目的意識をもって学習に取り組むとともに、学習の成果を確認し、次時の学習につなげるなど、深い学びになるように、体育・保健体育の授業における目標の提示及び振り返りの活動を授業に位置付けていく必要がある。

(7) 体育・保健体育授業で、児童生徒が助け合ったり役割を果たしたりする活動の設定

【小学校】

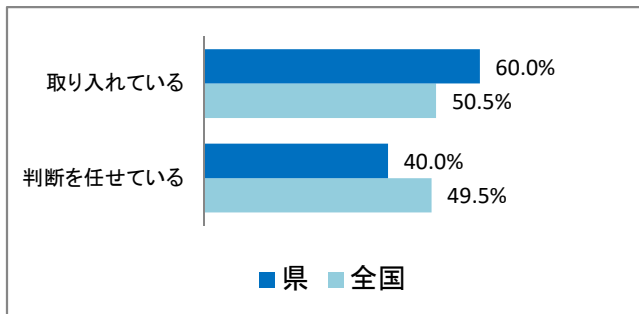


【中学校】

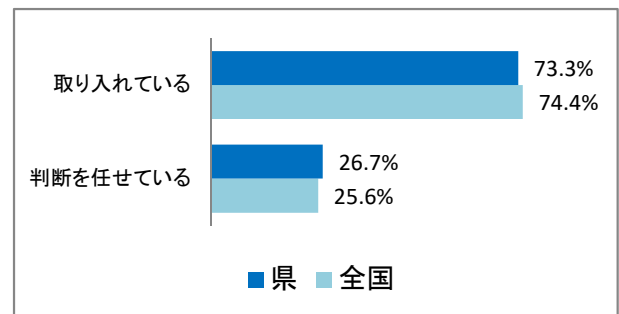


(8) 体育・保健体育授業で、児童生徒が話し合う活動の設定

【小学校】

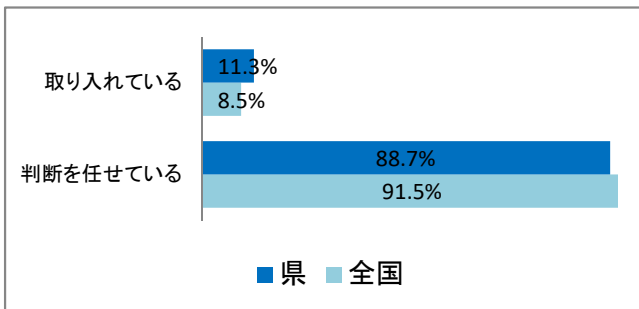


【中学校】

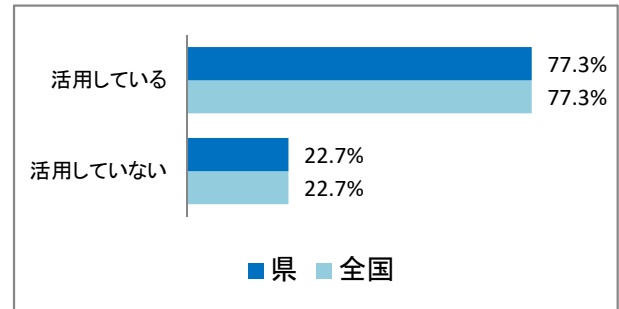


(9) 体育・保健体育授業でのICTの活用

【小学校】



【中学校】



○ 体育・保健体育の授業において、児童生徒が助け合ったり役割を果たしたりする活動を「取り入れている」と回答した小学校の割合は、全国平均と比較すると高く、「いつも取り入れている」と回答した中学校の割合は、全国平均と比較して低い状況である。

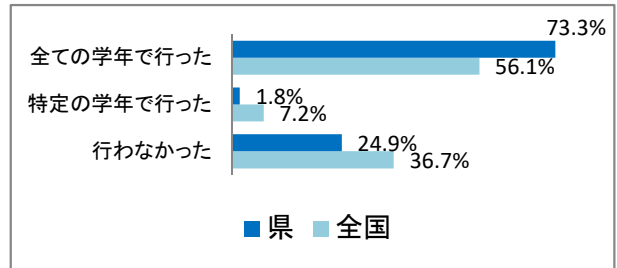
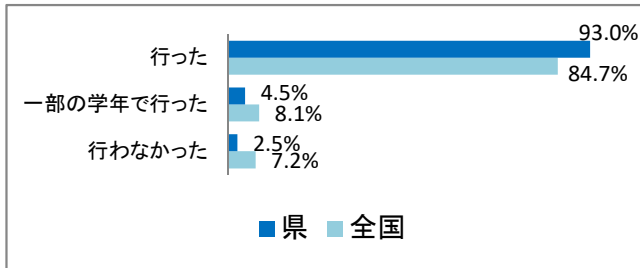
○ 授業で児童生徒が話し合う活動を「取り入れている」と回答した小学校の割合は、全国平均と比較すると高く、「いつも取り入れている」と回答した中学校の割合は、全国平均と比較してわずかに低い状況である。

※ 教師の一方的な教え込みや、一斉指導がほとんどを占める授業になっていないか再確認し、児童生徒が主体的・対話的で深い学びを通して、身に付けるべき内容を習得し、課題解決を図る授業改善を推進していく必要がある。

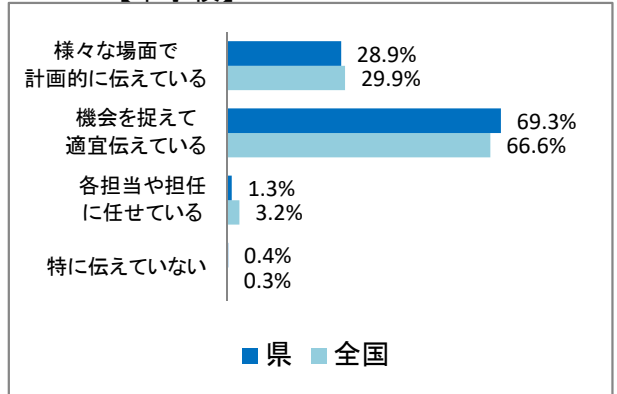
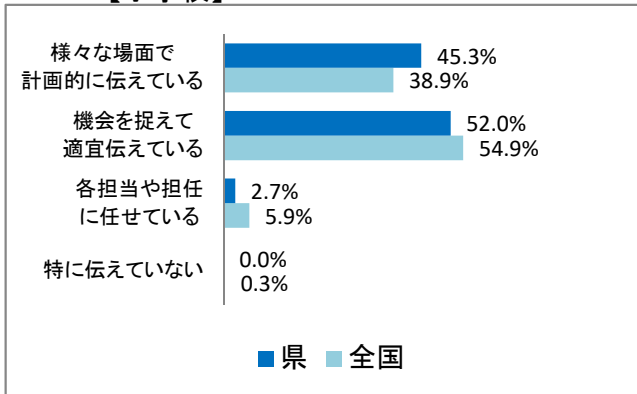
○ 授業において、ICTを「活用している」と回答した学校の割合は、全国平均と比較すると、小学校で高く、中学校では差がない状況である。

※ 教科指導におけるICTの活用の必要性については、新学習指導要領においても総則や解説(体育編)にも記載されている。ICTを効果的に活用し、指導方法の改善を図り、児童生徒の学習内容の習得へつなげていく授業改善が求められる。その際、ICTを活用する目的や効果的な活用場面等について、整理しておくことが重要である。

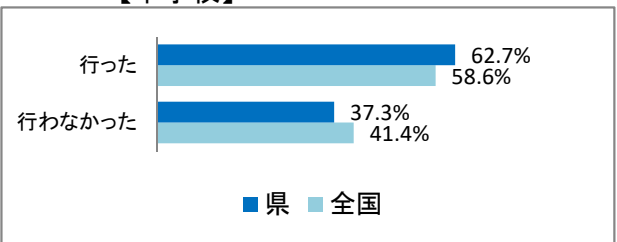
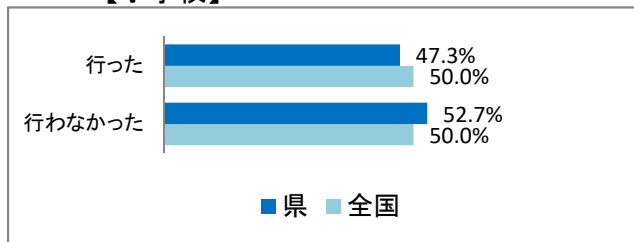
(10) 平成30年度における体育、保健体育の授業以外での体力・運動能力の向上に係る取組
 【小学校】 【中学校】



(11) 健康三原則(運動、食事、休養及び睡眠)の大切さについての児童生徒への伝達
 【小学校】 【中学校】



(12) 平成30年度におけるオリンピック・パラリンピック教育に係る取組
 【小学校】 【中学校】



○ 平成30年度における体育、保健体育の授業以外での体力・運動能力の向上に係る取組について「行った」(小学校)、「全ての学年で行った」(中学校)と回答した割合は、全国平均と比較して高い状況である。

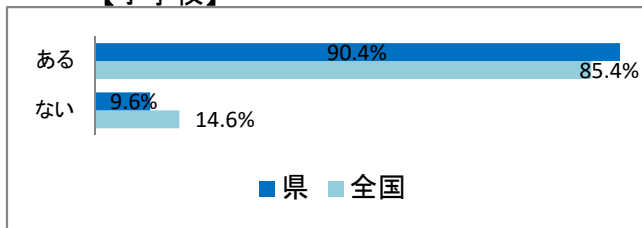
○ 健康三原則の大切さを「様々な場面で計画的に伝えている」と回答した割合を全国平均と比較すると、小学校は高く、中学校はわずかに低い状況である。

※ 健康の保持増進には、1日の生活の仕方が深く関わっており、運動、食事、休養及び睡眠を取ることが必要であるということについて、保健の授業だけでなく、教育活動全体を通して児童生徒に指導することが重要である。

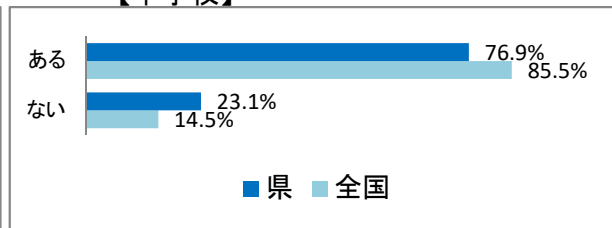
○ 平成30年度に「オリンピック・パラリンピック」教育に関する取組を「行った」と回答した割合を全国平均と比較すると小学校は低く、中学校は高い状況である。

※ 新学習指導要領において、改善の具体的事項として、「オリンピック・パラリンピックに関する指導の充実」が新たに明記されている。本県においても、「オリンピック・パラリンピックムーブメント全国展開事業」を推進しており、今後、推進校の実践等を各学校に広げ、それぞれの実態に応じて推進を図っていくことが望まれる。

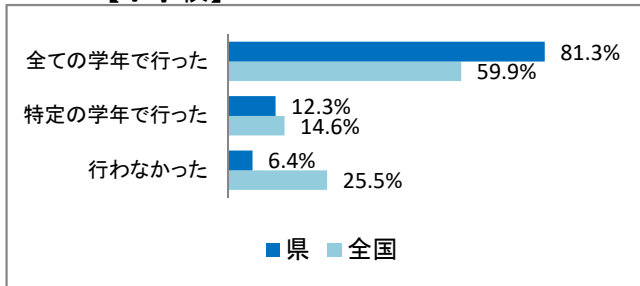
(13) 教員同士による児童の体力・運動能力の向上に関する取組、
授業方法の工夫・改善に向けた検討の機会
【小学校】



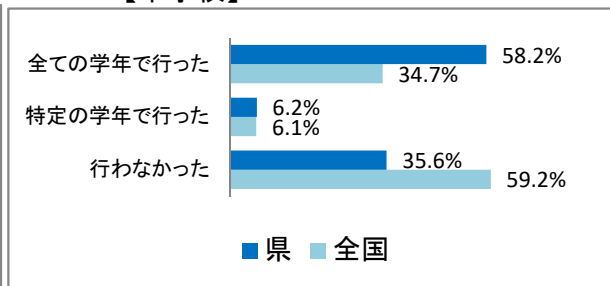
【中学校】



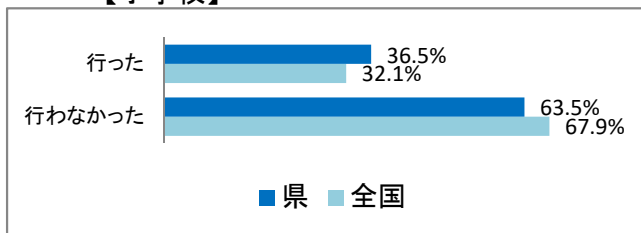
(14) 全ての児童生徒の家庭への体力向上に係る説明・呼びかけの実施の有無
【小学校】



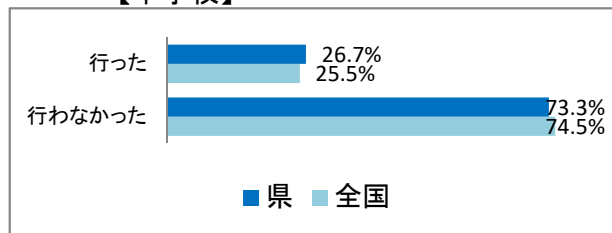
【中学校】



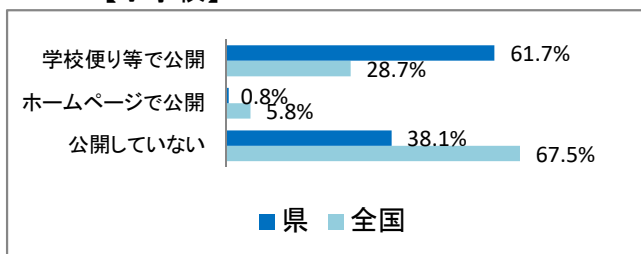
(15) 調査報告書の事例校を参考にした取組
【小学校】



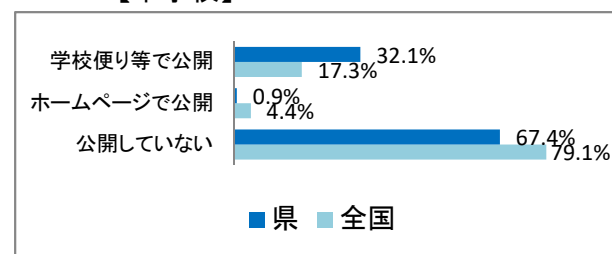
【中学校】



(16) 平成30年度調査結果の公開
【小学校】



【中学校】



- 教員同士で児童生徒の体力向上や指導法改善について検討する機会が「ある」と回答した学校の割合は、全国平均と比較して、小学校が高く、中学校が低い状況である。
- 調査対象学年(小5, 中2)の児童生徒の家庭への体力向上に係る説明・呼び掛けを「全ての学年で行った」と回答した学校の割合を全国平均と比較すると、小・中学校とも高い状況である。
- ※ 家庭に対しての体力向上に関する啓発はよく行われていることが伺えるが、今後は、家庭に啓発していく内容や方法について、更なる工夫・改善をすることが大切である。
- 調査報告書の事例校を参考にした取組を「行った」と回答した割合は、全国平均と比較して、小学校は高く、中学校はわずかに高い状況である。
- ※ 但し、「行わなかった」割合の方が高いので、研修会等において調査報告書を活用する機会を設定するなどして、工夫・改善を図る必要がある。
- 平成30年度の調査結果を学校HPや学校便り等で「公表した」と回答した学校の割合は、全国平均と比較して、小・中学校とも高い状況である。
- ※ 但し、特に中学校においては公表している割合が少ないことから、適切な公表方法等を検討し、保護者・地域と情報を共有し、一体となった取組を推進することが望まれる。

7 全体考察

《今後の方向性》

新学習指導要領の趣旨を踏まえ、小学校、中学校、高等学校を通じて、生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現する資質・能力を育成することを重視する観点から、児童生徒に「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」を育成する取組を具体的に進める必要がある。

体力向上に関して、その核となるのは、体育・保健体育の授業の充実である。本県の児童生徒は、運動への興味・関心や体育・保健体育の授業に対する意識が高いことから、学校において、教師が児童生徒の実態を真剣に受け止め、次のような授業を目指して、改善を進めていきたい。

例)

- 運動の特性に触れ、楽しさや喜びを味わうことができる授業
- 精一杯、運動することができる授業
- 「わかる」と「できる」を実感できる授業
- 課題の解決に向けて、自分から進んで取り組むことができる授業
- 課題の発見・解決に向けて、話し合ったり助け合ったりすることができる授業

このような授業を通して、全ての子どもが、楽しく、安心して運動に取り組むことができるようにし、その結果として体力の向上につながる指導の在り方について改善を図り、「運動好きな子ども」を育てることを目指す。

また、体育・健康に関する指導については、児童の発達段階を考慮して、学校の教育活動全体を通じて適切に行うことにより、健康で安全な生活と豊かなスポーツライフの実現を目指した指導の充実を図る。

さらに、子どもの体力向上に関して、家庭への啓発を行い、理解と協力を求めたり、関係機関と連携し、外部指導者を活用したりするなど、学校・家庭・地域が連携し、一体となった取組を推進する。

《今後の取組》

◆ 学校の組織的な取組の推進を支援

- 各学校における「たくましい“かごしまっ子”育成推進プランの作成、活用
- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果の分析と活用促進
- 体力ナビの積極的活用と児童生徒一人一人への体力カードの作成
- たくましい“かごしまっ子”育成推進校による実践的取組の紹介
- 「児童生徒の体力を正しく把握するための新体力テスト実施方法手引」(改訂版)の活用促進
- 小中学校版「体力アップ！チャレンジかごしま」の継続実施(工夫・改善)

◆ たくましい“かごしまっ子”育成に向けた運動の楽しさを追求した授業、体育指導の工夫改善の支援

- 「運動好きな子どもを育てる」指導者研修会の実施
- 小学校教諭等体育セミナーの開催
- 新任幼稚園教諭への「幼児期運動指針」についての研修
- たくましい“かごしまっ子”育成推進校(小学校3校、中学校4校)による実践的研究及び第9期校(小学校2校、中学校2校)による研究公開
- たくましい“かごしまっ子”育成推進校(小学校3校、中学校4校)への地域スポーツ人材の派遣

- かごしまの子ども体力向上プログラム(小学校版、中・高等学校版)の活用促進

◆ 運動習慣の育成に向け、学校・家庭・地域が一体となった取組の促進

- 体力の向上、運動習慣の育成に向けた啓発資料の活用促進
(これならできる！「プラス5分運動」)
- 地域スポーツ人材を活用した運動習慣育成教室の実施
- たくましい“かごしまっ子”育成推進校(第9期)研究公開による普及啓発

8 改善のポイント

県教育振興基本計画における数値目標(体力合計点)

		2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年
小5男子	県	53.23	52.57	⇒	全国平均と同程度	⇒	全国平均を上回る
	全国	54.21	53.61				
小5女子	県	55.00	54.87	⇒		⇒	
	全国	55.90	55.59				
中2男子	県	40.88	40.32	⇒		⇒	
	全国	42.32	41.69				
中2女子	県	49.40	49.03	⇒		⇒	
	全国	50.61	50.22				

たくましい“かごしまっ子”育成に向けた学校における
体力向上, 運動習慣改善のPDCAサイクル

Plan

- 1 児童生徒の体力・運動能力向上, 運動習慣, 授業改善に向けた目標の設定
- 2 体力づくり全体計画や「たくましい“かごしまっ子”」育成推進プランの作成
- 3 学校の実態や体力課題に即した「一校一運動」の推進計画
- 4 児童生徒や家庭の実態に即した「一家庭一運動」の周知・啓発と実施

【課題1】 体力合計点が全国平均に達していない
【課題2】 1週間の総運動時間が2年連続で減少している。

Action

- 1 体力づくり全体計画や「たくましい“かごしまっ子”」育成推進プランの改善
- 2 体力向上, 運動習慣改善に効果をあげた取組と今後の対策検討
- 3 家庭への児童生徒の体力, 運動習慣の結果報告による説明責任

Check

- 1 新体力テスト, 体力・運動能力調査等の結果と考察
- 2 「たくましい“かごしまっ子”」育成推進プランの活用
- 3 体力向上, 運動習慣改善に効果をあげた取組と今後の対策についての検討

Do

- 体力づくり全体計画に基づくPDCAサイクルの確実な推進
 - (1) 「楽しい体育・保健体育」の授業充実
 - すべての児童生徒が楽しく, 安心して運動に取り組むことができる授業
 - 授業における目標の提示・確実なまとめの実施
 - 「主体的・対話的で深い学び」による授業の展開
 - 職員研修や研究授業による指導力の向上
 - (2) 新体力テストの実施
 - 実施目的, 測定方法等の共通理解
 - 児童生徒に目標をもたせる事前指導の充実
 - 「体力ナビ」活用による意欲喚起
 - (3) 「一校一運動」, 業間体育等の工夫による運動機会の確保
 - (4) 運動に消極的な児童生徒を支援する運動習慣育成教室の推進
 - (5) 「体力アップ! チャレンジかごしま」への取組
 - (6) 部活動の充実
 - (7) 家庭と協力した運動・生活習慣の改善
 - 土日の運動時間の確保
 - (8) 家庭への体力向上に関する啓発
 - これならできる! 「プラス5分運動」リーフレット配布と活用促進

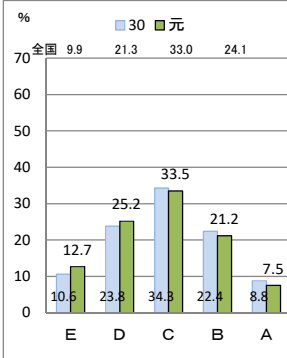
令和元年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

鹿児島市 教育委員会

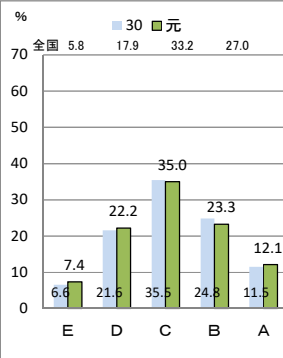
【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

※グラフ内、上の数値は、令和元年度各総合評価規準の全国の割合を表す。

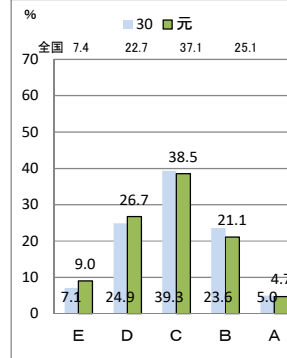


〔女子〕

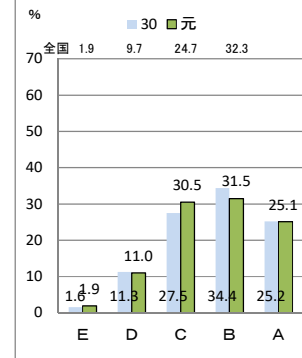


【中学校 体力総合評価】

〔男子〕



〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

小学校 A: 65点以上 B: 58点～64点 C: 50点～57点 D: 42点～49点 E: 41点以下

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

中学校 A: 57点以上 B: 47点～56点 C: 37点～46点 D: 27点～36点 E: 26点以下

〈現状及び課題〉

- ・男女ともに、全国平均と比較して、A+Bの割合が低く、D+Eの割合が高くなっており、D～Eの下位層の底上げが課題である。
- ・昨年度と比較すると、男女ともA～Bの割合が減少し、D～Eの割合が増加したことから、下降傾向にある。
- ・男女とも、運動への興味・関心を高めるとともに、体力の向上を図る取組が必要である。

〈現状及び課題〉

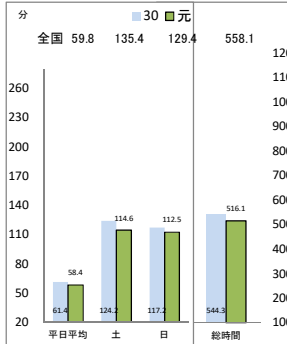
- ・男女ともに、全国平均と比較して、A+Bの割合が低く、D+Eの割合が高くなっており、D～Eの下位層の底上げが課題である。
- ・昨年度と比較すると、男女ともA～Bの割合が減少し、男子はD～Eの割合が増加し、女子は同じであった。
- ・男女とも、運動への興味・関心を高めるとともに、体力の向上を図る取組が必要である。

【小学校 運動実施時間】

〔男子〕

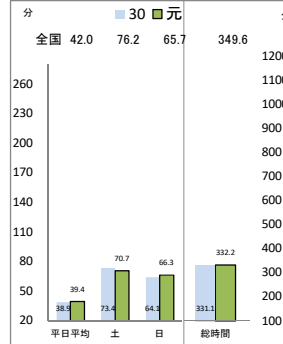
(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和元年度運動実施時間の全国の平均を表す。



〔女子〕

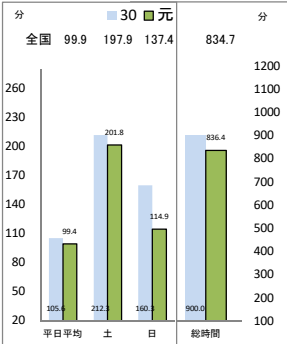
(平日の平均及び土日)(1週間)



【中学校 運動実施時間】

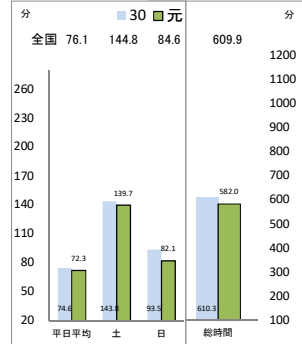
〔男子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)



〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

〈現状及び課題〉

- ・1週間の総運動時間については、全国平均との比較において、男子は短く、女子はほとんど差がない。
- ・平日及び土日については、全国平均との比較において、男女ともに平日はあまり差はないものの、男子は土日の運動時間が短い。
- ・昨年度との比較では、1週間の総運動時間が男子はわずかに減少し、女子はほとんど差がない。

※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

〈現状及び課題〉

- ・1週間の総運動時間については、全国平均との比較において、男子はほとんど差はないが、女子はわずかに短い。
- ・平日及び土日については、全国平均との比較において、男女ともに平日はほとんど差はないが、男子は土日の運動時間が短く、女子はわずかに短い。
- ・昨年度との比較では、男子は1週間の総運動時間が減少、女子はわずかに減少した。

【改善策】

【小学校】

- ・男女ともに全国平均と比較して、1週間の総運動時間が短いことから、「一校一運動」や「チャレンジかごしま」等への取組を推奨し、運動機会の確保を図るとともに、家庭への運動機会の確保に向けた啓発を図る。

【中学校】

- ・「チャレンジかごしま」への取組を推奨し、更なる運動機会の増加を図る。

【共通】

- ・体力合計点とのクロス集計から、体育授業において、「目標の提示」「課題を解決する活動」「振り返りの活動」との関連が高いことから、研究会等を通して、授業改善に努め、運動の日常化を図る。
- ・本市が取り組む「ちよれ運動」への取組を推奨し、各学校において改善を図る。

令和元年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

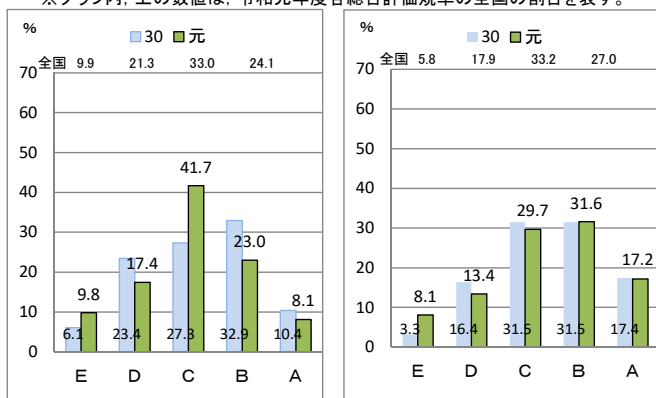
日置市 教育委員会

【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕

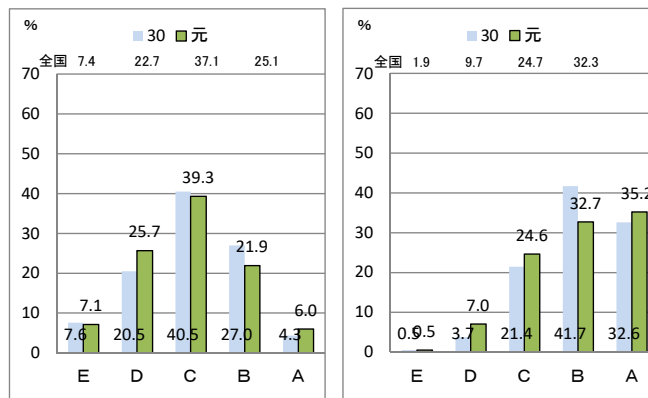
※グラフ内、上の数値は、令和元年度各総合評価規準の全国の割合を表す。



【中学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

小学校 A: 65点以上 B: 58点~64点 C: 50点~57点 D: 42点~49点 E: 41点以下

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

中学校 A: 57点以上 B: 47点~56点 C: 37点~46点 D: 27点~36点 E: 26点以下

〈現状及び課題〉

- ・男子は、A, B, D, Eの割合が減少し、Cの割合が、14.4ポイント増加した。
- ・女子は、全体的に昨年度とほぼ変わらない状況である。
- ・特に男子は、Cの児童の体力及び運動への興味・関心を高め、B, Aへ引き上げる取組が必要である。

〈現状及び課題〉

- ・男子は、Aの割合が微増したが、B, Cの割合が減少し、Dの割合が5.2ポイント増加した。全体的に生徒の体力及び運動への興味・関心を高める取組が必要である。
- ・女子は、Aの割合が2.6ポイント増加し、Bの割合が9.0ポイント減少した。C, Dの割合はともに増加した。C, Dの生徒の体力及び運動への興味・関心を高める取組が必要である。

【小学校 運動実施時間】

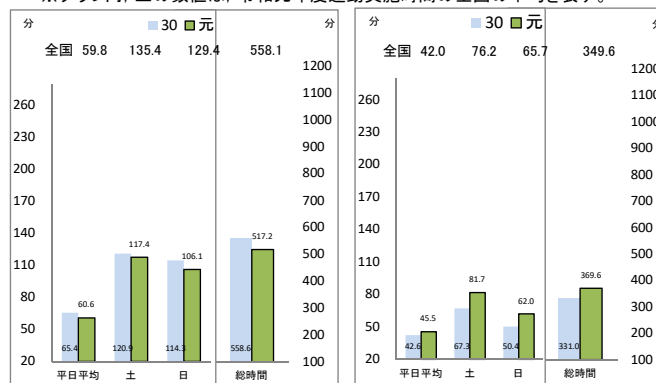
〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和元年度運動実施時間の全国の平均を表す。



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

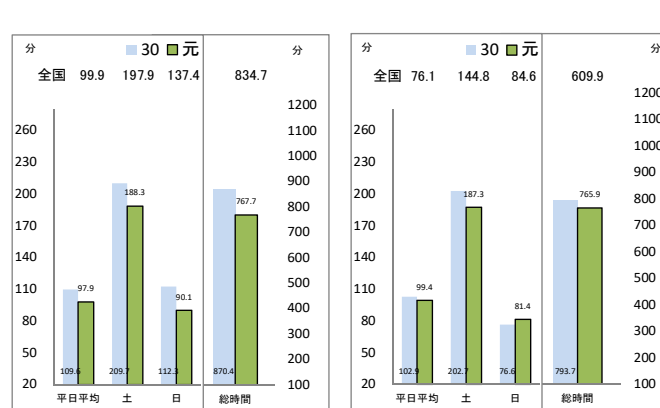
【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

〈現状及び課題〉

- ・男子については、昨年度より平日、土日ともに運動実施時間は減少している。
- ・女子については、昨年度より平日、土日ともに運動実施時間は増加している。ただし、男子に比べると総運動時間が少ないため、学校と家庭が協力して運動する機会を確保する取組等が必要である。

〈現状及び課題〉

- ・男子については、昨年度より平日、土日ともに運動実施時間は減少している。
- ・女子についても、日曜日を除き、運動実施時間は減少している。
- ・特に部活動等では、短い時間で効率的な練習が実施されるよう指導者や生徒等へ啓発していく必要がある。

【改善策】

【小学校】

- ・「チャレンジかごしま」の教育課程の位置付けと実施方法の工夫及び児童の運動時間の確保

【中学校】

- ・「チャレンジかごしま」の推進と体育授業の指導法改善

【共通・その他】

- ・「チェスト行けひおきっ子Ⅱ」事業(小中一貫教育による体力向上)による、9年間を見据えた体力向上策の策定
- ・「一校一運動」の工夫・改善及び継続的な実践
- ・体力ナビによる児童生徒の体力面の課題の自覚化を図る取組の推進

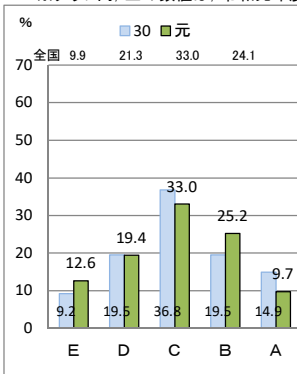
令和元年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

いちき串木野市教育委員会

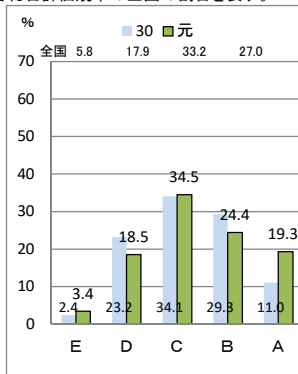
【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

※グラフ内、上の数値は、令和元年度各総合評価規準の全国の割合を表す。

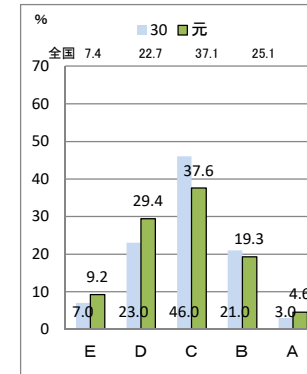


〔女子〕

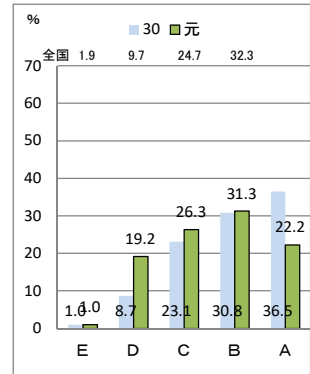


【中学校 体力総合評価】

〔男子〕



〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

小学校 A: 65点以上 B: 58点～64点 C: 50点～57点 D: 42点～49点 E: 41点以下

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

中学校 A: 57点以上 B: 47点～56点 C: 37点～46点 D: 27点～36点 E: 26点以下

〈現状及び課題〉

- ・ 男子はBの割合が5.7ポイント増加したものの、Eの割合も3.4ポイント増加した。
- ・ 女子はAの割合が8.3ポイント増加したものの、Eの割合も1ポイント増加した。
- ・ 男子のD、Eの割合が32ポイントと多いことから、体力及び運動の興味関心を高め、基礎体力の向上を図るための指導法改善が必要である。

〈現状及び課題〉

- ・ 男子はEの割合が2.2ポイント、Dの割合が6.4ポイント増加した。また、Aの割合が1.6ポイント増加したものの、全体的には少ない。
- ・ 女子はAの割合が14.3ポイント減少し、Dの割合が10.5ポイント増加した。
- ・ 男子のD、Eの割合が38.6ポイントと多いことから、体力及び運動の興味関心を高め、基礎体力向上のための指導法改善が必要である。また、男女ともに1つずつ上のレベルへ引き上げる支援が必要である。

【小学校 運動実施時間】

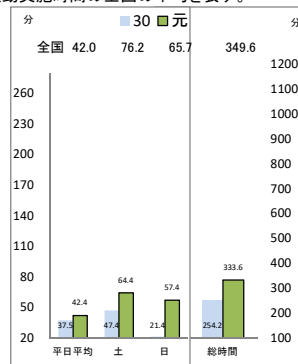
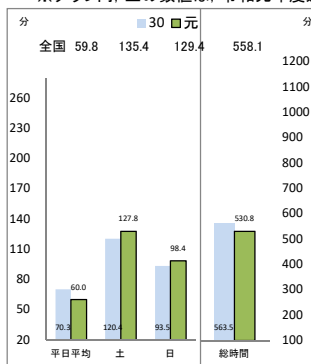
〔男子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和元年度運動実施時間の全国の平均を表す。



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

〈現状及び課題〉

- ・ 1週間の運動時間は、全国平均(男子:558.1、女子:349.6)と比較すると、男子は27.3分短く、女子は16分短い。平日の運動時間は男女ともに全国平均とほとんど差はない。
- ・ 1週間の運動時間は、昨年度と比較すると、男子が32.7分短くなっており、女子は79.4分長くなっている。

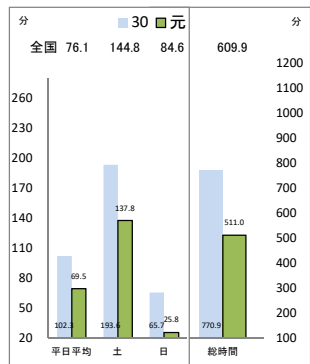
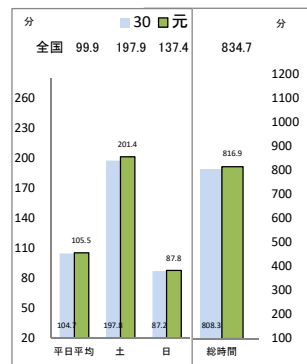
【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

〈現状及び課題〉

- ・ 1週間の運動時間は、全国平均(男子:834.7、女子:609.9)と比較すると、男子は17.8分短く、女子は98.9分短い。また、平日の運動時間は、全国平均と比較すると、男子が5.6分長いが女子は6.6分短い。
- ・ 1週間の運動時間は、昨年度と比較すると、男子は0.8分の差でほとんど変わらないが、女子は259.9分短くなっている。

【改善策】

【小学校】

- ・ 1週間の運動時間が全国平均に比べ、男女ともに短いことから、体育授業時の運動量を増やすことができるような取組が必要である。

【中学校】

- ・ 1週間の運動時間が全国平均に比べ、男女ともに短いことから、保健体育時の運動量を増やすことができるような取組が必要である。また、女子の運動時間が特に短いことから、県発行の「体力向上プログラム」を積極的に活用し、授業の中に日常的に取り入れる必要がある。

【共通】

- ・ 「体力アップ! チャレンジかごしま」に積極的に取り組ませ、体を動かすことの楽しさや充実感・達成感を味わわせる必要がある。
- ・ 体育授業時において、十分な運動時間を確保することができるよう工夫する等、授業改善を行う必要がある。

令和元年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

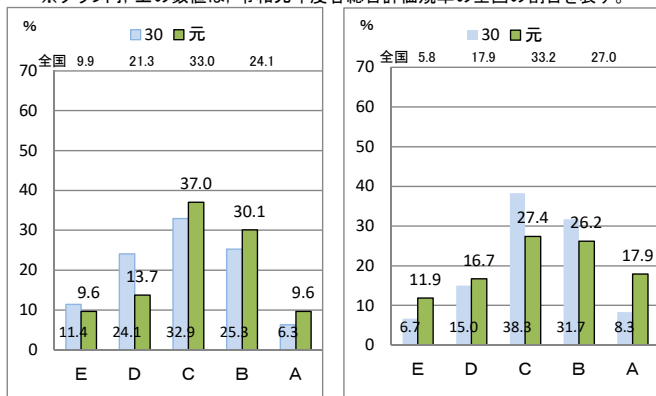
横浜市 教育委員会

【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕

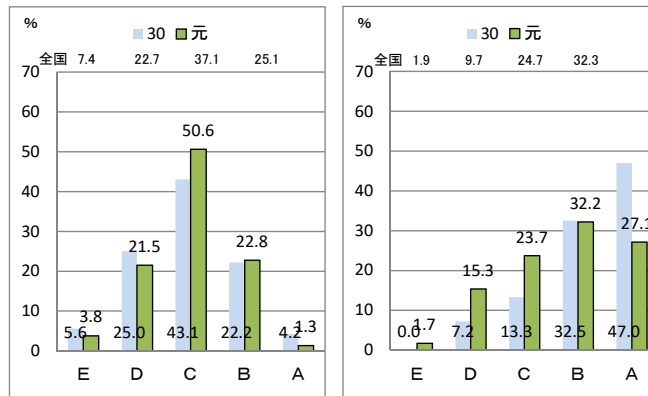
※グラフ内、上の数値は、令和元年度各総合評価規準の全国の割合を表す。



【中学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

小学校 A: 65点以上 B: 58点~64点 C: 50点~57点 D: 42点~49点 E: 41点以下

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

中学校 A: 57点以上 B: 47点~56点 C: 37点~46点 D: 27点~36点 E: 26点以下

〈現状及び課題〉

- ・ 男子は、全国比で、Aの児童の割合が、2.1ポイント低いが、Bの割合が6ポイント高い。DとEも全国比で低い割合にあり比較的運動能力は高い。市の前年と比較すると全体的に運動能力が向上している。Dの割合は、10.4ポイント減少し、Aの割合は、3.3ポイント増加した。
- ・ 女子は、全国と比較して、Aの児童の割合が、1.9ポイント高いがEの割合が6.1ポイント高い。市の前年と比較すると、中位の児童が減り、上位と下位の層に人数が増える形となった。
- ・ 女子は、DEの児童の割合を減少させる取組が必要である。

〈現状及び課題〉

- ・ 男子は、全国比で、Aの児童の割合が、6.3ポイント低いが、Eの割合が3.6ポイント低い。Cが全国比で13.5高く比較的中位層に偏っている。市の前年と比較しても、全体的に運動能力の高さは中位層に集中している。Aの割合が低いこともはっきりとしている。
- ・ 女子は、全国と比較して、Aの児童の割合が、4.3ポイント低く、Dの割合も5.6ポイント高い。市の前年と比較しても、上位の児童が減り、下位の層に人数が増える形となった。
- ・ 女子は、DEの児童の割合を減少させる取組が必要である。

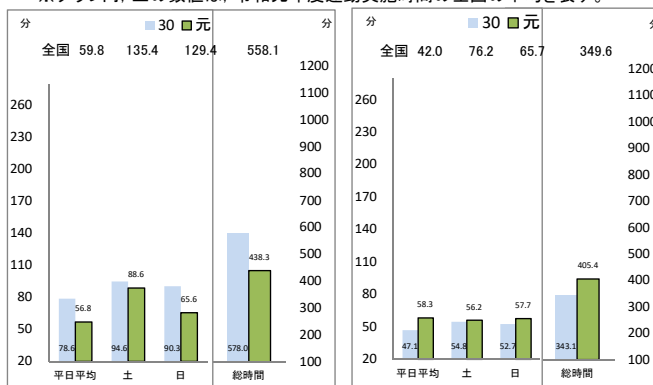
【小学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間) (平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和元年度運動実施時間の全国の平均を表す。



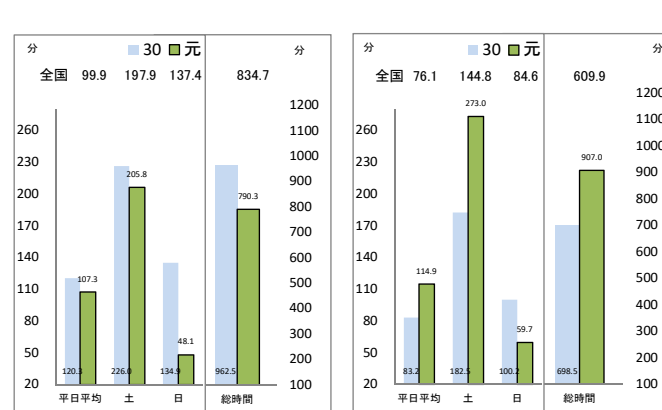
※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間) (平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

〈現状及び課題〉

- ・ 1週間の総運動時間は、男子は全国より短く、女子は長い。
- ・ 平日の運動時間は、男子は全国より短く、女子は長い。
- ・ 土日の運動時間は、男女とも全国より短い。
- ・ 平日の運動時間は、市の前年と比較すると、男子は短く、女子は長い。土日の運動時間も、同様の結果となった。

〈現状及び課題〉

- ・ 1週間の総運動時間は、男子は全国より短く、女子は長い。
- ・ 平日の運動時間は、男女とも全国より長い。
- ・ 土曜日の運動時間は男女とも全国よりも長く、日曜日は短い。
- ・ 平日の運動時間は、市の前年と比較すると、男子は短く、女子は長い。土曜日、同様であるが、日曜日は男女とも短いという結果となった。

【改善策】

【小学校】

- ・ 体育学習における運動量の確保や対話的活動の工夫

- ・ 運動が苦手な子も積極的に運動に関わることができるような指導法の改善

【中学校】

- ・ 体育学習における運動量の確保や対話的活動の工夫

- ・ 「一校一運動」の推進(朝の体力づくりの継続、効果的な補強運動の工夫など)

【共通・その他】

- ・ 児童生徒に運動の楽しさや喜びを味わわせるような指導法の工夫(授業力向上、場の設定、教科部会における内容の充実化等)
- ・ 「体力アップ! チャレンジかごしま」への継続的な取組(小・中とも全学級申告、複数種目挑戦、実施する時間や場の工夫等)
- ・ 運動の生活化・日常化(社会体育施設の開放、学校における固定施設等の積極的活用、「一家庭一運動」の積極的推進等)

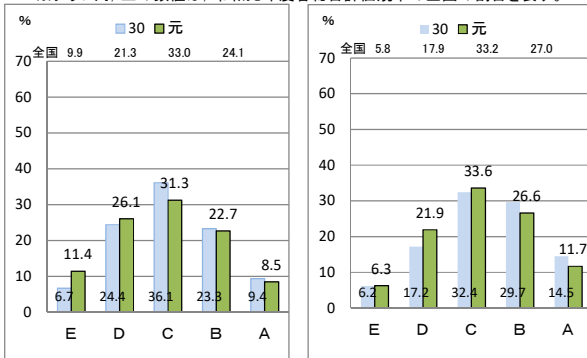
令和元年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

指宿市 教育委員会

【小学校 体力総合評価】 〔男子〕

〔女子〕

※グラフ内、上の数値は、令和元年度各総合評価規準の全国の割合を表す。

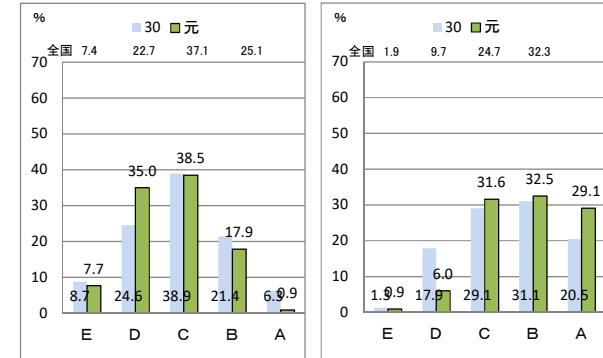


※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点～64点 C:50点～57点 D:42点～49点 E:41点以下

【中学校 体力総合評価】 〔男子〕

〔女子〕



※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

中学校 A:57点以上 B:47点～56点 C:37点～46点 D:27点～36点 E:26点以下

〈現状及び課題〉

・昨年度と比較して、男子は、Dの割合が1.7ポイント、Eの割合が4.7ポイント増加し、Aの割合が0.9ポイント、Bの割合が0.6ポイント、Cの割合が4.8ポイント減少している。女子は、Cの割合が1.2ポイント、Dの割合が4.7ポイント、Eの割合が0.1ポイント増加し、Aの割合が2.8ポイント、Bの割合が3.1ポイント減少している。
・全国と比較して、Aの割合が男子は3.2ポイント、女子は4.3ポイント低く、課題である。児童の体力及び運動への興味・関心を高め、男女とも、E、D、Cの児童をB、Aへ引き上げる取組が必要である。

〈現状及び課題〉

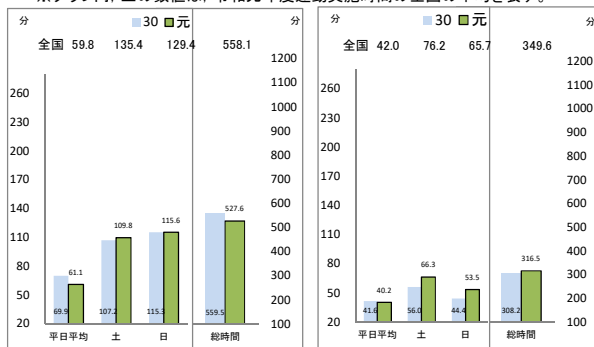
・男子は、Dの割合が10.5ポイント増加し、Aの割合が5.4ポイント、Bの割合が3.5ポイント、Cの割合が0.4ポイント減少している。
・女子は、Aの割合が8.6ポイント、Bの割合が1.4ポイント、Cの割合が2.5ポイント増加し、Dの割合が11.9ポイント、Eの割合が0.4ポイント減少している。
・全国と比較して、男子はAの割合が6.7ポイント、Bの割合が7.2ポイント低い。女子はAの割合が2.3ポイント低くなっている。生徒の体力及び運動への興味・関心を高め、特に男子は、D、Cの生徒をB、Aへ引き上げる取組が必要である。

【小学校 運動実施時間】 〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間) (平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和元年度運動実施時間の全国の平均を表す。



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

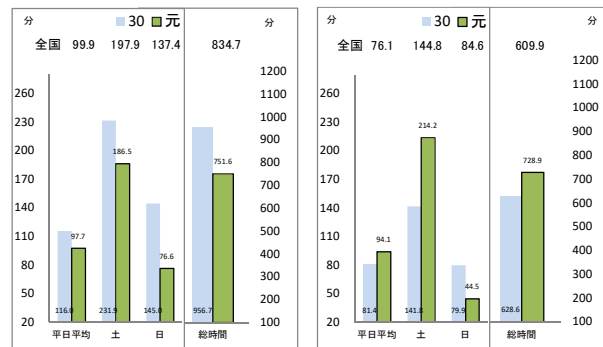
〈現状及び課題〉

・1週間の総運動時間は、全国と比較すると、男子が「30分短い」、女子が「33分短い」結果であった。
・平日は、全国平均と比較して男女とも大きな差はみられない。
・土・日曜日は、男子において、全国平均より土曜日で約25分、日曜日で約13分短い。女子においては、土曜日で約10分、日曜日で約12分短い。

【中学校 運動実施時間】 〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間) (平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

〈現状及び課題〉

・1週間の総運動時間は、全国と比較すると、男子が「83分短い」、女子が「119分長い」結果であった。
・平日は、全国平均と比較して男子は大きな差はみられず、女子は18分長い。
・土・日曜日は、男子において、全国平均より土曜日で約11分、日曜日で約60分短い。女子においては、土曜日で約69分長く、日曜日で約40分短い。

【改善策】

【小学校】

・体づくり運動タイムの設定による、児童の運動実施時間の確保

【中学校】

・体育実技講習会等への積極的参加の促進

【共通・その他】

・「一校一運動」及び「一家庭一運動」の推進(週2～3回15分程度) ・小中一貫教育を通じた体力向上(専門性を生かした授業実践)

・副読本や学習カード等を活用し、ねらいや目標を明確にした授業実践の促進

・たくましい「かごしまっ子」育成推進プランの定期的な点検・修正による推進プランの促進(結果を検証し対策について話し合う研修の場の設定)

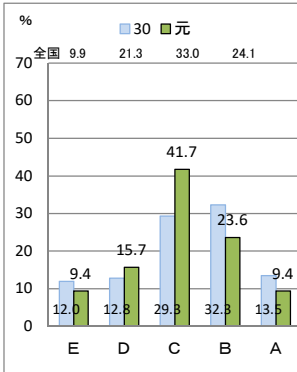
令和元年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

南さつま市 教育委員会

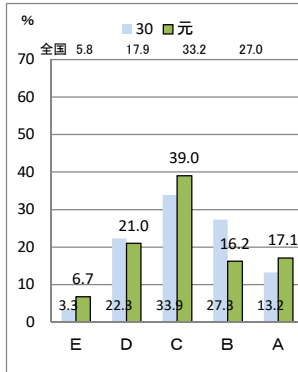
【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

※グラフ内、上の数値は、令和元年度各総合評価規準の全国の割合を表す。

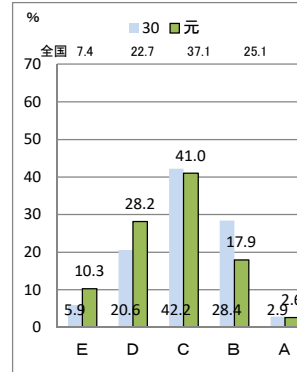


〔女子〕

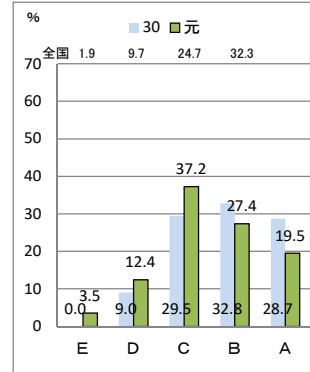


【中学校 体力総合評価】

〔男子〕



〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点～64点 C:50点～57点 D:42点～49点 E:41点以下

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

中学校 A:57点以上 B:47点～56点 C:37点～46点 D:27点～36点 E:26点以下

〈現状及び課題〉

- ・ 昨年度との比較で、男子は、Bの割合が8.7ポイント減少し、Cの割合が12.4ポイント増加している。女子は、Bの割合が11.1ポイント減少し、Cの割合が5.1ポイント増加している。
- ・ 昨年度との比較で、男女とも総合評価の数値が低くなっている。
- ・ 今後は、E、Dの児童の体力及び運動への興味・関心を高め、B、Aへ引き上げる取組が必要である。

〈現状及び課題〉

- ・ 昨年度との比較で、男子は、昨年度との比較でBの割合が10.5ポイント減少し、Dの割合が8.2ポイント増加している。女子は、Aの割合が9.2ポイント減少し、Cの割合が7.7ポイント増加している。
- ・ 昨年度との比較で、男女とも総合評価の数値が低くなっている。
- ・ 今後は、E、Dの生徒の体力及び運動への興味・関心を高め、B、Aへ引き上げる取組が必要である。

【小学校 運動実施時間】

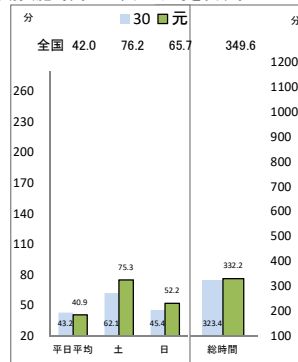
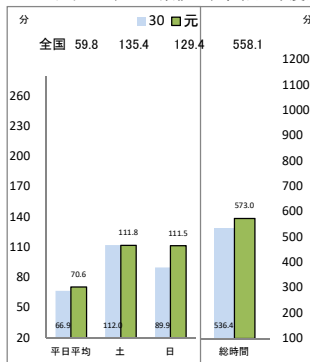
〔男子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和元年度運動実施時間の全国の平均を表す。



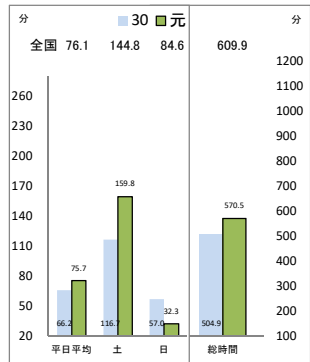
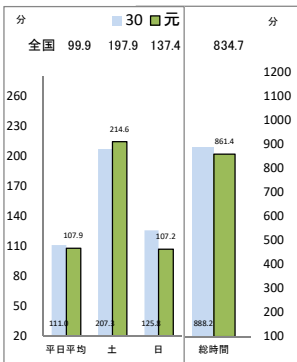
【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

〈現状及び課題〉

- ・ 男子は、平日と日曜は運動実施時間が増加している。総時間も、36.6時間増加している。
- ・ 女子は、平日の運動実施時間が減少し、土日は増加している。総時間は、8.8時間増加とほぼ、同程度である。
- ・ 男女とも、前年度より運動実施時間は上回っている。

〈現状及び課題〉

- ・ 男子は、平日と日曜で運動実施時間が増加したものの、土曜日は減少している。総時間は、わずかに減少している。
- ・ 女子は、日曜で運動実施時間が減少しているが、平日及び土曜は増加している。総時間も、65.6時間増加している。
- ・ 女子は運動時間が前年度を上回っているが、男子は下回っている。今後は、家庭への啓発を含め、運動実施時間の増加を図る必要がある。

【改善策】

【小学校】

- ・ 小学校・義務教育学校前期課程において「体力アップ！チャレンジかごしま」を全学級100%実施など、運動の日常化への取組を工夫する。

【中学校】

- ・ 中学校・義務教育学校後期課程において、運動部活動の指導の工夫改善を図る取組を進める。

【共通・その他】

- ・ 体力ナビ等を活用して、分析等を行い、自校の課題を明確にする。
- ・ 自校の課題に則した教科体育の充実(分かる・できる体育、運動量の確保、補強運動の充実、授業を通じた研修等)を行う。
- ・ 体育・保健体育に授業における補強運動の運動内容及び実施方法等の充実を図る。

令和元年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

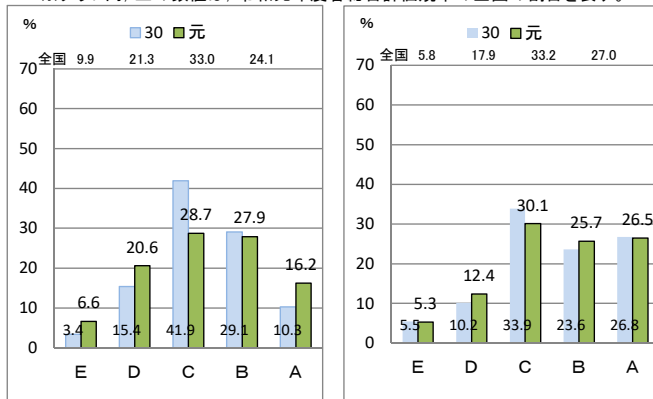
南九州市 教育委員会

【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕

※グラフ内、上の数値は、令和元年度各総合評価規準の全国の割合を表す。



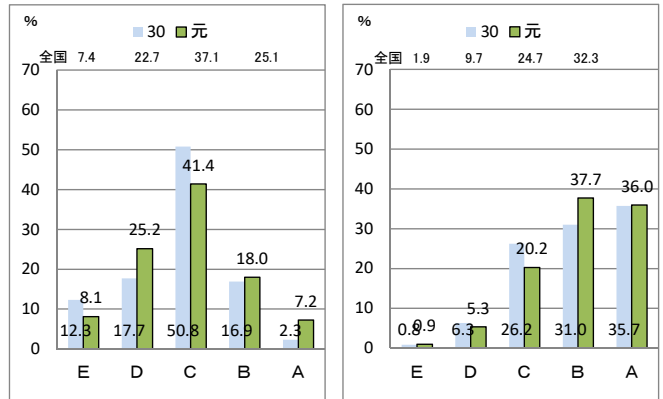
※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

小学校 A: 65点以上 B: 58点～64点 C: 50点～57点 D: 42点～49点 E: 41点以下

【中学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕



※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

中学校 A: 57点以上 B: 47点～56点 C: 37点～46点 D: 27点～36点 E: 26点以下

〈現状及び課題〉

- ・男女ともに、A+Bの割合が全国平均より高く、体力の向上がみられる。昨年度との比較も若干であるが体力の向上がみられる。
- ・D、Eの割合は減少傾向であるが二極化がみられる学校が多いため、EとDの子供の体力及び運動能力への興味・関心を高めるための取組が必要である。
- ・質問紙調査から、めあて、ねらいの設定が、県・全国と比較すると低い状況であり、今後も体育黒板等を活用した授業改善を継続的に行う必要がある。

〈現状及び課題〉

- ・女子は、A+Bの割合が全国平均より高く、昨年度と比較しても体力の向上がみられる。
- ・男子は、A+Bの割合が全国平均より低いが、昨年度との比較では体力の向上がみられるので、継続的な取組を行う必要がある。
- ・質問紙調査から、めあて、ねらいの設定が、全国と比較すると低い状況であり、今後も体育黒板等を活用した授業改善を継続的に行う必要がある。

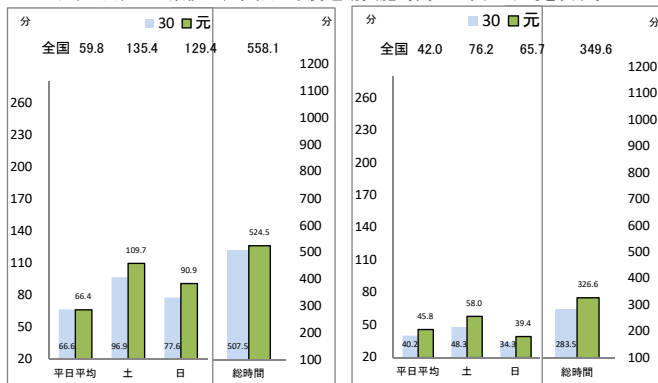
【小学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間) (平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和元年度運動実施時間の全国の平均を表す。



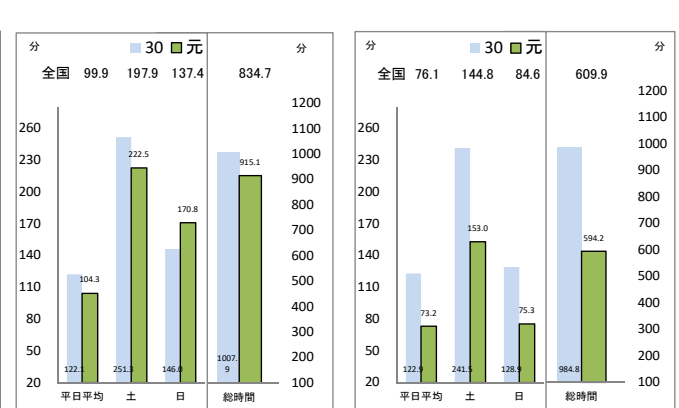
※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間) (平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

〈現状及び課題〉

- ・男女ともに、平日・休日含め運動実施時間が全国平均を下回っているものの、昨年との比較では、上回っているため、継続的な取組を粘り強く続けていく必要がある。
- ・男子は、スポーツ少年団や地域のスポーツクラブ等で土日に運動をする児童が多いが、女子は少ないため、女子が参加できる運動の場を増やす必要がある。

〈現状及び課題〉

- ・男子は、平日・休日含め運動実施時間については全国平均より長くなっており、運動実施時間が確保されているものの、男女ともに昨年との比較では、運動実施時間が減っており、課題となっている。土日も含めた適切な休養日についての設定が進んだ影響もあると考えられる。

【改善策】

- ・「体力アップ！チャレンジがしま」の取組の充実や、各学校の課題に重点化した「一校一運動」を行う。
- ・家庭で運動に親しむ取組の啓発と休日(長期休業を含む)における運動に関する課題(宿題)の提示
- ・小・中学校合同体育主任等研修会及び小中連携(授業公開)における各中学校区の体力面の課題の共通理解と共通実践事項の確認
- ・体力ナビによる児童生徒の自己の体力面の課題の自覚化を図る取組の推進

〈体育科・保健体育科の授業改善〉

- ・基礎的・基本的な動きを習得するための〇〇タイムの設定(全員が技能を習得できるための手立て)
- ・体育黒板の活用(めあて、まとめ、学習の流れ、技や動きを習得するためのコツ等)
- ・タブレットや作戦ボード等を使って、思考を可視化した教え合い・学び合いの充実

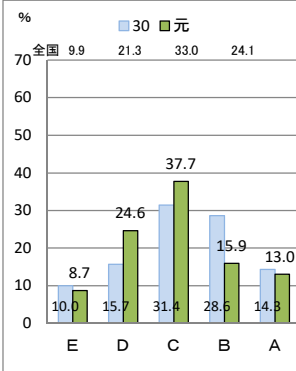
令和元年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

阿久根市 教育委員会

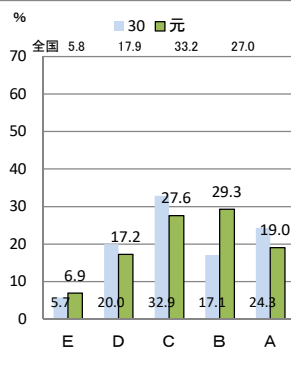
【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

※グラフ内、上の数値は、令和元年度各総合評価規準の全国の割合を表す。

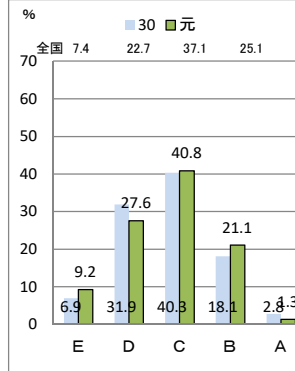


〔女子〕

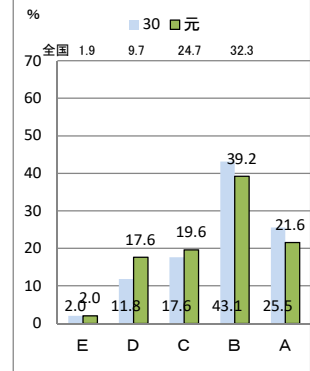


【中学校 体力総合評価】

〔男子〕



〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点～64点 C:50点～57点 D:42点～49点 E:41点以下

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

中学校 A:57点以上 B:47点～56点 C:37点～46点 D:27点～36点 E:26点以下

〈現状及び課題〉

- ・ 男子は、全体的に昨年度よりも下回っている。D、Eの児童の割合が全体の33.3%であり、昨年度から7.6ポイント増加している。これは、20Mシャトルランと50M走において、全国平均を下回っていることが要因である。
- ・ 女子は、全体的に昨年度よりも上回っている。A、Bの児童の割合が全体の48.33%であり、昨年度から6.9ポイント増加している。これは、握力、20Mシャトルラン、立ち幅跳びにおいて、全国平均を上回っていることが要因である。

〈現状及び課題〉

- ・ 男子は、全体的に昨年度よりも上回っている。これは、B、Cの生徒の割合が昨年度よりも増加しているためである。特に、握力と反復横跳びの記録が、全国平均を上回っていることが要因である。
- ・ 女子は、全体的に昨年度よりも下回っている。これは、C、Dの生徒の割合が増加しているためである。特に、握力、長座体前屈、50M走が、全国平均を下回っていることが要因である。

【小学校 運動実施時間】

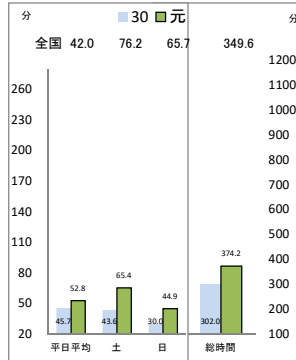
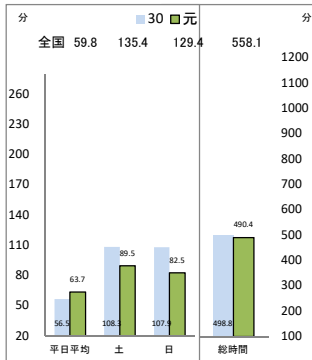
〔男子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和元年度運動実施時間の全国の平均を表す。



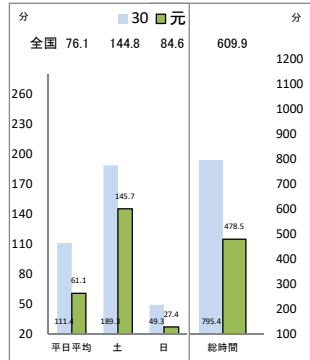
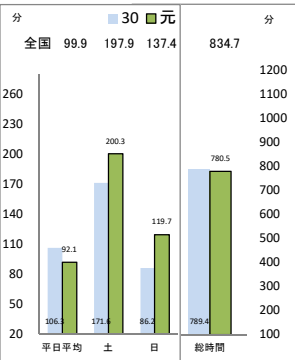
【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

〈現状及び課題〉

- ・ 男子は、平日の運動時間が、昨年よりも増加しているが、土日の時間が減少しているため、総時間数は昨年度と同じくらいである。全国や県との比較では、土日の運動時間に大幅な開きがあり、週末の過ごし方について働き掛けが必要である。
- ・ 女子は、1週間を通して昨年度よりも運動時間が増加している。全国や県との比較でも上回っている。

〈現状及び課題〉

- ・ 男子は、平日の時間が減っているものの、土日の時間が増えているため、結果的に昨年度と同じくらいの運動時間である。
- ・ 女子は、一週間を通して運動時間が短くなっており、全国と比較して20%ほど運動時間が少ない。

【改善策】

【小学校】

- ・ 本調査結果の分析とそれを基にした指導計画を立て、体育の授業の中で、計画的に補強運動等で強化を図る。

【中学校】

- ・ 本調査を生かした保健体育授業の工夫と改善。1単位時間の運動量を増やす。

【共通・その他】

- ・ 計画的に、そして継続して「チャレンジかごしま」に取り組むように管理職研修会等で啓発を行う。
- ・ 各学校で、「筋力」「巧緻性」「柔軟性」等、強化の目的に応じた補強運動を計画し、体育の時間に毎回確実に実施する。
- ・ 学校保健委員会、家庭教育学級で、土日の過ごし方を含めた児童生徒の運動に関する研修を行う。

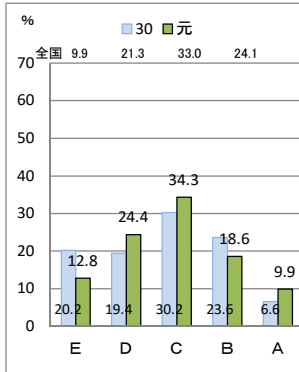
令和元年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

出水市 教育委員会

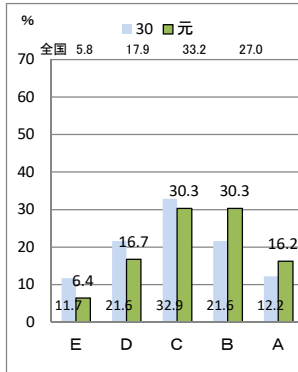
【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

※グラフ内、上の数値は、令和元年度各総合評価規準の全国の割合を表す。

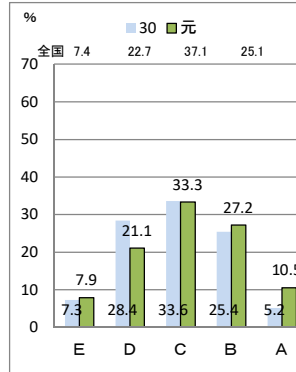


〔女子〕

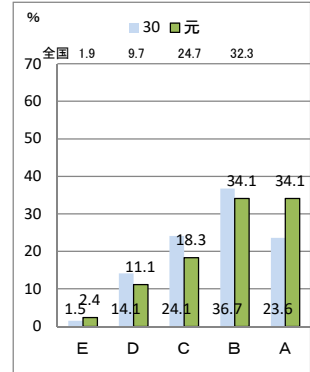


【中学校 体力総合評価】

〔男子〕



〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点~64点 C:50点~57点 D:42点~49点 E:41点以下

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

中学校 A:57点以上 B:47点~56点 C:37点~46点 D:27点~36点 E:26点以下

〈現状及び課題〉
 ・男子はEの割合が7.4ポイント減少し、Aのポイントが3.3ポイント増加している。
 ・女子はEの割合が5.3ポイント減少し、Aのポイントが4ポイント増加している。
 ・全国と比較して、男子はEの児童の割合が2.9ポイント高い。女子もEの割合が0.6ポイント高い。
 ・男女ともにEの割合が多いが前年度からは改善が見られる。引き続き運動の苦手な傾向にある児童への取組が必要である。また、男子においてC・Dの児童を引き上げる取組も必要である。
 ・女子は、A・Bの割合が全国平均を上回っている。

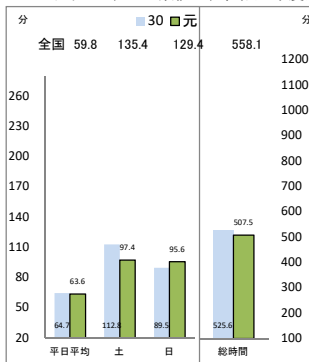
〈現状及び課題〉
 ・男子はDの割合が7.3ポイント減少し、Aの割合が5.3ポイント増加している。
 ・女子はDの割合が3ポイント減少し、Aの割合が10.6ポイント増加している。
 ・男女ともにE・D・Cの割合は減少しB・Aの割合が増加している。
 ・E・Dの割合は減少傾向であるが、さらに運動への興味関心を高める支援が必要である。
 ・男女ともに、B・Aの生徒の割合が全国平均を上回っている。

【小学校 運動実施時間】

〔男子〕

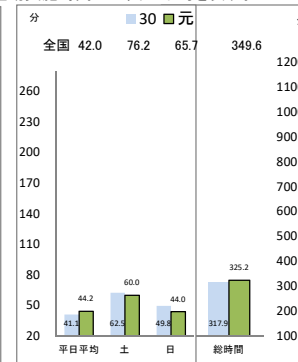
(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和元年度運動実施時間の全国の平均を表す。



〔女子〕

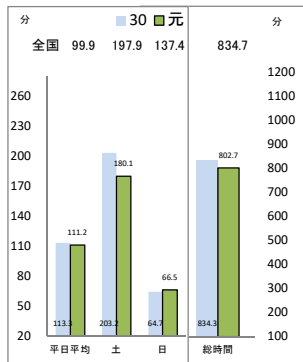
(平日の平均及び土日)(1週間)



【中学校 運動実施時間】

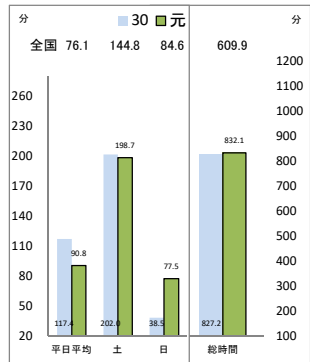
〔男子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)



〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

〈現状及び課題〉
 ・1週間の総運動時間は、全国平均と比較すると、男子は短く、女子はわずかに短い結果であった。
 ・平日は、全国平均と比較しても男女ともほとんど差がない。
 ・土曜日・日曜日ともに、全国平均と比較すると男子は短く、女子はわずかに短くなっている。休みの日の運動時間の確保に課題がある。

〈現状及び課題〉
 ・男子の1週間の総運動時間は、全国平均と比較すると、やや短い。
 ・女子の1週間の総運動時間は、全国平均と比較すると、長い。
 ・女子の日曜日の運動時間は昨年度と比較すると長くなっている。また、土曜日についても、全国平均と比較すると長くなっている。
 ・平日の運動時間は、ほとんど差がない。

【改善策】

【小学校・中学校共通】

- ・学校の課題を踏まえて、授業の中で、年間を通して継続的に補強運動を取り入れる。(ランニング・チャレンジかごしまの種目・サーキットトレーニング等)
- ・学習の進め方や約束などの指導を計画的・効果的に行い、説明や話し合いの時間が、体育授業の総時間の20%を超えないように、80%以上の運動時間を確保する。
- ・「たくましい」かごしまっ子育成推進プランをもとにした平日の運動時間確保のための一校一運動の効果的な実施、歩行1kmの推進、チャレンジかごしま(長縄エイトマン等)の全校取組を行う。
- ・休日における運動やスポーツの実施時間を確保させるための各学校における具体的な取組を実施させるとともに、市主催の運動行事等への積極的参加を促す。

令和元年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

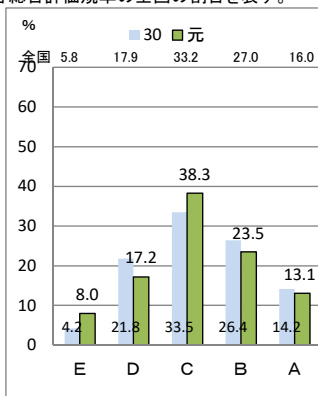
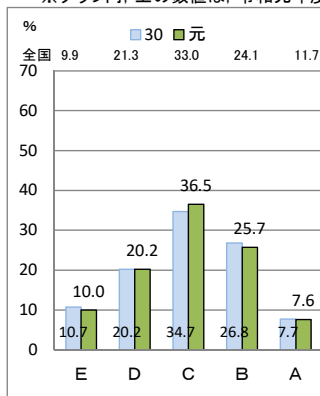
薩摩川内市 教育委員会

【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕

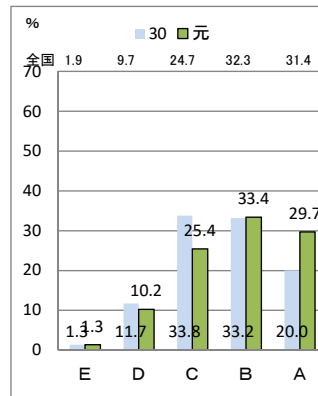
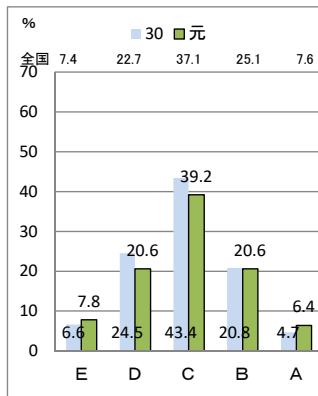
※グラフ内、上の数値は、令和元年度各総合評価規準の全国の割合を表す。



【中学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

小学校 A: 65点以上 B: 58点~64点 C: 50点~57点 D: 42点~49点 E: 41点以下

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

中学校 A: 57点以上 B: 47点~56点 C: 37点~46点 D: 27点~36点 E: 26点以下

〈現状及び課題〉

- ・全国と比較すると、男子はCの割合が3.5ポイント高く、Aの割合が4.1ポイント低い。女子はCの割合が5.1ポイント高く、Aの割合が2.9ポイント、Bの割合が3.5ポイント低い。
- ・昨年と比較すると男女ともにCの割合が増加し、A・Bの割合が減少している。
- ・男女とも、E、D、Cの児童の体力に関する興味・関心を高めさせ、Cの児童をBに、Bの児童をAに引き上げる体力向上の取組が必要である。

〈現状及び課題〉

- ・全国と比較すると、男子はCの割合が2.1ポイント高く、Bの割合が4.5ポイント、低い。女子はBの割合が1.1ポイント高く、Aの割合が1.7ポイント低い。
- ・昨年と比較すると男子はA・Eの割合が増加し、C・Dの割合が減少している。女子はA・Bの割合が増加し、C・Dの割合が減少している。
- ・男子はE、D、Cの生徒をBより上へ引き上げ、女子はD、Cの生徒をBより上へ引き上げる体力向上の取組が必要である。

【小学校 運動実施時間】

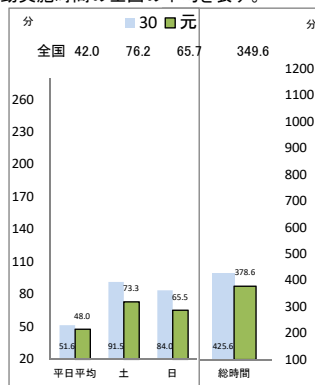
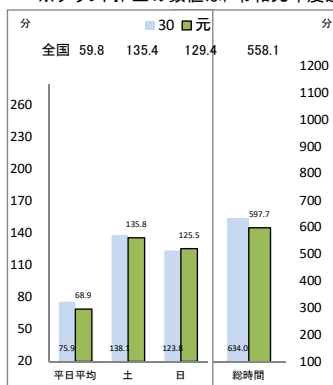
〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和元年度運動実施時間の全国の平均を表す。



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

【中学校 運動実施時間】

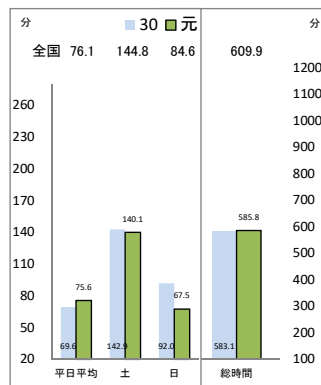
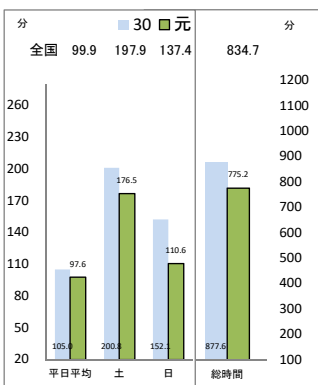
〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和元年度運動実施時間の全国の平均を表す。



※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

〈現状及び課題〉

- ・全国と比較して、1週間の総運動時間は、男子は39分程、女子は29分程長い。平日、土・日曜日の運動時間は、男女とも平日は長く、土・日曜日は短い傾向にある。
- ・昨年度と比較すると、男女共に減少傾向にある。
- ・特に、平日の運動時間の確保と、女子の土・日曜日の運動時間確保の手立てが必要である。

〈現状及び課題〉

- ・全国と比較して、1週間の総運動時間は、男子は59分程、女子は24分程短い。平日、土・日曜日の運動時間は、男女共に土・日曜日が短い。
- ・昨年度と比較すると、男子は、全体的に運動時間は減少し、女子は特に、日曜日の運動時間が大きく減少している。
- ・男子は平日、土・日曜日、女子は土・日曜日の運動時間確保の手立てが必要である。

【改善策】

【小学校】

- ・小学校体育主任等研修会の充実(体力の現状分析と具体的な手立ての紹介、学校規模に応じた取組の協議及び情報交換)

【中学校】

- ・「チャレンジかごしま」の全校実施(休み時間、特別活動、学校行事での長縄跳び等の実施や生徒会と連携した取組)

【共通・その他】

- ・たくましい「かごしまっ子」育成推進プランに基づいたPDCAサイクルによる体力向上の取組の推進(管理職研修会等の活用)
- ・新しい学習指導要領の内容を踏まえた授業改善のための研修の実施(5分間体力づくりチャレンジ等の設定、年間を通した取組等)
- ・学校の実態に応じた「一校一運動」の取組や家庭と連携した「一家庭一運動」の啓発による平日、土・日曜日の家庭での運動時間の確保

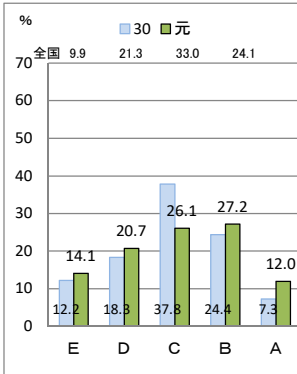
令和元年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

さつま町 教育委員会

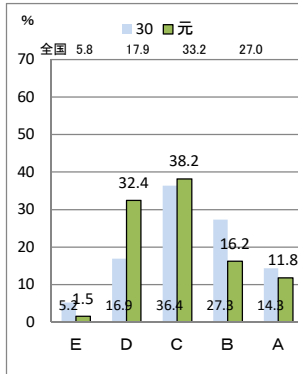
【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

※グラフ内、上の数値は、令和元年度各総合評価規準の全国の割合を表す。

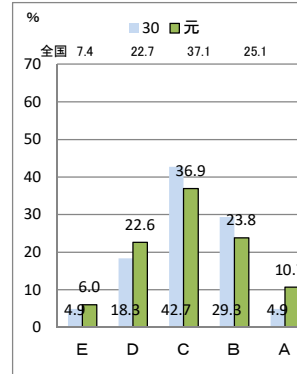


〔女子〕

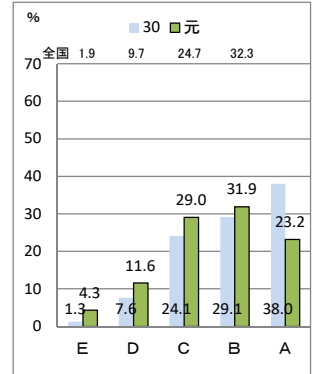


【中学校 体力総合評価】

〔男子〕



〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

小学校 A: 65点以上 B: 58点～64点 C: 50点～57点 D: 42点～49点 E: 41点以下

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

中学校 A: 57点以上 B: 47点～56点 C: 37点～46点 D: 27点～36点 E: 26点以下

〈現状及び課題〉

- ・男子は、Aの割合が4.7ポイント増加、Bの割合が2.8ポイント増加と、高い層が増えているが、一方で、Eの割合も1.9ポイント増加、Dの割合も2.4ポイント増加と、低い層も増えている。
- ・女子は、A、Bの割合が減り、C、Dの割合が大幅に増加している。ただし、Eの割合の児童は減っている。
- ・男子はD・E、女子はC・Dの層を引き上げるために、体力及び運動への興味・関心を高め、継続して運動させることが必要である。

〈現状及び課題〉

- ・男子は、Aの層が昨年度より倍増しているが、D及びEの層も増えており、二極化が進んでいる。
- ・女子は、Aの層が減り、D及びEの層が増えていることから、全体的に体力等が低下しているといえる。
- ・男女ともD及びEの層が昨年度よりも増えているので、引き上げるための取組が必要である。

【小学校 運動実施時間】

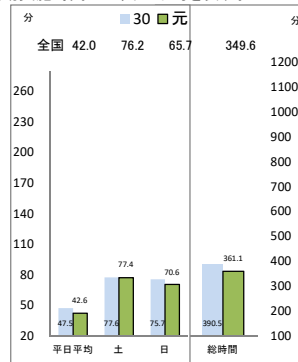
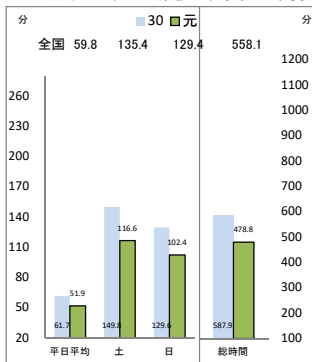
〔男子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和元年度運動実施時間の全国の平均を表す。



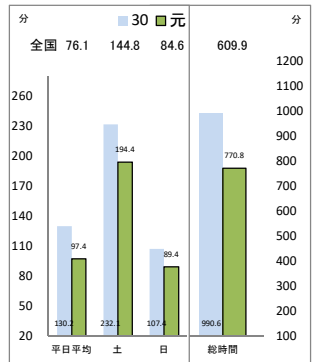
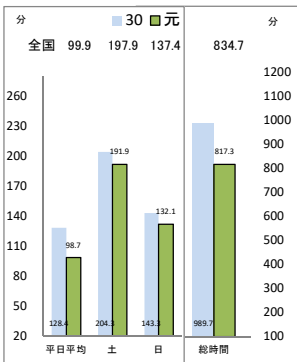
【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

〈現状及び課題〉

- ・男子は、昨年度に比べ100時間以上減っており、全国平均を大幅に下回っている。
- ・女子は、昨年度よりやや減ったものの、全国平均は上回っている。
- ・土・日曜日は、女子はほとんど差がないが、男子は全国平均より大きく下回っている状況である。

〈現状及び課題〉

- ・男子は、昨年度と比較すると、大幅に運動実施時間が減っており、全国平均よりも下回っている。
- ・女子も、昨年度と比較すると、男子よりも更に大幅に運動実施時間は減っているが、全国平均よりは上回っている。
- ・男子の土・日の運動時間の確保に向けた手立てが必要である。

【改善策】

【小学校】

- ・教科体育において、課題となっている体力や運動能力を補強する運動の実施
- ・家庭での体力づくりの必要性の啓発と、週休日の運動時間の確保

【中学校】

- ・運動部活動に加入していない生徒や、バス通学の生徒の運動量の確保(教科体育及び教科外体育の充実)

【共通】

- ・「体力向上！チャレンジかごしま」に併せて本町主催の「さつまランキング」を全学校で実施し、運動機会を確保
- ・社会教育課とも連携した「睡眠&メディア日誌」(睡眠やメディア使用の記録)の取組による生活習慣の見直し

令和元年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

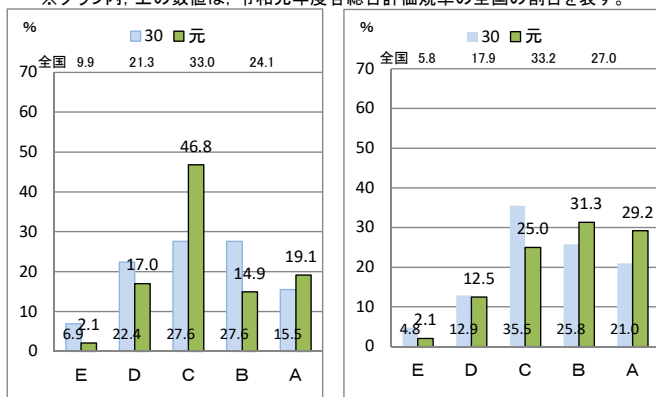
長島町 教育委員会

【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕

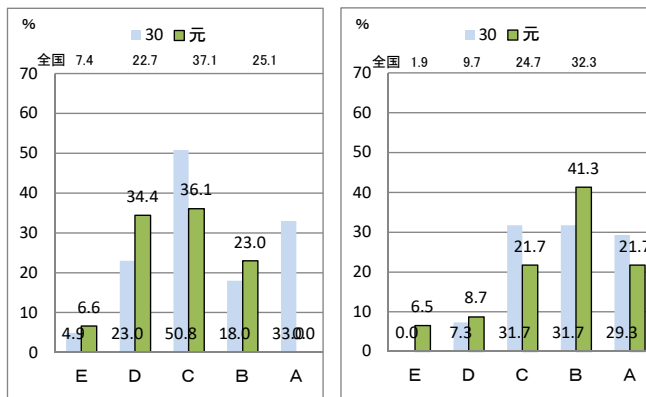
※グラフ内、上の数値は、令和元年度各総合評価標準の全国の割合を表す。



【中学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価標準(得点)を示す。

小学校 A: 65点以上 B: 58点~64点 C: 50点~57点 D: 42点~49点 E: 41点以下

※ グラフの縦軸は、総合評価標準の児童生徒の割合(%)を示す。

中学校 A: 57点以上 B: 47点~56点 C: 37点~46点 D: 27点~36点 E: 26点以下

〈現状及び課題〉

- ・ 全国と比較し、女子はA+Bの割合は高く、男子は同程度である。
- ・ 前年度と比較して、A+Bの割合が、男子は9.1ポイント下回っているが、女子は13.7ポイント上回っている。D+Eの割合は、男子が10.2ポイント下回り、女子が3.1ポイント下回っている。
- ・ 前年度と比較し、男女ともに全体的な体力の底上げが図られつつある。女子は上位層の伸びが見られる。

〈現状及び課題〉

- ・ 全国と比較し、A+Bの割合が、男子は9.7ポイント下回り、女子は0.7ポイント下回っている。
- ・ 前年度と比較し、A+Bの割合が男子は28ポイント下回っているが、女子は2ポイント上回っている。D+Eの割合が男子は13.1ポイント、女子は7.9ポイント上昇している。
- ・ 男女ともに全体的な体力の底上げを図る必要がある。

【小学校 運動実施時間】

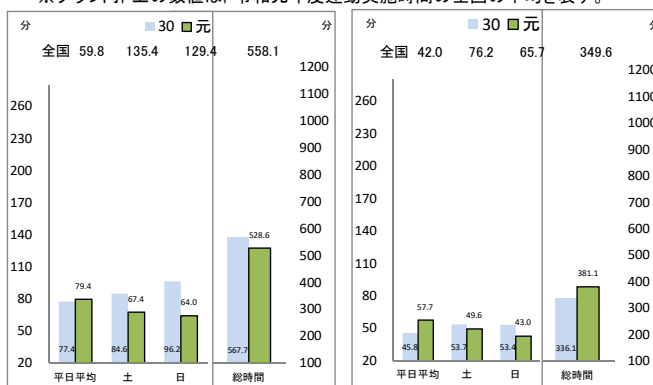
〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和元年度運動実施時間の全国の平均を表す。



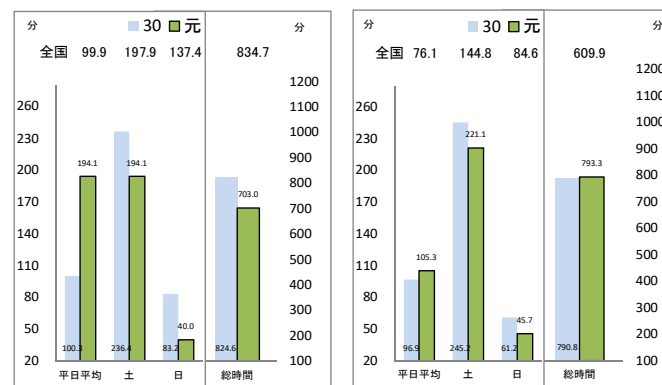
【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

〈現状及び課題〉

- ・ 全国と比較した運動実施時間は、男女ともに平日が全国を上回っている。総時間では女子が全国を上回っている。
- ・ 前年度と比較すると、総時間で男子は39.1分下回り、女子は45分上回っている。
- ・ 教科体育における運動量確保とともに、運動に対する興味・関心を高めるとともに、運動習慣の育成を図る必要がある。

〈現状及び課題〉

- ・ 全国と比較して、総時間が男子は131.7分下回っているが、女子は183.4分上回っている。平日の実施時間は男女ともに全国を上回っている。
- ・ 前年度と比較して、平日の実施時間が男子で93.8分、女子で6.4分上回っている。教科体育の時間以外の運動量が増加している。
- ・ 男女ともに平日の運動時間の確保及び運動に対する興味・関心を高めるとともに、運動習慣の育成を図る必要がある。

【改善策】

【小学校】

- ・ 「一校一運動」及び「体力アップ！チャレンジかごしま」への取組を通して、児童の運動に対する興味・関心を高めるとともに、運動に親しむ習慣を身に付けさせるための働きかけを継続して行う。
- ・ 教科体育の中で運動量を十分確保するとともに、走力を高める運動や柔軟性を高める運動を効果的に取り入れるようにする。

【中学校】

- ・ 「一校一運動」及び「体力アップ！チャレンジかごしま」への取組を継続して行い、運動に対する興味・関心を高める取組を行う。
- ・ 体育の時間における運動量を確保する手立てを行うとともに、運動する機会が少ない生徒への働きかけを行う。

【共通】

- ・ 学校、家庭、地域と連携を図り、地域で開催されるスポーツ行事や町主催行事への積極的な参加を促す。

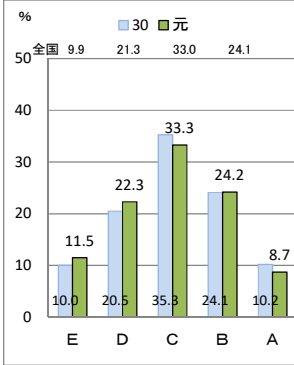
令和元年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

霧島市 教育委員会

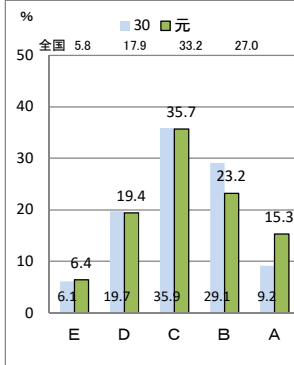
【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

※グラフ内、上の数値は、令和元年度各総合評価規準の全国の割合を表す。

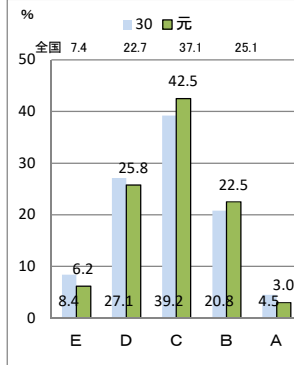


〔女子〕

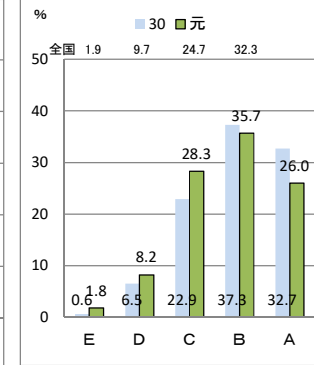


【中学校 体力総合評価】

〔男子〕



〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点~64点 C:50点~57点 D:42点~49点 E:41点以下

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

中学校 A:57点以上 B:47点~56点 C:37点~46点 D:27点~36点 E:26点以下

〈現状及び課題〉

- ・男子は、Aの割合が1.5ポイント減少するとともに、DとEの割合がそれぞれ増加し、体力低下の傾向である。
- ・女子は、Bの割合が5.9ポイント減少したものの、Aの割合が6.1ポイント増加しているため、全体として体力の向上が伺える。
- ・AとBのポイントの和から、DとEのポイントの和を差し引くと、女子の12.7ポイントに対し、男子は-0.9ポイントであり、特に、下位層の引き上げ(E→D, D→C)による全体の底上げが必要である。

〈現状及び課題〉

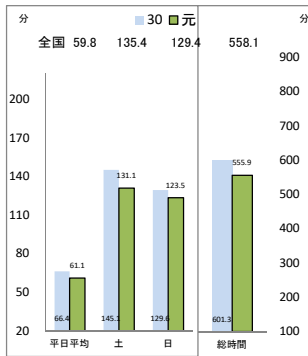
- ・男子は、Aの割合が1.5ポイント下がったものの、DとEの割合もそれぞれ減少したため、全体として若干の体力向上が伺える。
- ・女子は、上位層であるAとBの割合がそれぞれ減少し、Cの割合が5.4ポイント増加したため、全体として体力が落ち込んでいる。
- ・AとBのポイントの和から、DとEのポイントの和を差し引くと、男子は-6.5ポイントと、前年度から改善したが、依然低い値である。女子は51.7ポイントと高い値であるが、前年度比-11.2ポイントと大きく下がった。

【小学校 運動実施時間】

〔男子〕

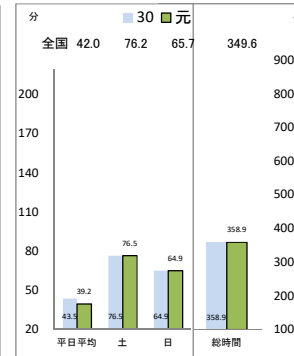
(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和元年度運動実施時間の平均を表す。



〔女子〕

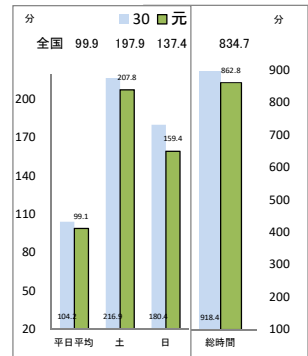
(平日の平均及び土日)(1週間)



【中学校 運動実施時間】

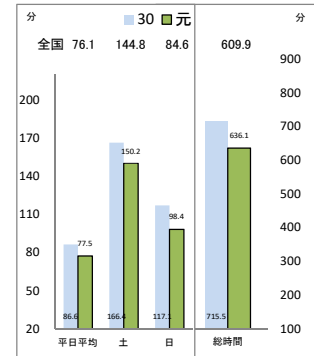
〔男子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)



〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

〈現状及び課題〉

- ・1週間の総運動時間は、全国平均と比べると、男女ともにほとんど差がみられない状況である。
- ・男子は、平日、土日ともに、前年度から運動時間が減っているため、運動習慣を高める手立てが必要である。
- ・女子は、平日の運動時間が減少したものの、土日は増加し、週当たりの総運動量は増加した。しかし、全体として少ない傾向にある。

※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

〈現状及び課題〉

- ・1週間の総運動時間は、全国平均と比べると、男女ともにわずかに長い状況である。
- ・男女ともに、平日、土日ともに、前年度から運動時間が減っている。特に女子は週当たりの運動量が36分も減っており、その実態が調査結果に反映されている。
- ・男女ともに、運動習慣の育成と運動量の確保が課題である。

【改善策】

【小学校】

- ・男子は、下位層の体力向上を図るため、毎時間の授業において、実態に応じた補強運動に継続して取り組ませる。
- ・女子の運動量を確保するため、「体力アップ チャレンジかごしま」への積極的な取組を促し、運動習慣の育成を図る。

【中学校】

- ・運動時間が大きく減少したため、各種研修会において、運動量の確保について取り扱い、授業改善を図る。

【共通・その他】

- ・1回のスポーツテストで、児童生徒が最大限の能力を発揮できるよう、「もっている力を引き出す指導のポイント」を活用し、指導体制を確立させる。
- ・前年度の記録を確認させるなどして、児童生徒を意欲付け、「1」にこだわる取組を通して、最大限の力を発揮できる実施環境を整える。

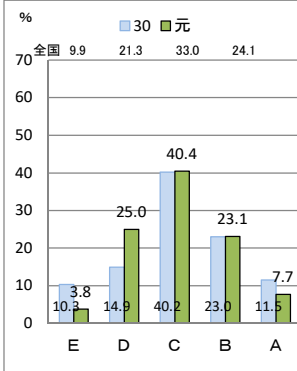
令和元年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

伊佐市 教育委員会

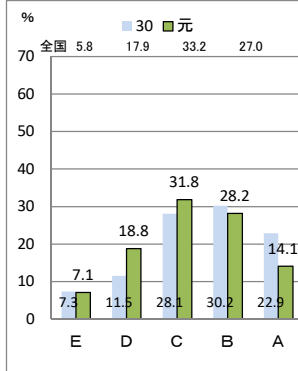
【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

※グラフ内、上の数値は、令和元年度各総合評価規準の全国の割合を表す。

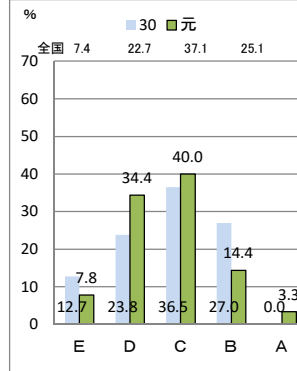


〔女子〕

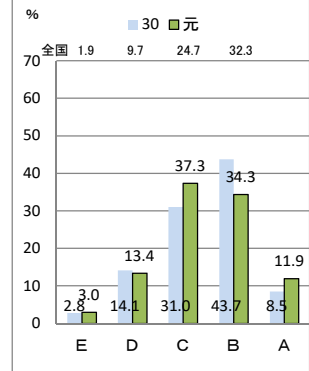


【中学校 体力総合評価】

〔男子〕



〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点～64点 C:50点～57点 D:42点～49点 E:41点以下

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

中学校 A:57点以上 B:47点～56点 C:37点～46点 D:27点～36点 E:26点以下

〈現状及び課題〉

- ・男子はBの割合が、0.1ポイント、Cの割合が0.2ポイント、Dの割合が10.1ポイント増加した。Aの割合は、3.8ポイント、Eの割合が6.5ポイント減少している。
- ・女子はCの割合が3.7ポイント、Dの割合が7.3ポイント増加した。Aの割合が8.8ポイント、Bの割合が2ポイント、Eの割合が0.2ポイント減少している。
- ・全体で見ると男子は、全国・県の平均を上回っている。女子は、県を上回ったが、全国を下回る結果だった。男女とも長座体前屈(柔軟性)に課題がある。上体起こし(筋力)は男子は改善し、女子は課題として残っている。
- ・男女とも特にD層の児童の運動量の確保や興味・関心を高めることが必要である。

〈現状及び課題〉

- ・男子はAの割合が3.3ポイント、Cの割合が3.5ポイント、Dの割合が10.6ポイント増加している。Bの割合は12.6ポイント、Eの割合は、4.9ポイント減少している。
- ・女子はAの割合が3.4ポイントCの割合が6.3ポイント増加した。Bの割合は、9.4ポイント、Dの割合は、0.7ポイント減少した。
- ・全体で見ると男女とも全国・県平均を下回っている。種目別にみると、女子は全ての種目において、全国平均を下回り、男子は握力、ハンドボール投げを除く種目において、全国平均を下回っている。
- ・男子はE、女子はD、Eの生徒の体力及び運動への興味・関心を高めるとともに、Cの児童の能力を更に高める取組が必要である。

【小学校 運動実施時間】

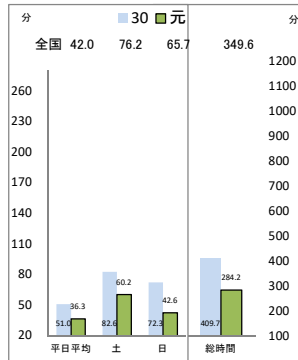
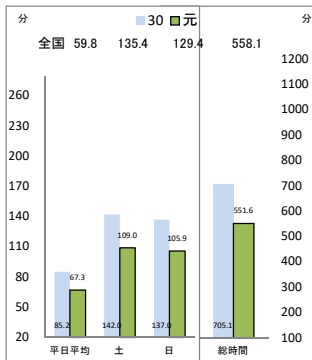
〔男子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和元年度運動実施時間の全国の平均を表す。



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

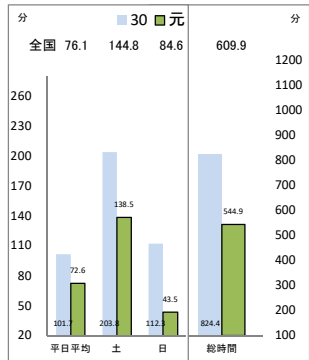
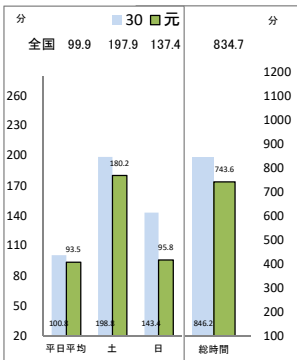
【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

〈現状及び課題〉

- ・男女とも平日、土日も含めた運動時間が昨年度より大きく減少し、全国・県平均に比べて下回っている。
- ・運動をする子とあまりしない子の二極化の現状が高まっている状況があり、課題となっている。

〈現状及び課題〉

- ・男女とも平日、土日も含めた運動時間が減少し、全国・県平均に比べて下回っている。特に女子生徒の運動量の低下が大きい。特に日曜日の運動時間が減ったことから、総運動時間も減少している。
- ・曜日別で見ると、男女とも水曜日と日曜日の運動時間が非常に短くなっており、週2日の部活動休業日の影響がうかがえる。

【改善策】

【小学校】

- ・今後も朝の活動や業間の活動に、運動に親しむ時間を設定し、「昔遊び(鬼ごっこ等)」「チャレンジかごしまの種目」に取り組むことで、平日の運動実施時間を確保する。また、柔軟性や筋力を高めるストレッチや体づくり運動等にも取り組ませる。
- ・定期的な学校訪問を行い、体育の一単位時間の授業モデルを検討し、共通理解の下、授業充実を図り、授業を通じた体力向上を図っていく。

【中学校】

- ・運動部活動指導者の指導方法改善を行うために、各種研修会等への積極的な参加を促す。また、学校を訪問した際に、情報交換を行い、授業充実を通じた運動への興味・関心を高めることにより、体力向上を図っていく。

【共通、その他】

- ・「昔遊び」、「チャレンジかごしまの取組」、「体力運動能力調査の2回実施と指導結果の分析」

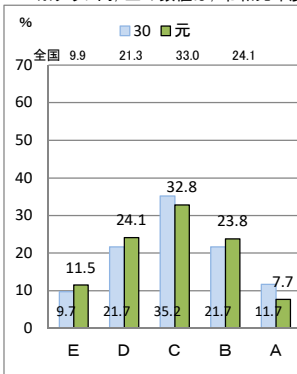
令和元年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

始良市 教育委員会

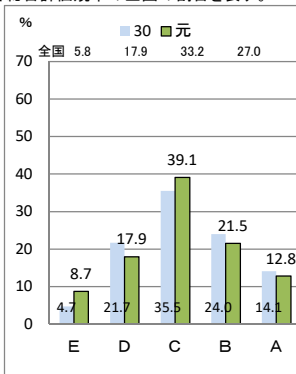
【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

※グラフ内、上の数値は、令和元年度各総合評価規準の全国の割合を表す。

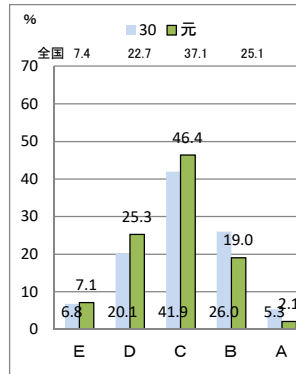


〔女子〕

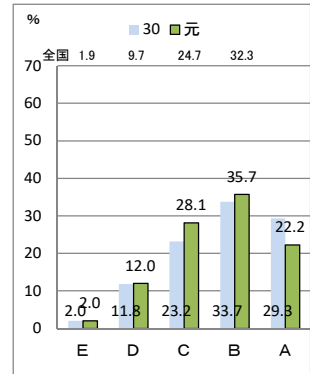


【中学校 体力総合評価】

〔男子〕



〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

小学校 A: 65点以上 B: 58点～64点 C: 50点～57点 D: 42点～49点 E: 41点以下

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

中学校 A: 57点以上 B: 47点～56点 C: 37点～46点 D: 27点～36点 E: 26点以下

〈現状及び課題〉

・男子は前年度と比較して、(A+B)の児童が1.9ポイント減少し、(D+E)の児童が4.2ポイント増加している。Aの児童が減少し、Eの児童が増加していることから、運動の二極化が進んだものと考えられる。
・女子は前年度と比較して、(A+B)の児童が3.8ポイント減少し、(D+E)の児童が0.2ポイント増加している。男子同様、二極化の傾向が見られる。

〈現状及び課題〉

・男子は前年度と比較して(A+B)の生徒が10.2ポイント減少し、(D+E)の生徒が5.5ポイント増加しており、全体的な体力の低下が見られる。特に、A、Bの上位層が伸び悩みが見られる。
・女子は前年度と比較して、(A+B)の生徒が5.1ポイント減少したが、(D+E)の生徒が0.2ポイント増加している。Bの生徒をAに引き上げる取組が必要である。

【小学校 運動実施時間】

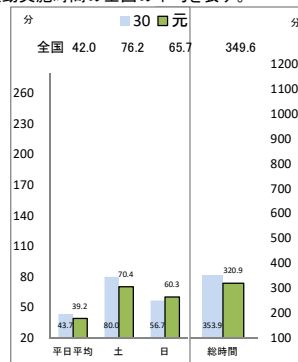
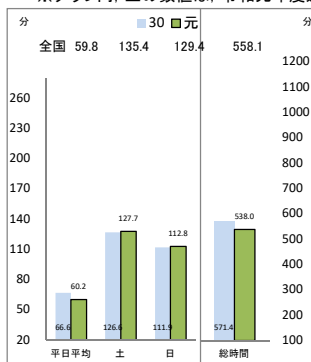
〔男子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和元年度運動実施時間の全国の平均を表す。



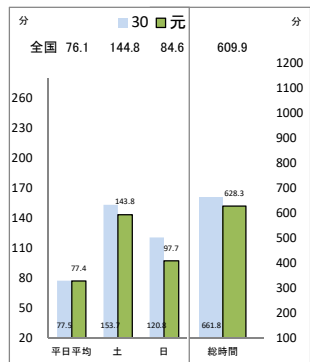
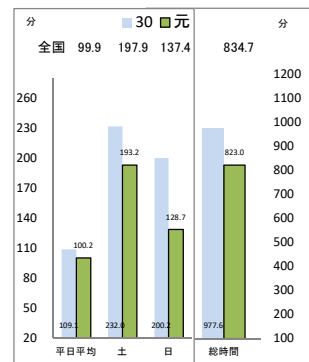
【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

〈現状及び課題〉

・全国と比較した一週間の総運動時間は、男子が「ほとんど差がない」、女子が「わずかに短い」結果であった。
・前年度と比較すると、総時間で、男女ともに「わずかに短い」結果となった。男女ともに、平日の平均が減少しており、日常生活の中で運動する時間の増加と外遊びの増加を図る手立てが必要である。

〈現状及び課題〉

・全国と比較した一週間の総運動時間は、男女ともに「ほとんど差がない」結果であったが、男子は全国平均を下回っている。
・前年度と比較すると、男女ともに平日、土、日曜日全てで減少している。運動離れの傾向及び部活動の適切な休養措置等によって、減少が見られたものと考えられる。今後、原因を分析し、運動の量と質の向上を図る指導に努めたい。

【改善策】

「体力・気力アップ始良っ子育成プラン」(体力向上推進計画)に基づいた始良っ子の育成(小・中学校共通)

- ① 調査結果の分析を行い、教科体育、一校一運動等での補強運動の設定と、継続的な取組を図る。
- ② 学習内容を明確にした授業実践と一単位時間の運動量の確保。毎時間の体育授業内での補強、柔軟運動の継続した取組を図る。
- ③ 「体力アップ! チャレンジかごしま」へ市内全学校で取り組ませ、運動の楽しさ、意欲を高める指導の充実を図る。
- ④ 教師の指導力向上を図る「体力・気力アップ始良っ子育成研修会」、「小・中学校体育主任研修会」等の実施。
- ⑤ 「眠育」指導を中心とした生活習慣の確立と、運動の日常化を目指す「家庭一運動」の推進。
- ⑥ 体力向上リーフレットの活用及びホームページ等を活用した広報の充実。
- ⑦ 幼児期運動指針を活用した幼児期からの運動習慣の基盤づくりの充実を図る。

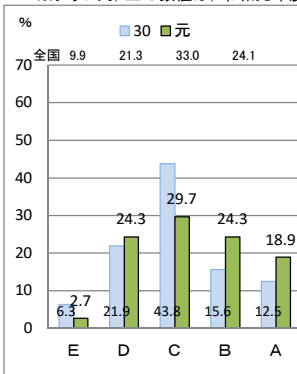
令和元年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

湧水町 教育委員会

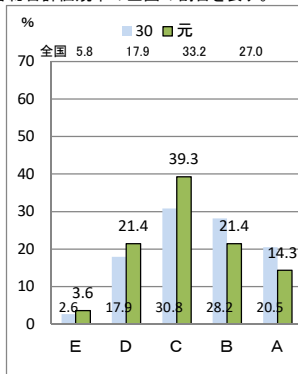
【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

※グラフ内、上の数値は、令和元年度各総合評価規準の全国の割合を表す。

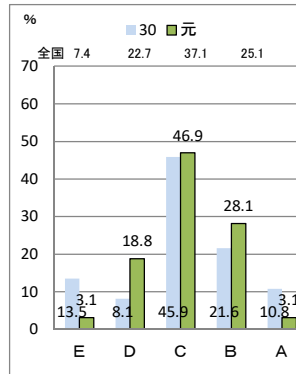


〔女子〕

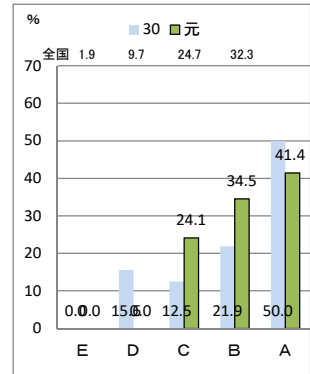


【中学校 体力総合評価】

〔男子〕



〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点~64点 C:50点~57点 D:42点~49点 E:41点以下

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

中学校 A:57点以上 B:47点~56点 C:37点~46点 D:27点~36点 E:26点以下

〈現状及び課題〉

- ・男子はEが減少し、A、Bの割合が増加するなど、前年度に比べて体力の向上が見られる。
- ・女子は、A、Bの割合が減少し、全体的にやや体力の低下が見られる。
- ・T得点で全国と比較すると男子は52.2で全国を上回っているが、女子は48.9で、やや下回っている。特に共通して全国との差の大きい長座体前屈の向上に向けた運動習慣の改善を図る必要がある。

〈現状及び課題〉

- ・男子はA、Eの割合が減少し、B、C、Dが増加し、ばらつきが見られなくなった。
- ・女子は、D、Eの割合は0%で、A、Bの割合が75%以上と前年以上の好成績を示している。
- ・男女ともに、総合評価が向上しており、今後も教科体育や部活動、さらに日常生活も含めた生徒の主体的な体力づくりの継続が大切である。

【小学校 運動実施時間】

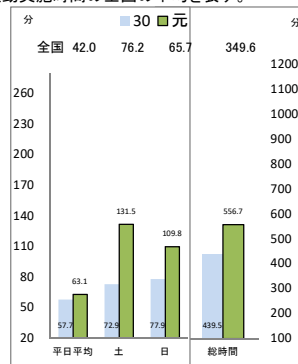
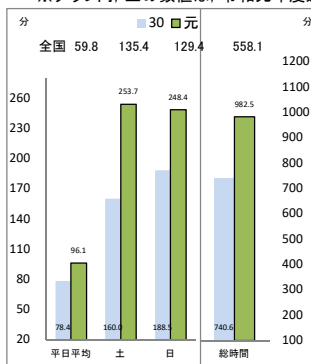
〔男子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和元年度運動実施時間の全国の平均を表す。



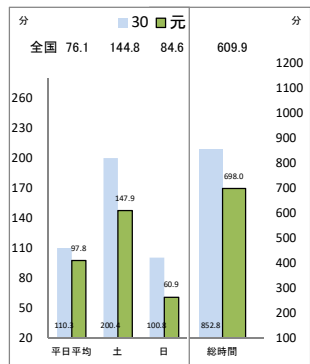
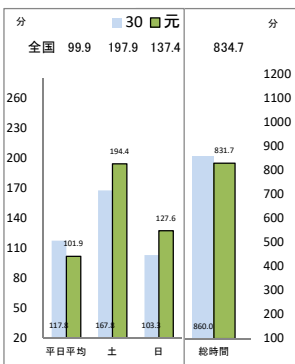
【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

〈現状及び課題〉

- ・1週間の総運動実施時間は、全国と比較すると男女ともに大きく上回っており、前年度に比べても大きく増加している。
- ・特に週末の運動時間の増加が著しい。
- ・今後も学校、地域と連携し、運動遊びの場・時間・環境の確保に努めることが大切である。

〈現状及び課題〉

- ・男子の週末の運動実施時間は、前年と比較して増加し、総運動実施時間はやや減少しているが、どちらも全国と同程度である。
- ・女子は、前年度と比較して減少しているものの日曜日以外の運動実施時間は全国平均を上回っている。
- ・量より質(内容のある運動)への転換が課題である。

【改善策】

<小学校> ・運動量を確保した体育授業の充実と、異学年で運動遊びを行う環境づくりの推進

<中学校> ・町内2校の連携による、体育的行事、部活動等の合同実施のさらなる推進

<共通>

・授業の工夫・改善: ◇授業の導入時→目標(めあて・ねらい等)を児童・生徒に示す。(確認する)

◇授業の展開時→児童生徒同士で話し合ったり、助け合う活動を積極的に取り入れたりする。(ICTの活用)

◇授業の終末時→授業で学習したことを振り返る活動を行う。

・授業以外の取組の充実: ◇各学校の特色を生かした早朝の体力づくりの推進(県=「チャレンジかごしま」、町=「遊・友・湧水島」への町内全校参加)

◇地域と連携した行事(豊祭相撲大会、町内一周駅伝大会、校区運動会等)を目標にした体力づくりの推進

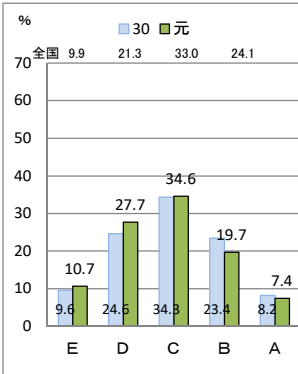
令和元年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

鹿屋市 教育委員会

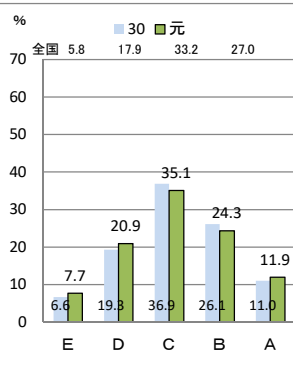
【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

※グラフ内、上の数値は、令和元年度各総合評価規準の全国の割合を表す。

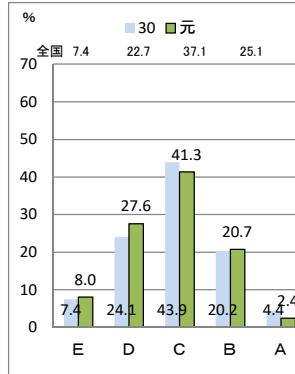


〔女子〕

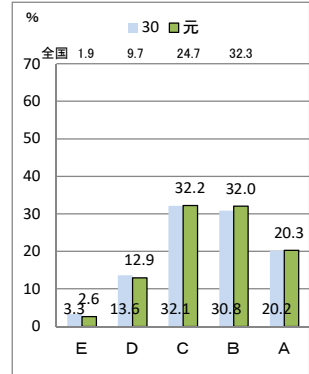


【中学校 体力総合評価】

〔男子〕



〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点～64点 C:50点～57点 D:42点～49点 E:41点以下

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

中学校 A:57点以上 B:47点～56点 C:37点～46点 D:27点～36点 E:26点以下

〈現状及び課題〉

- ・ A+Bは男子が4.5ポイント、女子が0.9ポイント減少し、D+Eは男子が4.2ポイント、女子が2.7ポイント増加している。また、男女ともに全国と比較してA+Bが少なく、D+Eが多い。
- ・ 昨年度より女子のAが増加しているが、男女ともに全国よりAが少なく、Eが多い傾向が見られるので、運動が得意なA+Bを更に伸ばし、運動が苦手なD+Eを減らす教科体育の授業改善の取組や教科外体育の充実が必要である。

〈現状及び課題〉

- ・ A+Bは男子が1.5ポイント減少、女子は1.3ポイント増加し、D+Eは男子が4.1ポイント増加、女子は1.4ポイント減少している。男女ともに全国と比較してA+Bが少なく、D+Eが多い。
- ・ 昨年度より女子のA+Bが増加しているが、国のポイントより低い。男子はAが減少しているため、A+Bを更に伸ばし、D+Eを減らすよう運動への興味関心を高め、教科保健体育の授業改善の取組や教科外体育の充実を図る取組が必要である。

【小学校 運動実施時間】

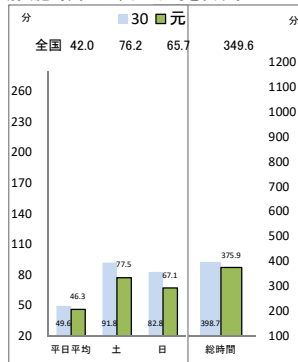
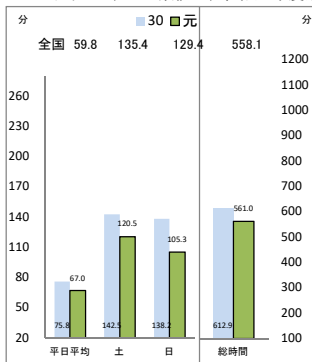
〔男子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和元年度運動実施時間の全国の平均を表す。



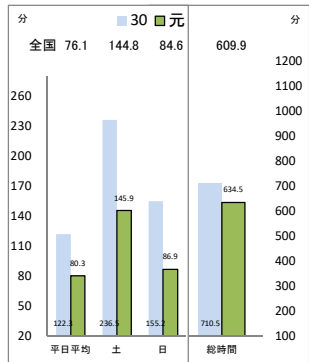
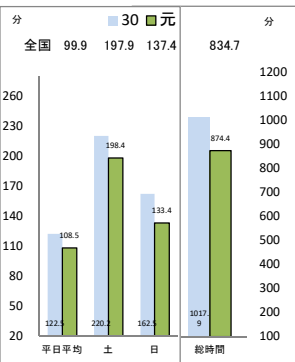
【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

〈現状及び課題〉

- ・ 1週間の総運動時間は、全国と比較して男子はほとんど差がなく、女子はわずかに長い、昨年度より減少している。
- ・ 平日については、男女ともに全国よりわずかに長い、土日は男子が短く、女子はほとんど差がない。昨年度と比較すると平日、土日の男女ともに減少している。
- ・ 土日の運動を促進するためにも家庭への啓発等が必要がある。

〈現状及び課題〉

- ・ 1週間の総運動時間は、全国と比較して男女ともに長い、昨年度より減少している。
- ・ 平日については、男女ともに全国よりわずかに長い、土日はあまり差がない。昨年度と比較すると平日、土日の男女ともに減少している。
- ・ このことは、鹿屋市部活動ガイドラインの実践によるものであると考えられる。

【改善策】

- ・ 体育、保健体育の授業や体力向上に係る研修会への積極的な参加を通して、教員の指導力向上を図り、運動やスポーツが楽しいと感じ、運動好きな児童生徒の増加に努める。
- ・ 授業において目標の提示や振り返りの活動を徹底し、「できる」(達成感)を味わうことのできる授業づくりや、仲間と一緒に活動をし、話合い活動をしたりするなど友達と関わる活動を取り入れた授業改善を行い、教科体育、保健体育の充実を図る。
- ・ 全学校で「体力アップ! チャレンジかごしま」に取り組み、各学校の体力の課題に重点化した「一校一運動」を推進する。
- ・ 各学校で作成している「たくましくごしまっ子育成推進プラン」を基に取組を行い、全校体制で体力の向上に努める。
- ・ 家庭、地域との連携を図り、睡眠、食事、運動習慣など健康に係る意識を高め、自発的に運動を行う児童生徒の育成に努める。
- ・ 徒歩での登下校や屋休みに外で遊ぶことなど運動の生活化や日常化を推奨し、児童生徒の運動量を確保し、体力の向上を図る。
- ・ 市体育担当委員会において、実践発表や情報交換を行い、情報の共有を図るとともに、教員の指導力向上と啓発を図る。
- ・ 鹿屋体育大学と連携し、スポーツボランティアの活動を通して児童生徒の体力の向上を図る。

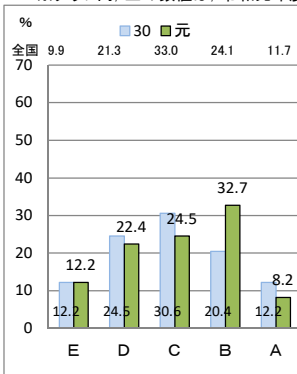
令和元年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

垂水市 教育委員会

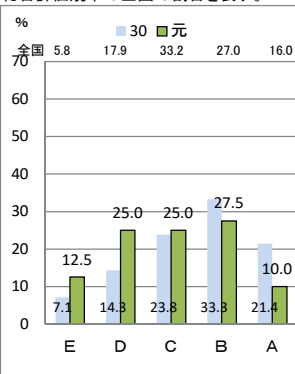
【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

※グラフ内、上の数値は、令和元年度各総合評価規準の全国の割合を表す。



〔女子〕

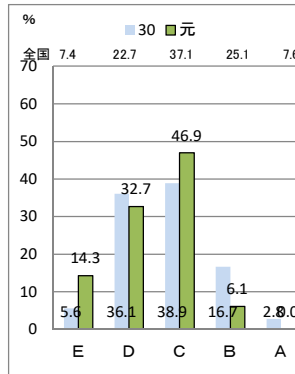


※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

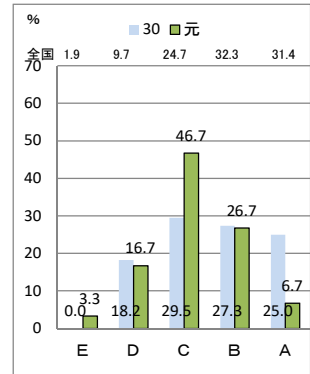
小学校 A: 65点以上 B: 58点～64点 C: 50点～57点 D: 42点～49点 E: 41点以下

【中学校 体力総合評価】

〔男子〕



〔女子〕



※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

中学校 A: 57点以上 B: 47点～56点 C: 37点～46点 D: 27点～36点 E: 26点以下

〈現状及び課題〉

- 男子は、昨年よりBの割合が11.3ポイントと大幅に上昇し、Dの割合は2.1ポイント減少し、改善が見られ、よい傾向である。
- 女子は、昨年よりAの割合が11.4ポイント、Bの割合が5.8ポイント減少し、Dの割合が10.7ポイント上昇するなど、下位層が増加した。
- E、D、Cの児童について、体力及び運動への興味・関心を高め、1つでも上のレベルに引き上げる必要がある。

〈現状及び課題〉

- 男子は、Aがいなくなり、Bの割合も10.6ポイント減少するなど、昨年よりさらに低下し、全国と比べてもかなり低い。E、D、Cの生徒に運動等への興味・関心を高め、1つでも上のレベルに引き上げる必要がある。
- 女子は、Aの割合が18.3ポイント減少し、Cの割合が17.2ポイント増加し、全国と比べても上位層が少ない。「体づくり運動」等の指導を充実させ、体力向上の意義を理解させ、Cの生徒をB・Aに引き上げたい。

【小学校 運動実施時間】

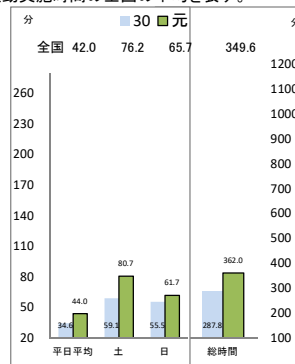
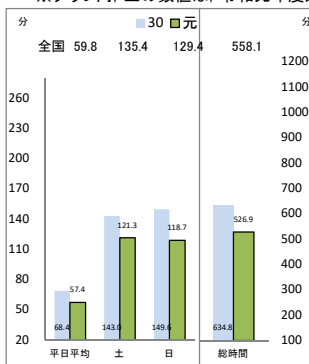
〔男子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和元年度運動実施時間の全国の平均を表す。



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

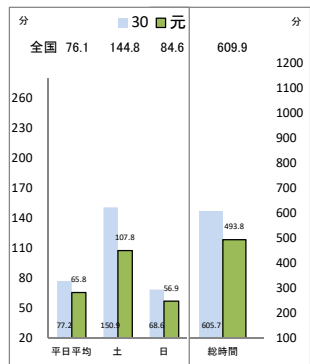
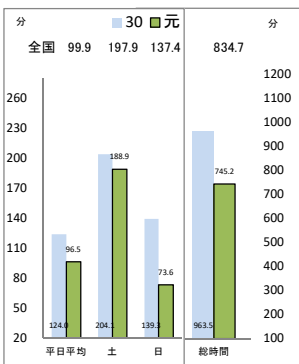
【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

〈現状及び課題〉

- 運動時間は、男子は、昨年と比較すると全て時間が減少し、総運動時間が約100時間減少したが、全国と比べるとわずかに短い状況である。運動量を増やすための工夫が必要である。
- 女子は、昨年に比べ全て時間が増え、総運動時間も74時間増え、全国とほとんど差がないところまで改善した。

〈現状及び課題〉

- 男女とも、昨年と比べ、全ての時間が減少し、特に男子は日曜日の運動時間が半減、総運動時間も全国と比べ約90時間短い。女子も総運動時間が全国と比べて約100時間短く、運動時間の確保が課題である。
- 特に土日の運動時間の確保が課題。部活動の土日で1日休みが徹底され、運動量が減少した可能性もある。

【改善策】

【小学校】

- 学校内外での「外遊び」の推奨
- 全ての子供が安心して運動に取り組むことができる「個に応じた指導」の一層の充実

【中学校】

- 保健体育の授業における補強運動(ランニング、腹筋、腕立て、馬跳び等)の継続
- 個別の課題・目標を立てた体力向上の取組
- 運動の特性に応じた楽しさを追求する授業づくり(指導法の工夫改善へ向けた支援)
- 学校全体で課題意識をもった組織的取組

【共通、その他】

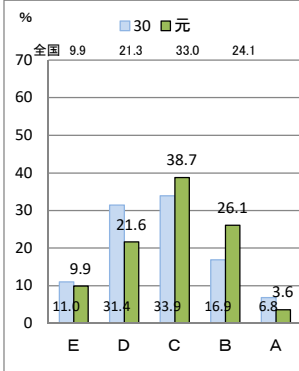
- 「体力アップ! チャレンジかごしま」の年間を通じた取組の推進(市内小・中学校の年間を通じた取組100%)
- 「一校一運動」の徹底、PTAと連携した「一家庭一運動」の一層の推進による運動習慣育成

令和元年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

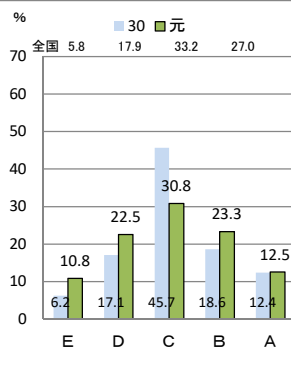
曾於市 教育委員会

【小学校 体力総合評価】 〔男子〕

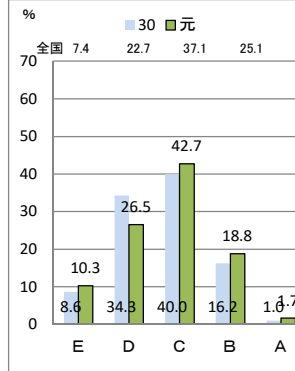
※グラフ内、上の数値は、令和元年度各総合評価規準の全国の割合を表す。



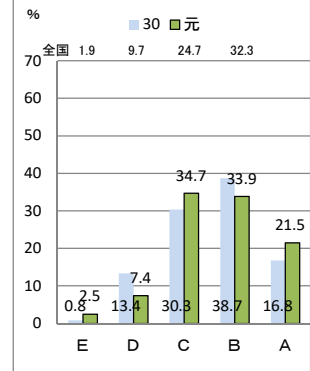
〔女子〕



【中学校 体力総合評価】 〔男子〕



〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点～64点 C:50点～57点 D:42点～49点 E:41点以下

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

中学校 A:57点以上 B:47点～56点 C:37点～46点 D:27点～36点 E:26点以下

〈現状及び課題〉

- ・ 男子は、Eが微減、Dが10ポイント以上減少し、CとBがそれぞれ、4.8、9.2ポイント増加しており、改善傾向にある。ただし、Aが3.2ポイント減少している。全体的に全国平均に近づいてきているが、A(上位層)がかなり少ない状況であり懸念される。
- ・ 女子は、Cが約15ポイント減少し、Bが4.8ポイント増加しているが、Dも5.4ポイント、Eも4.6ポイント増加している。全国平均と比べ、二極化傾向がより鮮明になっている。E・Dの下位層にある児童の底上げを図る必要がある。
- ・ 男女別の重点課題としては、男子はC(中間層)をAB(上位層)に引き上げる取組、女子はE・D(下位層)をCへ引き上げる取組とともに、全国に比してかなり少ないAを増加させる取組が必要となってくる。

〈現状及び課題〉

- ・ 男子はCとEがそれぞれ2.7ポイント、1.7ポイント増加しており、Dは7.8ポイント減少している。全国平均と比べると、C(中間層)への偏りが進むとともに、E・D(下位層)の割合が大きくなっている。昨年度よりその差が広がっており、早急な改善が必要である。
- ・ 女子はAが4.3ポイント、Cが4.4ポイント、Eが1.7ポイント増加している。全国平均と比べ、E・D(下位層)の割合が低く、一方でC(中間層)からA・B(上位層)にかけての割合が高くなっており、体力・運動能力の向上が図られていると言える。
- ・ 男女ともEのポイントが全国平均よりも高く、また、男子のAの割合が全国の約1/4以下に留まっている。このことから、それぞれの体力・運動能力に合わせた個別的な対応(指導)の必要性も考慮していかなければならない。

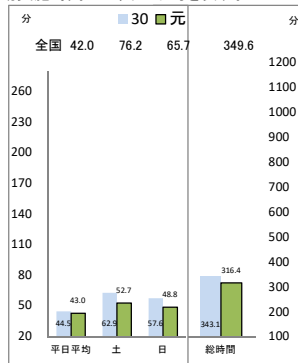
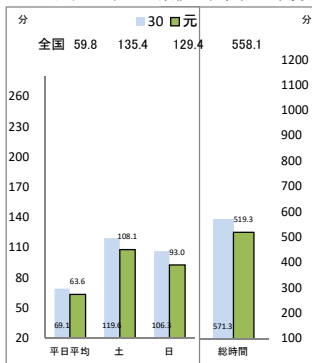
【小学校 運動実施時間】 〔男子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和元年度運動実施時間の全国の平均を表す。

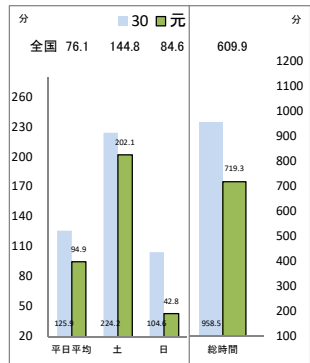
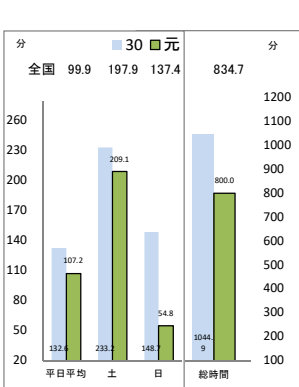


【中学校 運動実施時間】 〔男子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

〈現状及び課題〉

- ・ 1週間の総運動時間は、全国平均と比較すると男子は短く、女子はわずかに短い結果であった。
- ・ 平日平均は全国平均と比較すると、男女とも運動時間は上回っている。しかし、土日については、全国平均よりも大きく下回っている傾向にある。
- ・ 男女とも、平日や土日に関係なく前年よりも運動時間は減少している。特に土日における運動時間の減少が顕著である。

〈現状及び課題〉

- ・ 1週間の総時間は、全国平均と比較すると男子は短く、女子は長いという結果となった。
- ・ 1週間の総時間を前年度と比較すると、男女とも、約240時間ほど短くなっており、部活動ガイドライン等による休日の設定等が影響しているものと思われる。
- ・ 男女とも平日及び土曜日の運動時間は全国平均を上回っているが、日曜日は男女とも大幅に下回っている。

【改善策】

【小学校】

- ・ 学校独自の特色ある運動活動(一輪車、縄跳び、ランニング等)の取組推進、研究授業を通じた体育主任等研修会の開催、外遊びの奨励

【中学校】

- ・ 科学的、効果的・効率的な運動部活動の運営及び指導の研修実施、教科体育における指導過程及び指導法改善による運動量確保、体育的行事の充実

【共通、その他】

- ・ オリンピック、パラリンピック、かごしま国体を契機としたスポーツに親しむ機運を醸成、実施種目等の体験や講師招聘による実技指導
- ・ 休日における運動やスポーツを推奨する啓発資料の作成(チラシ配布・HP活用)
- ・ 「たぐましい“かごしまっ子”」育成推進校における公開授業の開催(曾於市立末吉中学校)
- ・ 「たぐましい“かごしまっ子”」育成推進プランの推進強化、「体力アップ! チャレンジかごしま」の全校級参加と複数種目への挑戦

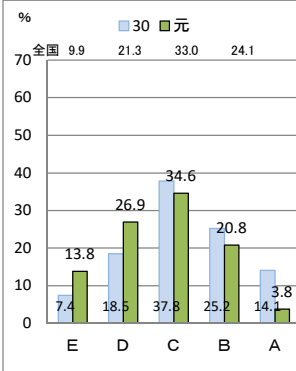
令和元年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

志布志市 教育委員会

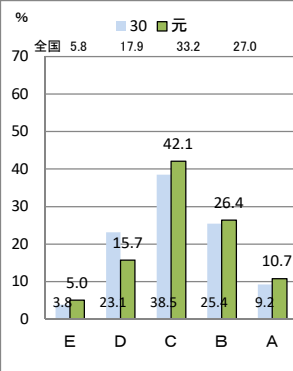
【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

※グラフ内、上の数値は、令和元年度各総合評価規準の全国の割合を表す。

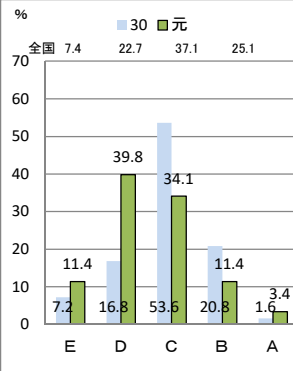


〔女子〕

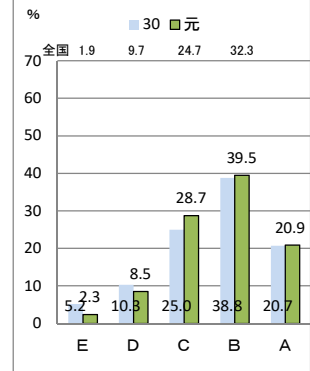


【中学校 体力総合評価】

〔男子〕



〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点～64点 C:50点～57点 D:42点～49点 E:41点以下

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

中学校 A:57点以上 B:47点～56点 C:37点～46点 D:27点～36点 E:26点以下

〈現状及び課題〉

- ・ 男子はEの割合が6.4ポイント、Dの割合が8.4ポイント増加している。Aの割合が10.3ポイント減少している。女子はDの割合が7.4ポイント減少しており、Aの割合も1.5ポイント増加している。
- ・ 全国と比較すると、男子は全体的に低く、D、Eの割合が多い。児童の体力及び運動への興味・関心を高め、一階ずつ引き上げる取組が必要である。女子は全国平均並みである。長座体前屈が課題であるので、授業の前の補強運動に力を入れるよう指導していきたい。

〈現状及び課題〉

- ・ 男子はEの割合が4.2ポイント、Dの割合が23ポイント増加しているが、Aの割合が1.8ポイント増加している。女子はEの割合が2.9ポイント、Dの割合が2.2ポイント減少しており、Cの割合が3.7ポイント増加している。
- ・ 全国と比較すると、男子は低く、D、Eの割合が非常に多い。生徒の体力及び運動への興味・関心を高め、引き上げる取組が必要である。女子は全国と比較するとやや低いですが、昨年と比べ、向上している。

【小学校 運動実施時間】

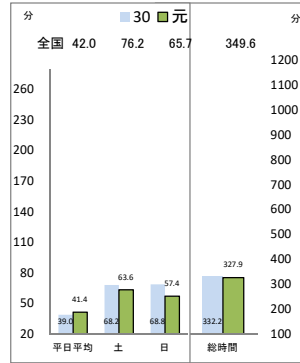
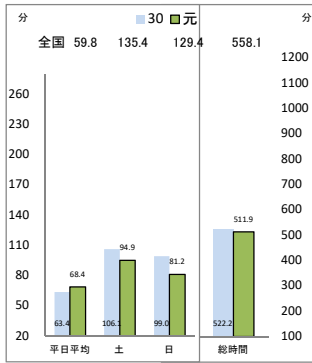
〔男子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和元年度運動実施時間の全国の平均を表す。



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

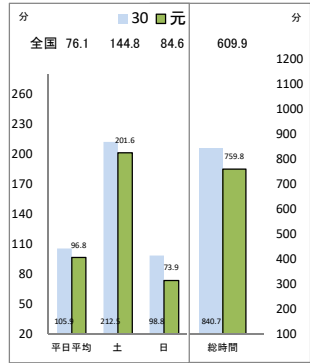
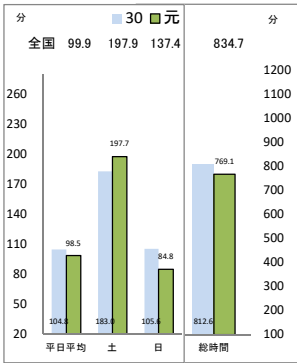
【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

〈現状及び課題〉

- ・ 男女とも、昨年より総時間数がやや短くなっており、全国と比較しても短い結果であった。
- ・ 平日は、男子は全国を上回っているが、女子は短くなっている。土日は、昨年より短くなっている。全国と比較しても、短い結果であった。平日、土日ともに、運動時間が短いことが課題である。

〈現状及び課題〉

- ・ 男子は、昨年より総時間数が短くなっており、全国と比較しても短い結果であった。土曜日は女子は、昨年度より総時間数は短くなっているが、全国と比較すると長い結果であった。
- ・ 平日は、男女ともに運動時間が確保されているが、日曜日は全国と比較すると極端に短い。
- ・ 興味・関心を高め、自主的な運動への意識改革が必要である。

【改善策】

【小学校】

- ・ 全学校、全学級における「体力アップ！チャレンジかごしま」への更なる取組推進と、特色ある一校一運動の定着、運動及び生活習慣に関する授業や行事の充実を図り、運動時間をより多く確保する。

【中学校】

- ・ 全学校、全学級における「体力アップ！チャレンジかごしま」への更なる取組推進と、特色ある一校一運動の定着を図るとともに、主体的・対話的で深い学びを実現する体育授業を通して、運動への興味・関心を高め、運動時間を確保する。

【共通、その他】

- ・ 家族と一緒に運動する取組の推進と、土曜体験広場(第3土曜日)における地域での運動活動の充実を図る。

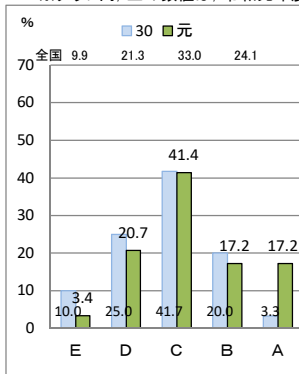
令和元年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

大崎町 教育委員会

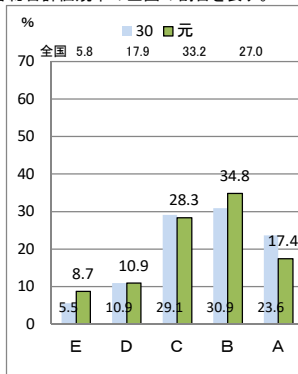
【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

※グラフ内、上の数値は、令和元年度各総合評価規準の全国の割合を表す。

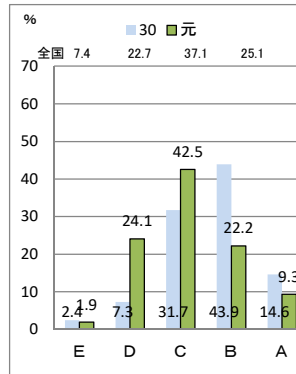


〔女子〕

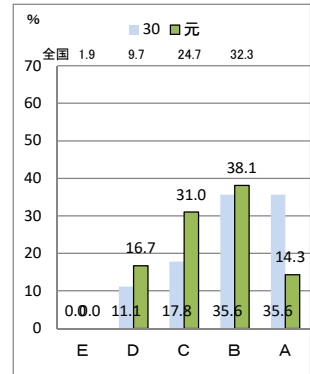


【中学校 体力総合評価】

〔男子〕



〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点～64点 C:50点～57点 D:42点～49点 E:41点以下

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

中学校 A:57点以上 B:47点～56点 C:37点～46点 D:27点～36点 E:26点以下

〈現状及び課題〉

- ・平成30年度と比較して、男子は、特にAの割合が13.9ポイント増加し、D及びEの割合が合計で10.7ポイント減少した。
- ・平成28年度から続いていたA、Bの割合の合計についての減少傾向は、男子に回復が見られた。また、女子は減少傾向が続くが全国比では高い。
- ・女子のEの割合が、昨年度と全国で高い。

〈現状及び課題〉

- ・昨年度と比較した場合、A、Bの合計の割合が、男子で27ポイント、女子で18.8ポイントと大きく減少している。全国と比較しても低くなっている。
- ・Eの割合は、男女とも全国平均を下回っている。
- ・男女とも、全国と比較してCの割合が高くなっている。運動技能が低い生徒は少ないものの、高い生徒も少ない。

【小学校 運動実施時間】

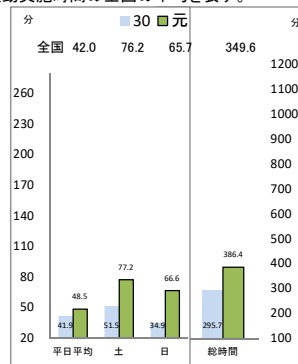
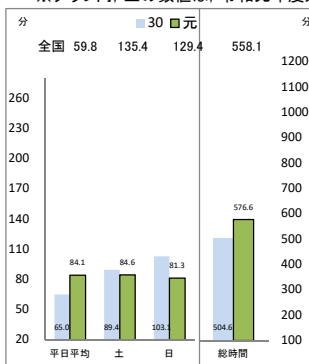
〔男子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和元年度運動実施時間の全国の平均を表す。



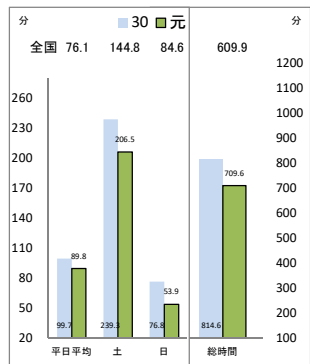
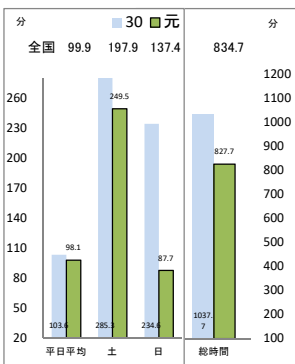
【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

〈現状及び課題〉

- ・男子は、土曜日と日曜日の運動時間が減少したものの、平日の運動時間が増えたため、昨年度比で運動総時間が大きく増加している。全国と比較しても多くなっている。
- ・女子は、運動時間が昨年度比で増加している。特に、土曜日や日曜日での運動時間の増加が影響している。全国と比較しても高い。

〈現状及び課題〉

- ・男女とも、日曜日の運動時間が大幅に減少している。これは、運動部活動で休養日が設定されたためとみられる。また、総時間についても平成29年度から減少し続けており、全国比でも下回っている。
- ・女子は、昨年度比で平日及び土曜日、日曜日の運動時間は減少している。全国比では多い。

【改善策】

【小学校】

- ・「チャレンジかごしま」の取組を中心とした、体力向上の推進。(今年度に引き続き全学級参加、複数種目登録を目指す。)

【中学校】

- ・教科体育や部活動を通じた指導による運動量の確保と各種運動技能の向上を図る。

【共通、その他】

- ・WZ(ウォーキングゾーン)を活用した徒歩通学を推奨し、毎日の運動量の確保
- ・体育授業の導入時における運動量確保を目的としたサーキット運動など、指導法の充実と改善
- ・大崎町「陸上の聖地」プロデューサーやジャパンアスリートトレーニングセンター大隅を利用するアスリートの活用による陸上競技力の向上

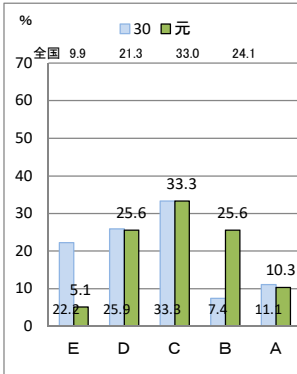
令和元年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

東串良町 教育委員会

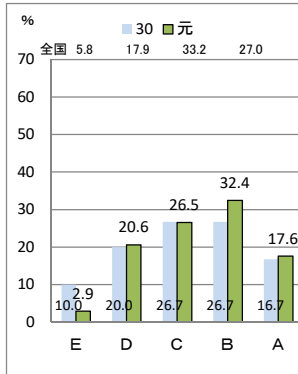
【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

※グラフ内、上の数値は、令和元年度各総合評価規準の全国の割合を表す。

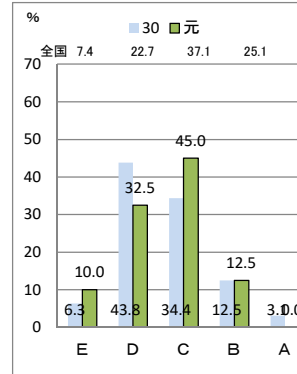


〔女子〕

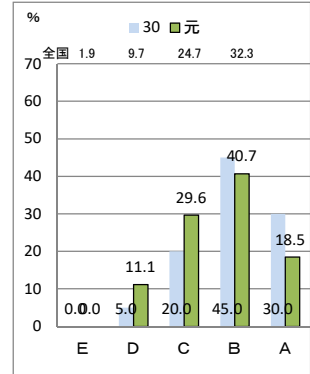


【中学校 体力総合評価】

〔男子〕



〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点～64点 C:50点～57点 D:42点～49点 E:41点以下

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

中学校 A:57点以上 B:47点～56点 C:37点～46点 D:27点～36点 E:26点以下

〈現状及び課題〉

- ・ 男子は、A+Bの割合が17.4ポイント増加した分、D+Eの割合が同ポイント減少している。
- ・ 女子は、A+Bの割合が6.6ポイント増加し、D+Eの割合は6.5ポイント減少している。
- ・ 男女ともにほぼ全国平均並みであり、取組に一定の成果は伺える。引き続き児童が体力及び運動への興味・関心を高めるよう、授業をはじめとする諸取組を充実させていく必要がある。

〈現状及び課題〉

- ・ 男子は、A+Bの割合が3.1ポイント、D+Eの割合が7.6ポイント減少している。
- ・ 女子は、A+Bの割合が15.8ポイント減少し、D+Eの割合が6.1ポイント増加している。
- ・ 男子は昨年度比較より上昇はしているものの、D+Eの割合は依然として全国平均を大きく上回っているため、下位層の生徒を引き上げる支援が一層必要である。女子はほぼ全国平均並みである。

【小学校 運動実施時間】

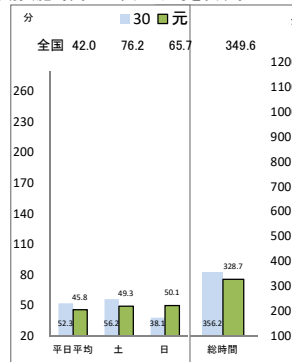
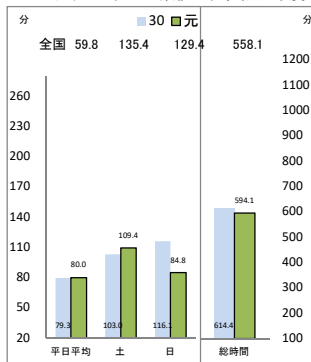
〔男子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和元年度運動実施時間の全国の平均を表す。



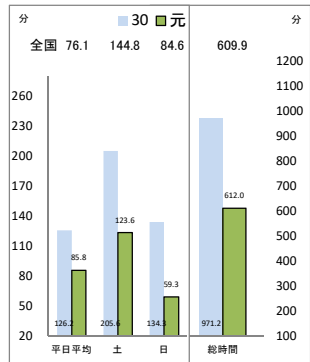
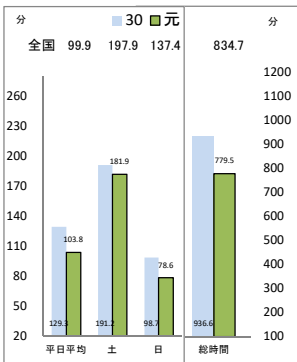
【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

〈現状及び課題〉

- ・ 1週間の総運動時間は、全国平均と比較すると、男子は「長い」、女子は「ほとんど差がない」結果であった。
- ・ 平日は、男女ともに運動時間が全国平均より長くなっている。
- ・ 土・日曜日は、男女ともに運動時間が全国平均より短くなっている。

〈現状及び課題〉

- ・ 1週間の総運動時間は、全国平均と比較すると、男子は「短い」、女子は「ほとんど差がない」結果であった。
- ・ 平日の運動時間は、男女ともに全国平均とほとんど差はない。
- ・ 土・日曜日の運動時間を全国平均と比較すると、男女ともに短い。

【改善策】

【小学校】

- ・ 教科体育や朝、昼の時間等を活用した一校一運動(なわとび、かけ足等)の継続による児童の運動実施時間の確保

【中学校】

- ・ 教科体育や運動部活動等における運動量の確保(一単位時間における補強運動の実施等)

【共通、その他】

- ・ 管理職研修会での継続的な啓発及び児童生徒の体力向上を促進する町小中体育主任研修会の開催
- ・ 町PTA連絡協議会における小中一貫共通実践事項「歩育」の充実及び一層の推進
- ・ 町広報誌を活用した保護者や地域への啓発

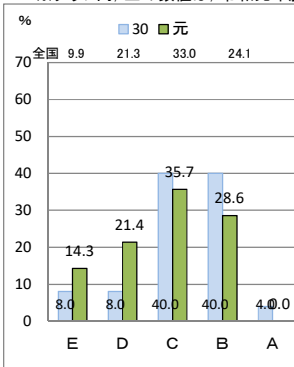
令和元年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

錦江町 教育委員会

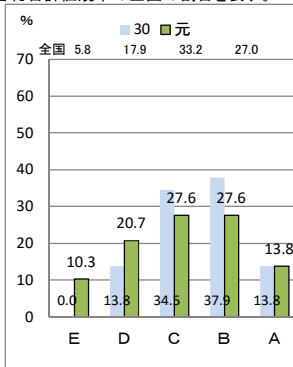
【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

※グラフ内、上の数値は、令和元年度各総合評価規準の全国の割合を表す。

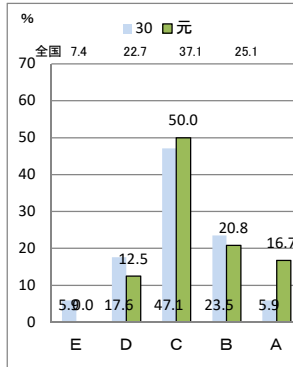


〔女子〕

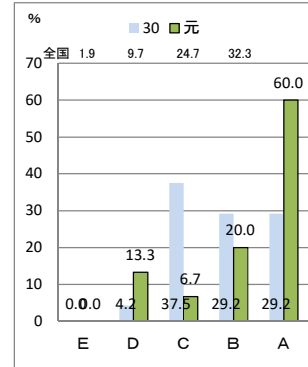


【中学校 体力総合評価】

〔男子〕



〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

小学校 A: 65点以上 B: 58点～64点 C: 50点～57点 D: 42点～49点 E: 41点以下

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

中学校 A: 57点以上 B: 47点～56点 C: 37点～46点 D: 27点～36点 E: 26点以下

〔現状及び課題〕

- ・ 男子は、A・B・Cの割合が減少し、D・Eの割合が増加している。全体的に体力低下が見られる。
- ・ 女子は、B・Cの割合が減少し、D・Eの割合が増加している。Aの割合は変わらないが、全体的には、体力低下が見られる。
- ・ 男女とも、E・D・Cの児童の体力及び運動への興味・関心を高め、A・Bへ引き上げる取組が今後必要である。また、男女とも長座体前屈の結果が低い。柔軟性を高める指導が必要である。

〔現状及び課題〕

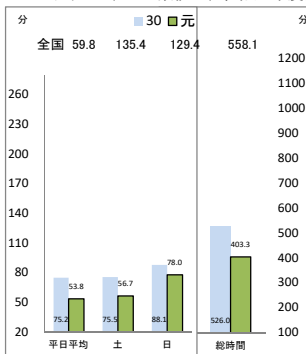
- ・ 男子は、Aの割合が、10.8ポイント増加し、E・Dの割合が、9.3ポイント減少している。全体的には、体力向上が見られる。
- ・ 女子は、Aの割合が、30.8ポイント増加し、大きく体力向上が見られた。しかし、Dの割合が、9.1ポイント増加している。
- ・ 男女とも、全体的に体力向上が見られた。しかし、男女とも長座体前屈の結果が低い。柔軟性を高める指導が必要である。

【小学校 運動実施時間】

〔男子〕

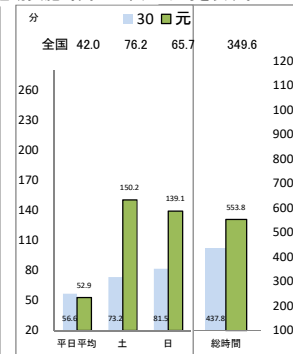
(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和元年度運動実施時間の全国の平均を表す。



〔女子〕

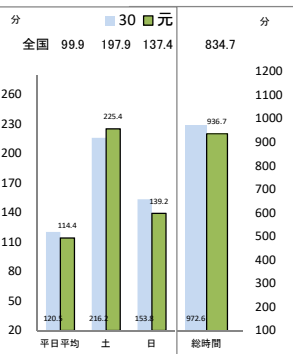
(平日の平均及び土日)(1週間)



【中学校 運動実施時間】

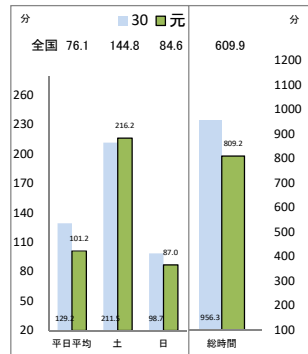
〔男子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)



〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

〔現状及び課題〕

- ・ 運動時間については、昨年度と比べると女子はかなり増加しているが、男子は、減少している。その傾向は、曜日に関わらず、男子では全て減少傾向にある。子供たちに運動への関心を高め、日常的に運動に親しませる手立てが必要である。
- ・ 女子の土日の運動時間が多い点は、スポーツ少年団活動等に参加している児童が多いようである。

〔現状及び課題〕

- ・ 男女とも昨年度より減少したが、全国平均は上回っている。しかし、男女とも、日曜日の運動時間が減少している。
- ・ 週休日における運動時間については、部活動のガイドラインに準じて部活動を行っていること等が原因と考えられる。そこで、地域での自主的な運動時間の確保など、地域行事等と絡めた手立てが必要である。

【改善策】

【小学校】

- ・ 運動への関心を高め、体力向上を図る必要がある。「チャレンジかごしま」等の取組を通して、進んで運動を楽しむ子供の育成を推進する。また、体育の授業などで、日常的に柔軟性を高める運動を取り入れる等指導方法を工夫する。

【中学校】

- ・ 教科体育の充実及び運動部活動の運営・指導方法の工夫改善を行う。また、家庭や地域社会での運動に関する行事に参加するなど、運動を楽しませたい。

【共通・その他】

- ・ 児童生徒が「運動は楽しい」と感じる授業づくりや年間を通して継続的に行う長縄などの一校一運動などの設定を行う。
- ・ 各学校において、児童生徒の実態に応じた体力向上に向けての具体策の検討や共通実践を図る。
- ・ 休日における錦江町(地域)コミュニティスポーツクラブへの積極的な参加により、学校外でも、地域住民と共に運動を楽しむ場の設定を行う。

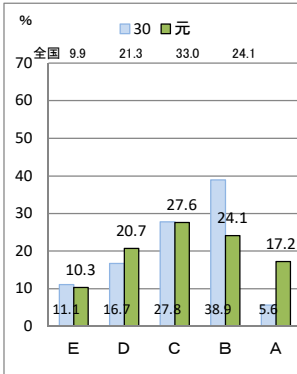
令和元年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

南大隅町 教育委員会

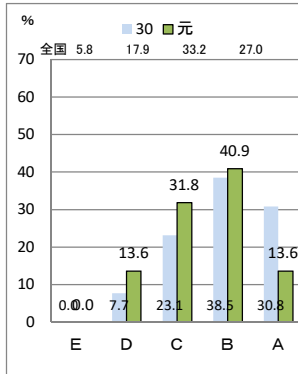
【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

※グラフ内、上の数値は、令和元年度各総合評価規準の全国の割合を表す。

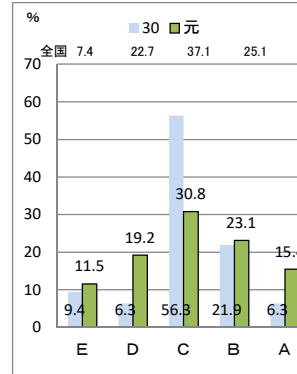


〔女子〕

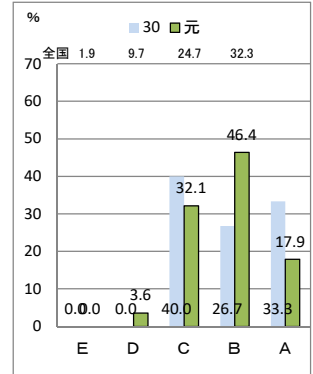


【中学校 体力総合評価】

〔男子〕



〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

小学校 A: 65点以上 B: 58点～64点 C: 50点～57点 D: 42点～49点 E: 41点以下

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

中学校 A: 57点以上 B: 47点～56点 C: 37点～46点 D: 27点～36点 E: 26点以下

〈現状及び課題〉

- ・ 男子は、Bの割合が14.8ポイント減少し、Aの割合が11.6ポイント増加した。また、DとEの合計の割合が3.2ポイント増加した。D、Eの児童の体力及び運動への興味・関心を高める取組が必要である。
- ・ 女子は、Cの割合が8.7ポイント、Dの割合が5.9ポイント増加し、Aの割合が17.2ポイント減少した。Dの児童の体力及び運動への興味・関心を高め、Cの児童をA、Bに引き上げるの取組が必要である。

〈現状及び課題〉

- ・ 男子は、Cの割合が25.5ポイント減少し、Dの割合が12.9ポイント、Aの割合が9.1ポイント増加した。D、Eの生徒の体力及び運動への興味・関心を高める取組が必要である。
- ・ 女子は、Bの生徒の割合が19.7ポイント増加し、Aの割合が15.4ポイント、Cの割合が7.9ポイント減少した。C、Dの生徒をA、Bに引き上げる取組が必要である。

【小学校 運動実施時間】

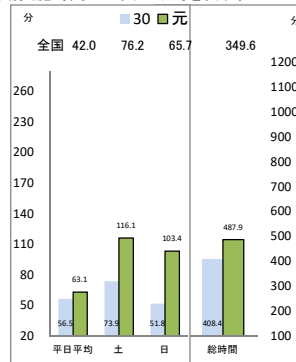
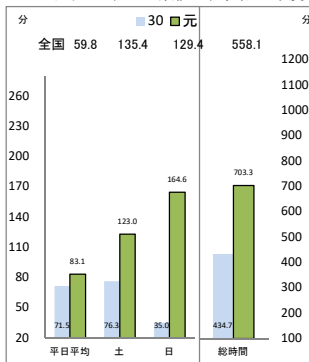
〔男子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和元年度運動実施時間の全国の平均を表す。



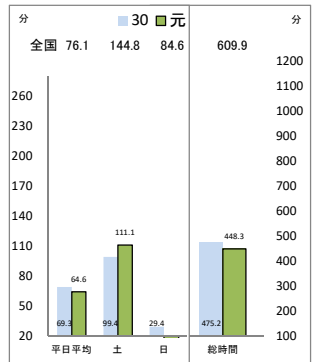
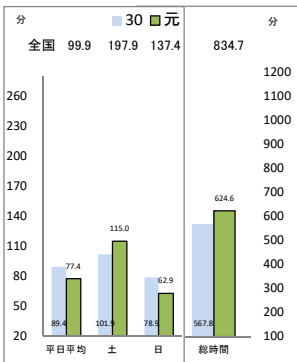
【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

〈現状及び課題〉

- ・ 男女ともに、昨年度と比較すると、特に土・日の運動実施時間が大幅に増加している。全国平均と比較しても、大幅に長い結果であった。特に日曜日の運動実施時間が長くなっている。運動実施時間は十分に確保されている結果であるが、その分、する児童としない児童の二極化が心配される。

〈現状及び課題〉

- ・ 1週間の総運動時間は、全国平均と比較して、男女ともに「かなり短い」結果であった。
- ・ 全国平均の比較して、平日は、男子が「わずかに短い」、女子が「ほとんど差がない」結果であった。土・日は、男女ともに「短い」結果であった。週休日における運動時間の確保に向けた手立てが必要である。

【改善策】

【小学校】

- ・ 学校における運動機会の確保と、運動に親しむ活動の計画的・継続的な実施

【中学校】

- ・ 部活動以外の運動機会の確保及び運動の充実に向けた、体育授業改善及び部活動の運営・指導の工夫改善のための研修の実施

【共通・その他】

- ・ 調査結果分析の実施と、それに基づいた課題改善のための運動計画の立案
- ・ 体育及び保健体育の授業における、調査結果分析に基づいた課題改善のための運動の実施(一校一運動、授業導入時の運動)
- ・ PTAや家庭教育学級等での運動啓発活動

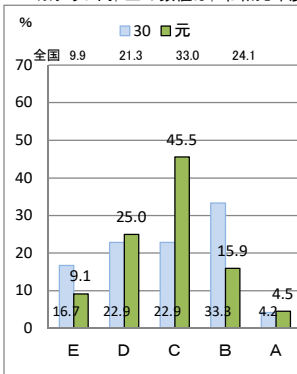
令和元年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

肝付町 教育委員会

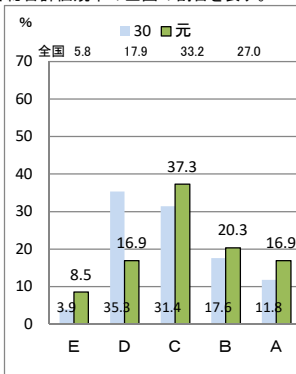
【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

※グラフ内、上の数値は、令和元年度各総合評価規準の全国の割合を表す。

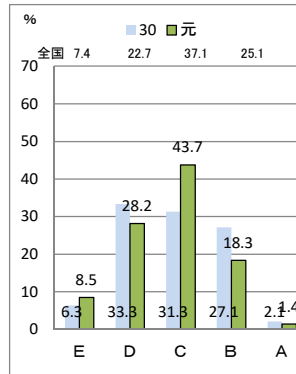


〔女子〕

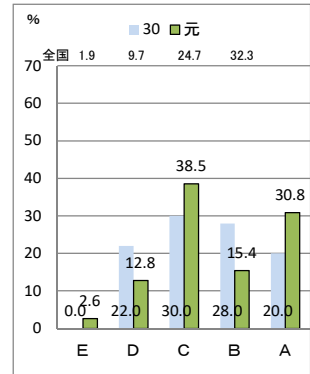


【中学校 体力総合評価】

〔男子〕



〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点～64点 C:50点～57点 D:42点～49点 E:41点以下

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

中学校 A:57点以上 B:47点～56点 C:37点～46点 D:27点～36点 E:26点以下

〈現状及び課題〉

○ 前年度と比較すると、男子はB・Eの割合が減少した一方、Cの割合が22.6%増加しており、中間層が半数近くを占めている。女子はDの割合が減少した一方、A・B・C・Eの割合が増加しており、中間層が3分の1程度を占めている。
○ 全国と比較すると、男子はA・Bの割合が低く、C・Dの割合が高くなっており、女子はAがほぼ同程度で、B・Dの割合が低く、C・Eの割合が高くなっていることから、男女とも高得点者の割合が低く、中間層以下の割合が高い状況であり、如何にして高得点層に引き上げていくかが課題といえる。

〈現状及び課題〉

○ 前年度と比較すると、男子はB・Dの割合が減少し、Cの割合が増加しており、中間層の割合が43.7%となっている。女子はB・Dの割合が減少し、A・Cの割合が増加しており、Aの割合の伸びが顕著となっている。
○ 全国と比較すると、男子はA・Bの割合が低く、C・Dの割合が高くなっており、女子はAがほぼ同程度で、Bの割合が低く、C・Dの割合が高くなっている。男子は高得点者の割合が低く、中間から低得点者の割合が高いことから、如何にして高得点層に引き上げていくかが、また女子はAの割合の伸びが顕著に見られたが、Bの割合が減少していることから、中間層以下から如何にして引き上げていくかが課題といえる。

【小学校 運動実施時間】

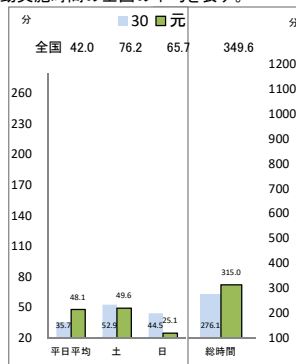
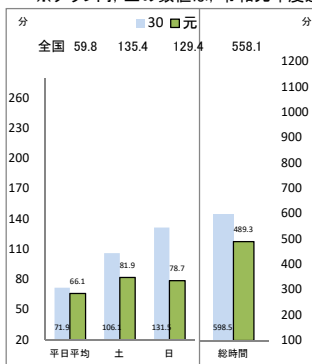
〔男子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和元年度運動実施時間の全国の平均を表す。



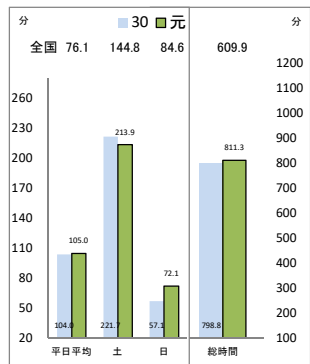
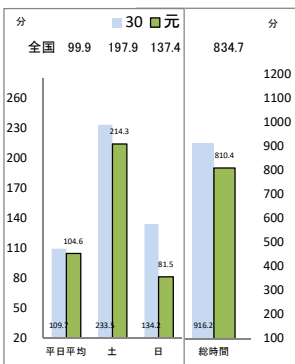
【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

〈現状及び課題〉

○ 前年度と比較すると、男子は軒並み減少しており、女子は土日が減少している一方、平日が増加した結果、総時間も増加している。
○ 全国と比較すると、男女とも平日は多いが、土日が少ないため、総時間も少なくなっていることから、如何にして増加していくかが課題といえる。

〈現状及び課題〉

○ 前年度と比較すると、男子は軒並み減少しており、女子は土が減少している一方、平日・日が増加した結果、総時間も増加している。
○ 全国と比較すると、男子は平日・土が多いが、日が少ないため、総時間も少なくなっており、女子は日が少ないが、平日・土が多いため、総時間も多くなっていることから、男子の運動時間を如何にして増加していくかが課題といえる。

【改善策】

【小学校】

○ 体育の授業時におけるチャレンジタイム(体力向上を目指した5分間運動)の推進

【中学校】

○ 保健体育の授業時における個人・学校の課題解決運動の推進

【共通・その他】

○ 体力アップチャレンジかごしまのより一層の取組推進

○ 朝の時間や休み時間等を活用した外遊びの推進

○ 休日における運動やスポーツ体験を促すために、学校便りや広報誌等を活用した周知方法の充実や改善

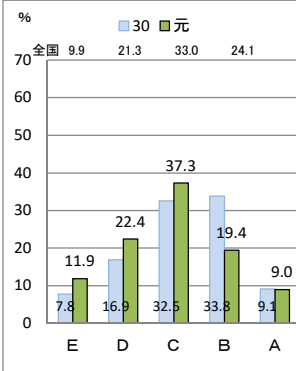
令和元年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

西之表市 教育委員会

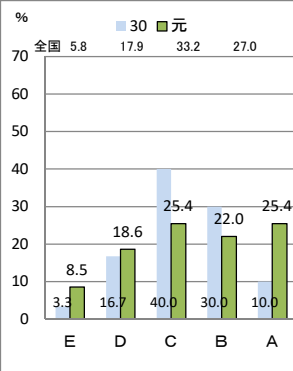
【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

※グラフ内、上の数値は、令和元年度各総合評価規準の全国の割合を表す。

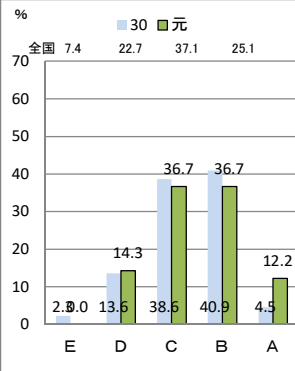


〔女子〕

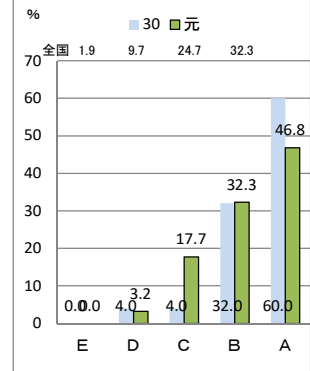


【中学校 体力総合評価】

〔男子〕



〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点~64点 C:50点~57点 D:42点~49点 E:41点以下

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

中学校 A:57点以上 B:47点~56点 C:37点~46点 D:27点~36点 E:26点以下

〈現状及び課題〉

・男子は、Aの割合が0.1ポイント、Bの割合が14.4ポイント減少した。C・D・Eの割合は4.1~5.5ポイント上昇した。
 ・女子は、Cの割合が14.6ポイント減少し、D・Eの割合が1.9~5.2ポイント上昇した。Aの割合も15.4ポイント上昇した。また、市のAの割合は全国のAの割合を9.4ポイント上回っており、体力の向上がみられる。
 ・男子、女子ともにC・D・Eの児童への体力及び運動への興味・関心を高めていく取組が必要である。

〈現状及び課題〉

・男子は、Eが0で、CとBの割合も減少し、Aの割合が7.7ポイント上昇した。市のAとBの割合は、全国のAとBの割合をそれぞれ4.6ポイント、11.6ポイント上回ることができた。
 ・女子は、Eの割合は前年に引き続き0でDの割合が0.8ポイント減少した。Aの割合も13.2ポイント減少した。Cの割合は13.7ポイント上昇した。市のAの割合は大きく減少しているが、全国のAの割合と比べると15.4ポイント上回り、市のBの割合は全国のBの割合とほぼ同じである。
 ・男女共にC・Dの生徒への体力向上支援が必要である。

【小学校 運動実施時間】

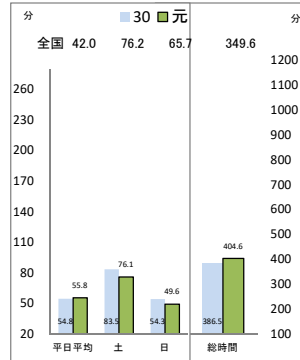
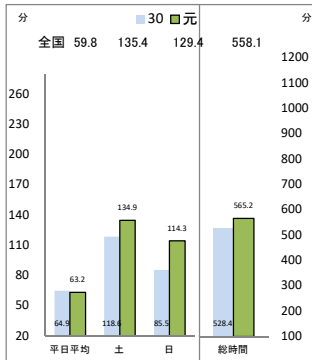
〔男子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和元年度運動実施時間の全国の平均を表す。



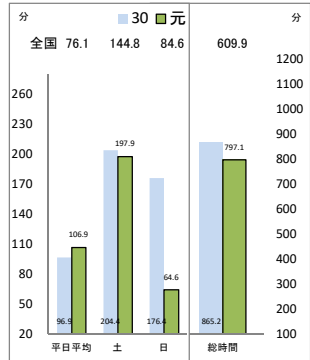
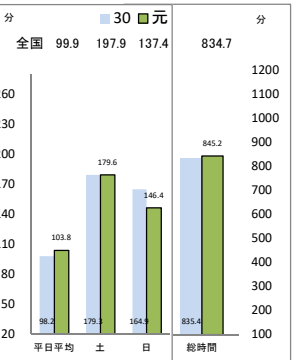
【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜~金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

〈現状及び課題〉

・男女共に、平日及び総合的な運動実施時間は全国平均を上回っており、平日は体力づくり等に努めていることが分かる。
 一方、土・日の運動実施時間は、男子は昨年度より上昇しているが、女子は減少している。男女共に土・日の運動時間は全国の平均運動時間を下回っているため、家庭での運動習慣の改善が必要である。

〈現状及び課題〉

・男女共に、土・日の運動実施時間は、部活動の休養日の影響もあり、前年と比較すると減少している。平日の運動時間及び総運動時間は全国の運動時間を上回っており、基本的な運動習慣が身に付いていることが分かる。

【改善策】

【小学校】

・「1校1運動」、「体力づくりカード」、「チャレンジかごしま」を活用した運動の実践による児童の運動実施時間の確保

【中学校】

・体力・運動能力テストの結果をふまえた個人の目標設定と取組への声かけや見取り、教科体育における運動時間の確保、「チャレンジかごしま」への参加

【共通、その他】

- ・PTAや家庭教育学級での幼少期における運動経験に関する研修の実施
- ・地域スポーツ大会等への積極的参加の促進
- ・スポーツ行事や運動関連の情報発信による広報・啓発
- ・運動の日常化に向けた休日の運動及び外遊びに関する家庭との連携

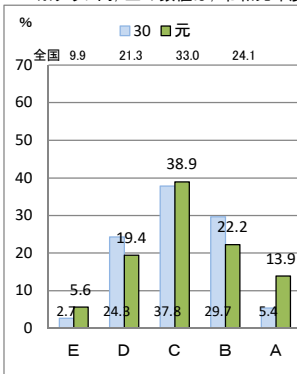
令和元年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

中種子町 教育委員会

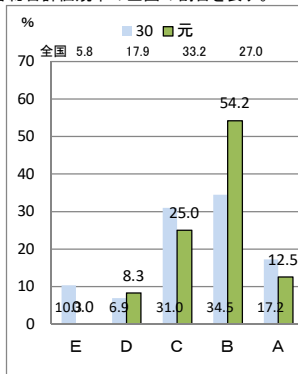
【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

※グラフ内、上の数値は、令和元年度各総合評価規準の全国の割合を表す。

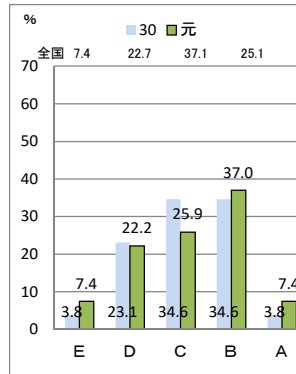


〔女子〕

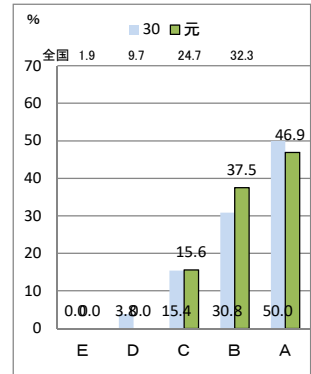


【中学校 体力総合評価】

〔男子〕



〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点～64点 C:50点～57点 D:42点～49点 E:41点以下

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

中学校 A:57点以上 B:47点～56点 C:37点～46点 D:27点～36点 E:26点以下

〈現状及び課題〉

- ・男子はAが2倍以上に増えたが、Eも約2倍となっており、体力差が顕著になっている。
- ・女子はEが0となり、Aは減少したもののBが50ポイント以上となり、全体的に体力が向上している。
- ・男子は、D、Eの児童の体力及び運動への興味・関心を高め、段階ずつ引き上げる取組を進める必要がある。女子は体力面の向上が全体的にみられるが、Dの児童を一段階引き上げる取組を更に行う必要がある。

〈現状及び課題〉

- ・男子はAが2倍以上に増え、Bの割合も増加しているが、Eも2倍近くに増加しており、体力差が顕著となっている。
- ・女子はD、Eが0となり、A、Bの合計が80ポイントを超えていることから、全体的に体力が向上していると言える。
- ・体力について男女差が見られる。女子に対して男子の体力向上が課題であり、特にD、Eの男子の体力・運動への興味・関心を高め、運動の習慣化や体力づくりの取組を進める必要がある。

【小学校 運動実施時間】

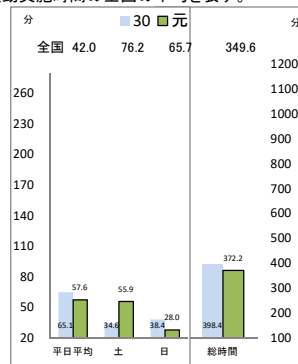
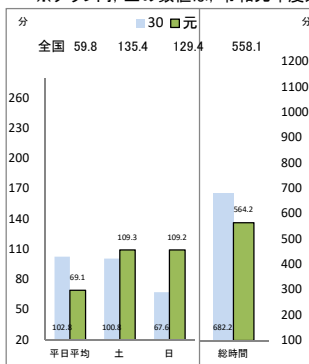
〔男子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和元年度運動実施時間の全国の平均を表す。



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

〈現状及び課題〉

- ・1週間の平日平均と総運動時間は、男女ともに全国平均を下回っている。土、日は全国平均をほぼ上回っていることから、平日に運動する機会を与えたり、運動に親しむ取組を進めたりする必要がある。
- ・昨年度と比較すると、男女ともに平日に運動する時間が大きく減少している。その反面、土、日に運動する時間は増加しており、休日に運動に親しむ意識が高まっていると言える。

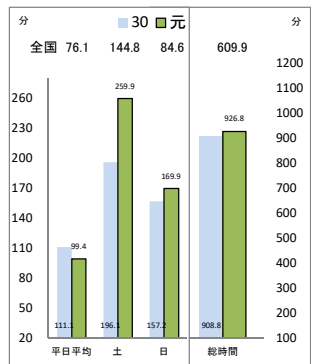
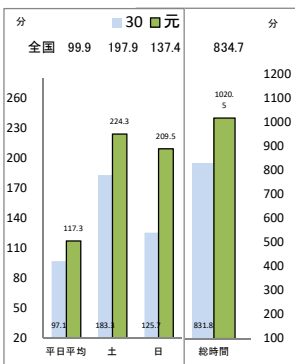
【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

〈現状及び課題〉

- ・1週間の総運動時間は、男子が188.7分、女子が18分、全国平均を上回っている。特に、土、日は男女ともに全国を上回っているが、女子の平日平均が全国より11.7分下回っている。
- ・昨年度と比較して、男女ともに総運動時間が増加しているが、土、日の運動時間が大幅に増加していることから、休養とのバランスも考えながら運動時間の確保を図る必要がある。

【改善策】

【小学校】

- ・平日の運動時間が少ないことから、休み時間や家庭で運動に取り組む指導の充実と家庭・地域との連携を図るとともに、年間を通した計画的な「体力アップ! チャレンジかごしま」への取組や「一校一運動」への取組の充実を進める。
- ・運動に親しむための遊具等の設置や意欲的に運動に取り組むための場づくりなどの体育的環境整備を進める。

【中学校】

- ・部活動の適切な時間確保についての指導を図るとともに、「体力アップ! チャレンジかごしま」への取組を推進する。
- ・休日の部活動の在り方と適切な休養について指導するとともに、状況確認と適切な指導を行う。

【共通】

- ・「たくましいかごしま推進プラン」のPDCAサイクルに基づく実施の推進や状況の把握、適切な指導助言を行う。
- ・関係団体や家庭・地域と連携した運動習慣の形成を図り、町学校保健会等の機会を生かした啓発、広報に努める。

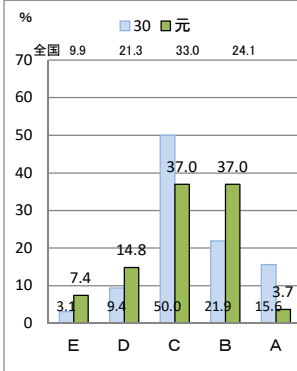
令和元年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

南種子町 教育委員会

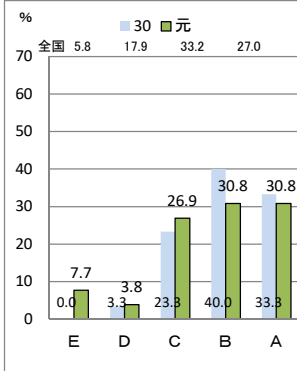
【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

※グラフ内、上の数値は、令和元年度各総合評価規準の全国の割合を表す。

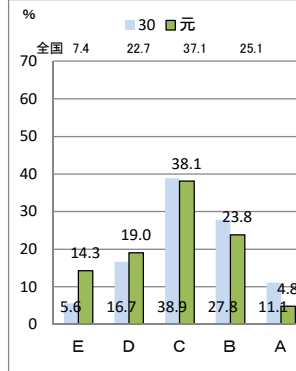


〔女子〕

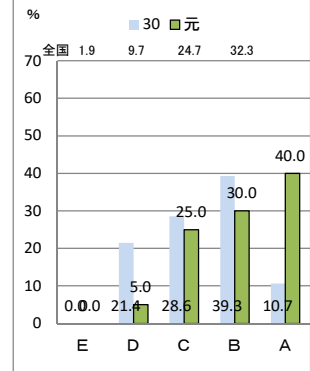


【中学校 体力総合評価】

〔男子〕



〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点~64点 C:50点~57点 D:42点~49点 E:41点以下

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

中学校 A:57点以上 B:47点~56点 C:37点~46点 D:27点~36点 E:26点以下

〈現状及び課題〉

- ・男子は、A+Bの割合が40.7ポイントと多い。
- ・男子は、22.2ポイント(4~5人に1人)がD, Eに属している。
- ・男子は、体力合計点における全国との比較ではやや上回っている。
- ・女子は、A+Bの割合が61.6ポイントと多い。
- ・女子は、D+Eの割合が11.5ポイントで、少ないがEの割合が多い。
- ・男子は、50m走・ソフトボール投げ以外は全国平均を上回っている。
- ・女子は、長座体前屈以外の種目は全国平均を上回っている。

〈現状及び課題〉

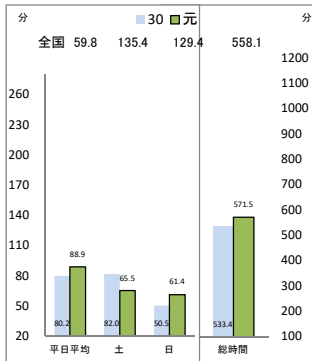
- ・男子は、A+Bの割合が28.6ポイントと少ない。
- ・男子は、33.3ポイント(3人に1人)がD, Eに属しており、運動が苦手な生徒が多い。
- ・女子は、A+Bの割合が70ポイントと多い。
- ・女子はEが0, Dが5.0ポイントで、体力・運動能力に大きな課題がある生徒が少ない。
- ・男子は、立ち幅跳び・ハンドボール投げ以外は全国平均を下回っている。

【小学校 運動実施時間】

〔男子〕

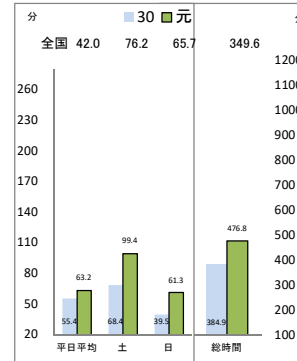
(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和元年度運動実施時間の全国の平均を表す。



〔女子〕

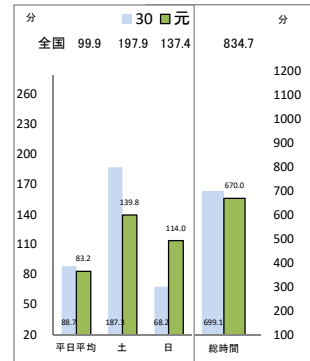
(平日の平均及び土日)(1週間)



【中学校 運動実施時間】

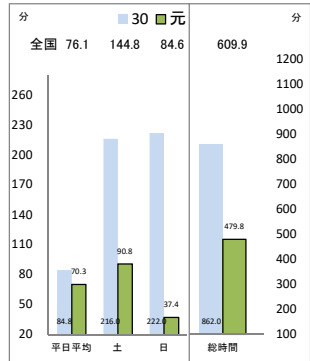
〔男子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)



〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜~金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

〈現状及び課題〉

- ・平日の運動時間を見ると、曜日によってのばらつきが大きい。スポーツ少年団の活動日等との関係も考えられる。
- ・1週間の平均運動時間は全国平均を上回っているが、男子の土・日の運動量は、全国平均の半分以下である。

※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

〈現状及び課題〉

- ・月曜日は運動部活動休養日に当てているが、予想より運動時間は多かった。
- ・男子も女子も、一週間の運動量平均は全国平均を100分以上下回っている。特に、土・日の運動量が県・全国平均と比較して少ない。

【改善策】

【小学校】

- ・男子・女子ともに、体力・運動能力が高い。更に体力・運動能力を高めていくとともに、運動への興味関心も高めていくために、「体力アップ！チャレンジかごしま」への積極的な取組を推進する。

【中学校】

- ・男子は、体力・運動能力の向上、運動時間の確保とともに課題があることから、「体力アップ！チャレンジかごしま」や教科体育の指導、朝の活動等を通して、生徒自らが運動に取り組もうとする姿勢の醸成に努める。
- ・体力・運動能力を高めるため、教科体育における指導方法改善に努める。

【共通、その他】

- ・週末も体を動かす雰囲気醸成するための家庭との連携を充実させる。(家庭教育学級、学校保健委員会、PTAの活用等)
- ・授業時間外を含む運動習慣定着に向けた取組の充実(朝の体力づくり推進等)
- ・目的意識をもった体力づくりの推進(「体力アップ！チャレンジかごしま」への記録登録や記録更新への取組の充実)

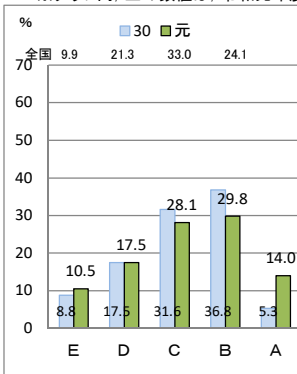
令和元年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

屋久島町 教育委員会

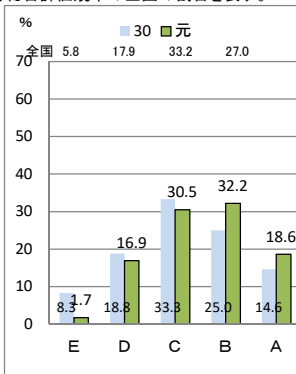
【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

※グラフ内、上の数値は、令和元年度各総合評価規準の全国の割合を表す。

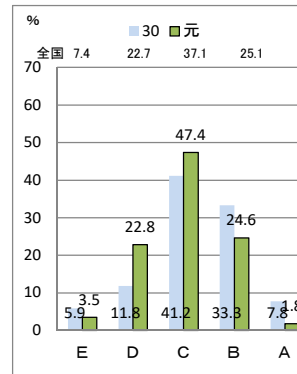


〔女子〕

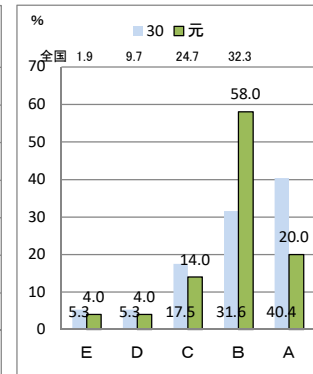


【中学校 体力総合評価】

〔男子〕



〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点～64点 C:50点～57点 D:42点～49点 E:41点以下

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

中学校 A:57点以上 B:47点～56点 C:37点～46点 D:27点～36点 E:26点以下

〈現状及び課題〉

・男子は、Eの割合が1.7ポイント増加しているが、A、Bの割合が増加しており全国平均も上回っている。特にB、CからAへ引き上げる取組の成果がみられる。
・女子はEの割合が6.6ポイント減少し、A、Bの割合は増加している。D、Eの割合が減少傾向にあるため、今後も継続した取組を実施していく必要がある。

〈現状及び課題〉

・男子は、C、Dの割合が増加しているが、Aの割合が6ポイント減少している。引き続き、C、Dの生徒をA、Bへ引き上げる取組が必要である。
・女子は、A、Bの割合がとも高い。特に、Aは20ポイント、Bは58ポイントであり、よい状況にあるが、BをAに高めるための取組を強化する必要がある。また、割合は少ないが、D、Eの体力及び運動への興味・関心を高めるとともに、B、Cに引き上げるための支援が必要である。

【小学校 運動実施時間】

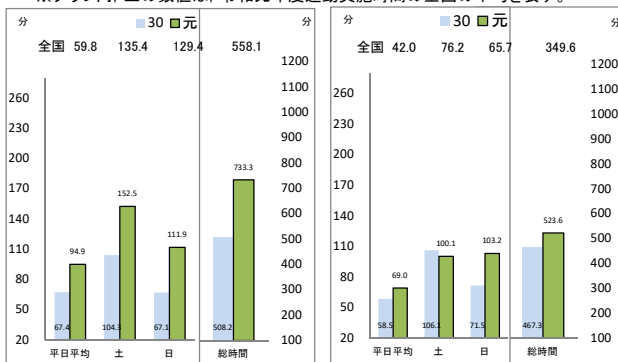
〔男子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和元年度運動実施時間の全国の平均を表す。



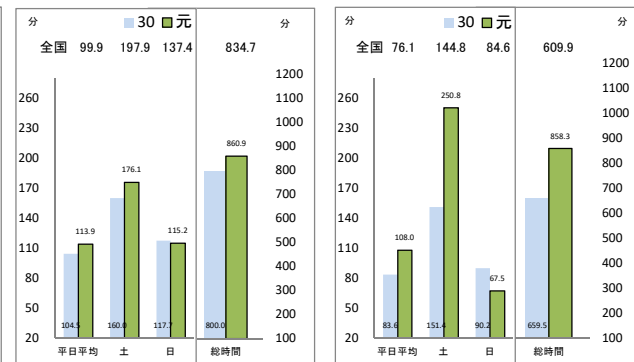
【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

〈現状及び課題〉

・男子の運動時間は、平日、週休日ともに、全国平均と比較して、大きく上回った。運動時間は十分確保されていると言える。
・女子の運動時間は、平日、週休日ともに、全国平均と比較すると、大きく上回っており、運動時間は十分確保されていると言える。

〈現状及び課題〉

・男子は、全国平均と比較して上回る結果であった。総運動時間の増加に伴い、バランスよく今後も運動時間を確保する必要がある。
・女子の運動時間は、平日、週休日ともに、ほぼ昨年度より増加傾向であった。平日の運動時間や週休日の運動時間を今後もバランスよく確保する必要がある。

【改善策】

【小学校】

・〇〇タイムや休み時間等を利用した体力づくりの実施(体カアップ! チャレンジかごしま, 屋久島1周マラソン, 外遊びや昔遊び等)

【中学校】

・部活動未所属者や文化部活動部員の運動時間確保に向けた取組の強化(生徒会主体の体力向上イベント等)

・〇〇タイムや休み時間等を利用した体力づくりの実施(体カアップ! チャレンジかごしま, 屋久島1周マラソン, 外遊びや昔遊び等)

【共通, その他】

・教科体育における十分な運動時間の確保及び運動の特性に応じた指導法の導入, 課題種目強化のための補強運動の実施(年間を通して)

・家庭における運動習慣定着, 運動時間確保のための取組の強化(家庭と連携した「一家庭一運動」の推進)

令和元年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

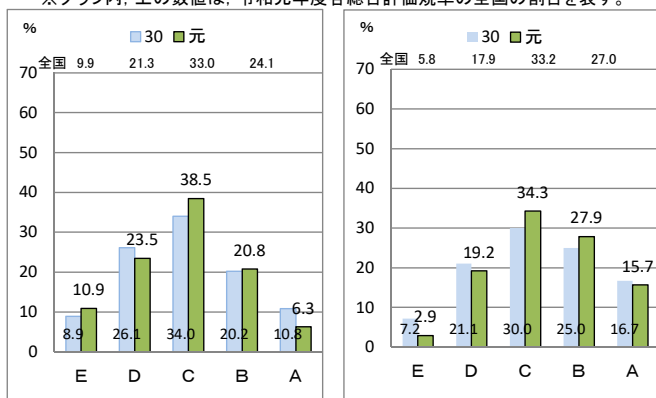
奄美市 教育委員会

【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕

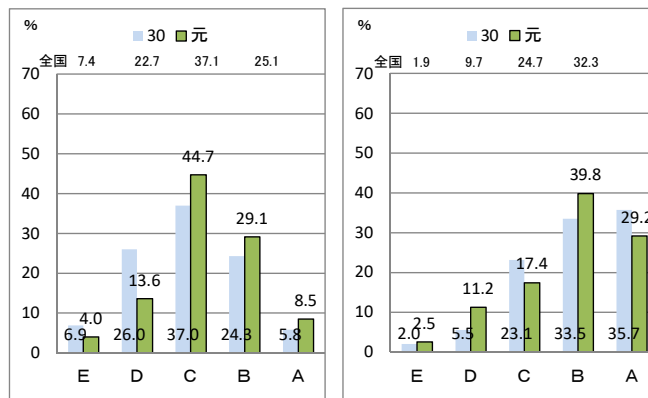
※グラフ内、上の数値は、令和元年度各総合評価規準の全国の割合を表す。



【中学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

小学校 A: 65点以上 B: 58点~64点 C: 50点~57点 D: 42点~49点 E: 41点以下 中学校 A: 57点以上 B: 47点~56点 C: 37点~46点 D: 27点~36点 E: 26点以下

〈現状及び課題〉

- ・男子はE+Dの割合が0.6ポイント減少し、B+Aの割合は3.9ポイント減少している。
- ・女子はE+Dの割合が6.2ポイント減少し、B+Aの割合は1.9ポイント増加している。
- ・男女とも、E+Dの割合が減少した。体力向上に向けて、教科体育における補強運動等の充実や個に応じた課題設定の工夫を図る。

〈現状及び課題〉

- ・男子はE+Dの割合が15.3ポイント減少し、B+Aの割合は7.5ポイント増加している。
- ・女子はE+Dの割合が6.2ポイント増加し、B+Aの割合は0.2ポイント減少している。
- ・女子は全体的に体力低下がみられるため、運動する時間、空間、仲間を積極的に提供する。特に女子においては、E+Dの生徒への支援が必要である。

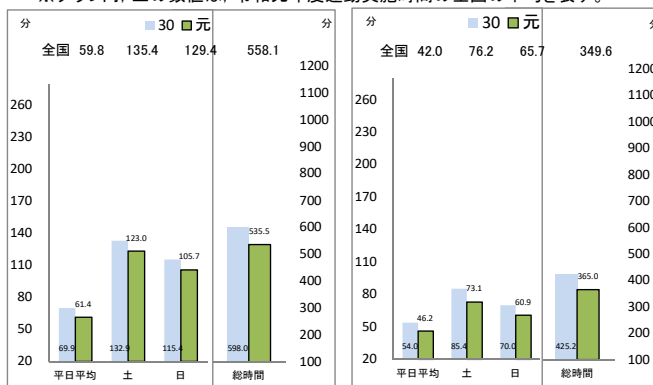
【小学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間) (平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和元年度運動実施時間の全国の平均を表す。



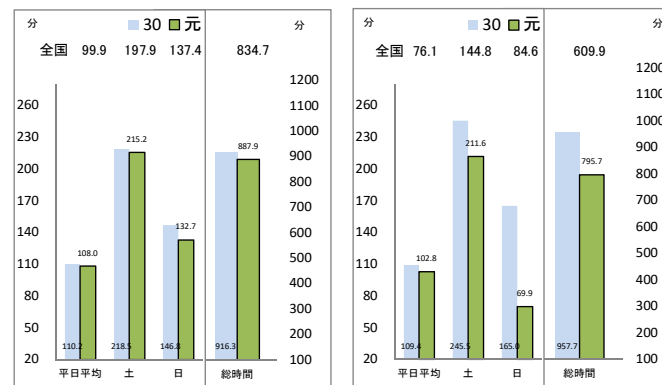
※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間) (平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

〈現状及び課題〉

- ・平日の総運動時間は男女ともに全国平均より長い。
- ・土日の総運動時間は、男女ともに全国平均より短い。
- ・昨年度と比較すると、男女ともに運動時間が短い。
- ・外遊びの奨励など、家庭と連携した取組が必要である。
- ・スポーツ少年団等に所属していない児童への運動時間の確保が必要である。

〈現状及び課題〉

- ・平日の運動時間は、男女ともに全国平均より長い。
- ・土日の総運動時間は全国平均より長い。
- ・昨年度と比較すると、男女ともに運動時間が短い。
- ・運動部活動等に所属していない生徒への運動時間の確保が必要である。

【改善策】

- ・全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果に基づく実態把握と体力向上策の設定
- ・「たくましい”かごしまっ子”育成推進プランの共通理解と共通実践
- ・「あまみっ子運動遊び・体育教室」指導員派遣事業の利用促進
- ・奄美市体力向上推進会議において児童生徒の体力向上策の検討・実践
- ・PTAと協力した休日の運動・外遊びの奨励
- ・一校一運動の推進
- ・教科体育の充実(めあての提示、運動時間の確保、課題解決型学習の推進、まとめの時間の設定)

令和元年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

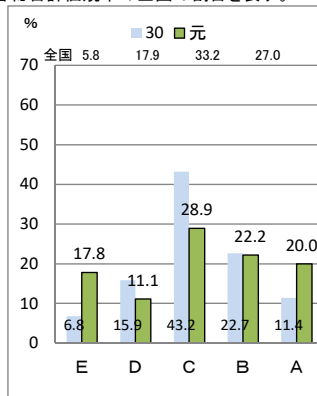
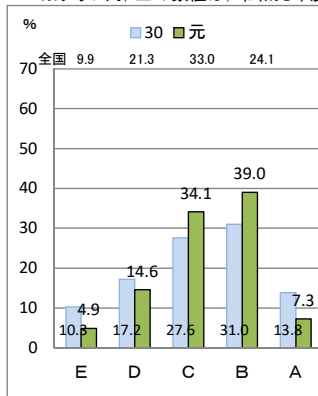
瀬戸内町 教育委員会

【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕

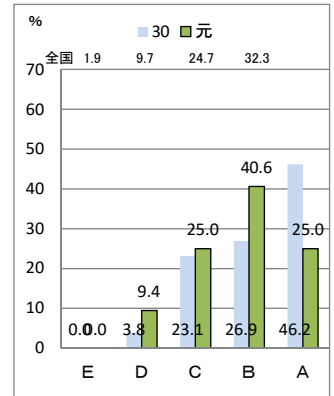
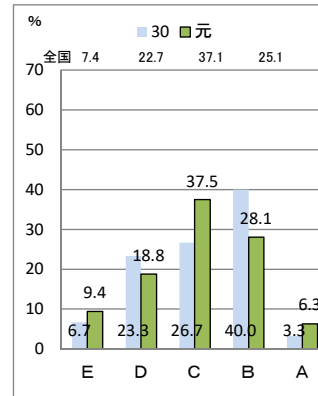
※グラフ内、上の数値は、令和元年度各総合評価規準の全国の割合を表す。



【中学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点~64点 C:50点~57点 D:42点~49点 E:41点以下

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

中学校 A:57点以上 B:47点~56点 C:37点~46点 D:27点~36点 E:26点以下

〈現状及び課題〉

- ・ 男子はAの割合が6.5ポイント減少し、Bの割合が8ポイント増加している。女子はAの割合が8.6ポイント増加し、Cの割合が14.3ポイント減少している。
- ・ 男子はC、Bの児童への体力及び運動への興味・関心を高め、Cの児童をBへ、Bの児童をAへ引き上げる取組が必要である。
- ・ 女子はAが増加し、改善傾向にあるが、Eの児童に対する働き掛

〈現状及び課題〉

- ・ 男子はAの割合がわずかながら増加している一方でCの割合が最も高くなっている。女子はB、Cの割合が増加している一方でAの割合が20ポイント以上減少している。
- ・ 男子はA、Bの割合が低いため、引き続きCやBの生徒への働き掛けを強化し、AやBへ高める取組が必要である。
- ・ 女子はC、Bの生徒をAやBに引き上げるための取組を継続的に行う

【小学校 運動実施時間】

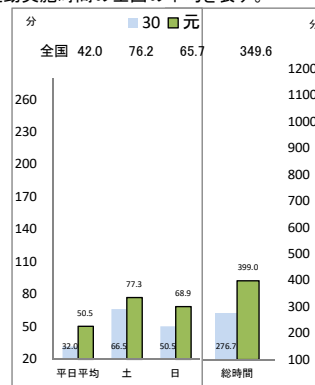
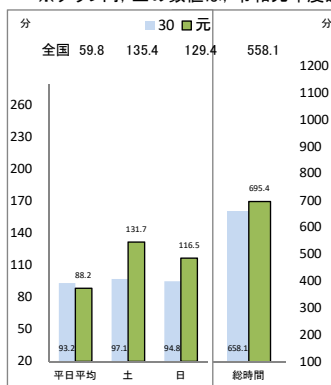
〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和元年度運動実施時間の全国の平均を表す。



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

〈現状及び課題〉

- ・ 1週間の総運動時間は、全国平均と比較すると男子・女子ともに「長い」結果であった。
- ・ 平日は全国平均と比較して男子が「長い」、女子は「ほとんど差がない」結果であった。
- ・ 土・日曜日は男女子ともほとんど差がないが、男子において土曜日

【中学校 運動実施時間】

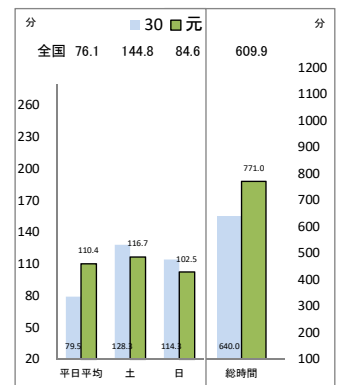
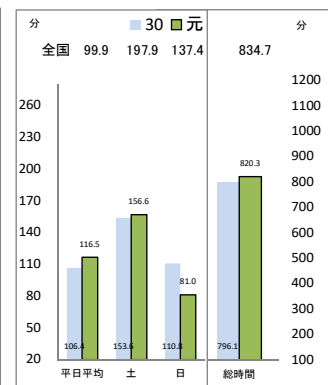
〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和元年度運動実施時間の全国の平均を表す。



※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

〈現状及び課題〉

- ・ 1週間の総運動時間は男子で「ほとんど差がない」、女子は「長い」結果であった。
- ・ 平日は男子が「ほとんど差がない」、女子が「長い」結果であった。
- ・ 日曜日の運動時間は全国平均より男子が56分短く、女子が18分長い。

【改善策】

【小学校】

- ・ 「チャレンジかごしま」の積極的推進による運動への興味・関心の喚起、運動実施時間の拡充、楽しみながら運動に取り組む子どもの育成

【中学校】

- ・ 一校一運動や体力づくりタイム等の推進(運動実施時間の拡充、「チャレンジかごしま」への積極的な参加)

【共通、その他】

- ・ PTAや家庭教育学級における運動習慣(運動経験)形成の重要性に対する啓発
- ・ 社会教育課との連携による幼少時における体力づくり教室「プレ・ゴールデンエイジ事業」の推進及び充実

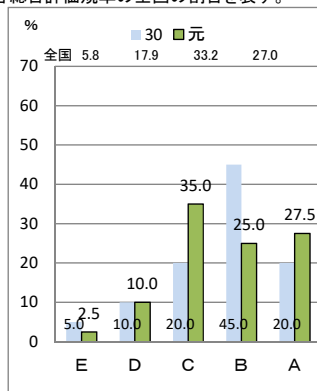
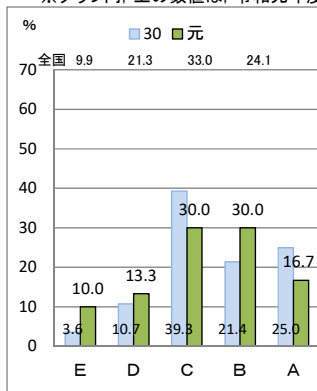
令和元年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕

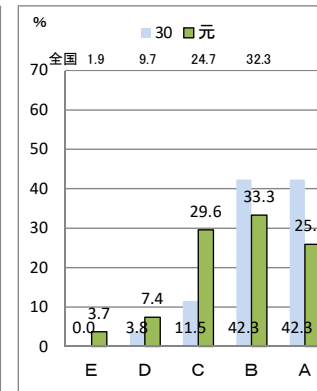
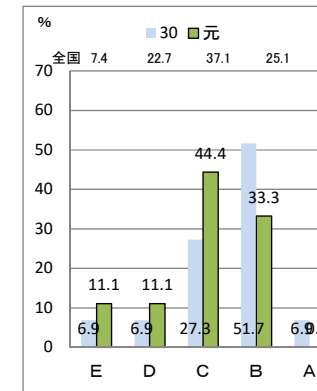
※グラフ内、上の数値は、令和元年度各総合評価規準の全国の割合を表す。



【中学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

小学校 A: 65点以上 B: 58点~64点 C: 50点~57点 D: 42点~49点 E: 41点以下

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

中学校 A: 57点以上 B: 47点~56点 C: 37点~46点 D: 27点~36点 E: 26点以下

〈現状及び課題〉

- ・男女ともに、A+Bの割合は全国の割合を上回っており、昨年度から引き続き改善が図られている。
- ・課題であった柔軟性(長座体前屈)については、男子の改善が図られたものの女子は課題が継続していることから、今後の更なる対応が必要である。
- ・男女ともに、「D、E」の割合は低いものの、今後も引き続き体力及び運動への興味・関心を高めるための取組が必要である。

〈現状及び課題〉

- ・A+Bの割合について、男子は引き続き全国平均を上回ったもののAが0%となっていること、また、女子が全国をやや下回ったことから、運動能力や体力の底上げ・改善が必要である。
- ・持久力については、男女ともに全国・県を下回り、継続した課題となっていることから、今後更なる取組が必要である。
- ・男女ともに、「D、E」の割合は低いものの、今後も引き続き体力及び運動への興味・関心を高めるための取組が必要である。

【小学校 運動実施時間】

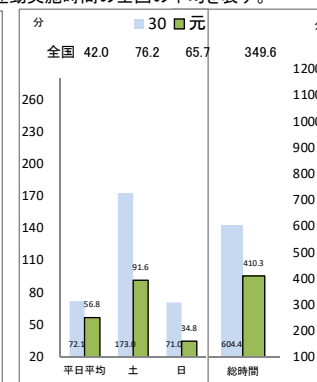
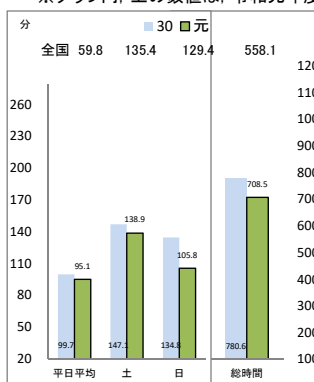
〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和元年度運動実施時間の全国の平均を表す。



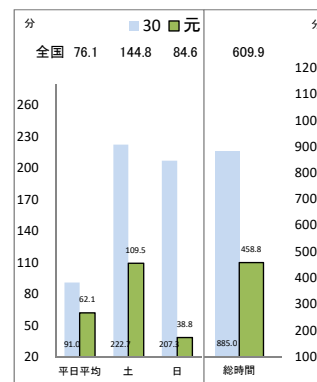
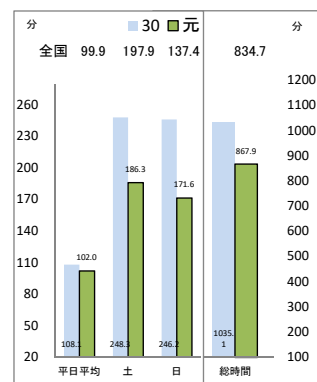
【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜~金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

〈現状及び課題〉

- ・総運動時間は男女ともに全国より「長い」が、男女ともに前年度よりも運動時間が短くなっている。
- ・ここ数年、土日の運動時間は増加傾向にあったが、特に女子の運動時間が短くなっている。

〈現状及び課題〉

- ・平日の運動実施時間は、昨年度よりもかなり減少し、さらに女子は全国より「わずかに短く」なる結果であった。
- ・総運動時間について、昨年度より男女とも減少し、男子は全国より「長い」ものの、女子は全国よりかなり「短く」なっていた。特に、1週間ほとんど運動をしない女子が全体の1/4いることから、運動への関心・意欲を高めながら運動の機会をつくる必要がある。

【改善策】

【小学校】

- ・体育科学習指導の充実(主運動の基礎となる感覚や柔軟性を取り入れた)及び運動実施時間の確保(一校一運動の充実)

【中学校】

- ・十分な運動量を確保しながら、課題である持久力の向上につながる授業の充実
 - ・運動への関心・意欲を高め、継続した運動習慣を図るために、体力アップ! チャレンジかごしま」の活用(学級での取組としての確実な位置付け)
- 【共通、その他】
- ・「主運動の基礎となる感覚や類似した動きを経験させるための時間」の意図的設定
 - ・学校訪問、町主催PTA行事、研修会等での現状説明・改善策等を含めた広報の充実

令和元年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

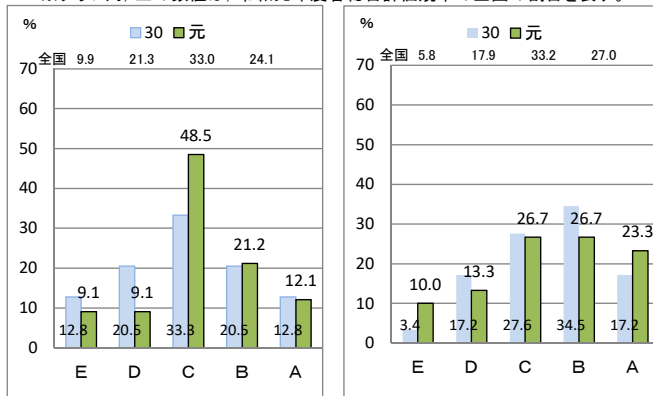
喜界町 教育委員会

【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕

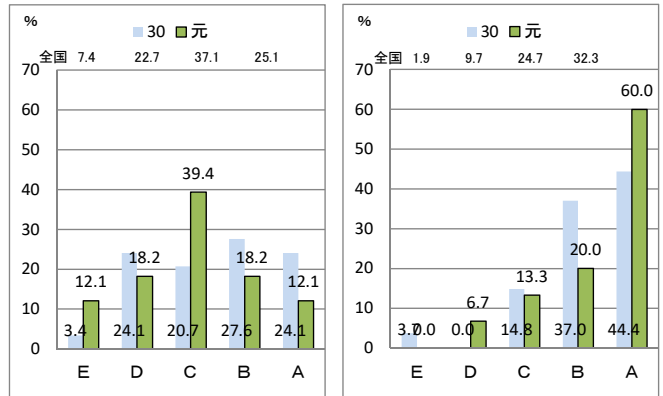
※グラフ内、上の数値は、令和元年度各総合評価規準の全国の割合を表す。



【中学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

小学校 A: 65点以上 B: 58点~64点 C: 50点~57点 D: 42点~49点 E: 41点以下 中学校 A: 57点以上 B: 47点~56点 C: 37点~46点 D: 27点~36点 E: 26点以下

〈現状及び課題〉

- ・男子は、Cの割合が15.2ポイント増加し、Dの割合が11.4ポイント、Eの割合が3.7ポイント減少している。
- ・女子は、Aの割合が6.1ポイント増加しているが、Eの割合が、6.6ポイント増加している。
- ・男女ともに、E、Dの児童へ運動の楽しさを味わわせることで運動への興味・関心を高め、自ら進んで運動しようとする態度を育成する必要がある。

〈現状及び課題〉

- ・男子は、A、Bの割合が減少しているが、D、Eの割合も減少しCの割合が増加している。
- ・女子は、Aの割合が15.6ポイント増加している。
- ・男子は、E、Dの生徒へ運動の楽しさを味わわせることで運動への興味・関心を高め、継続的に運動に取り組ませる必要がある。女子は、C、Dの生徒へ高い目標を設定させるなどして、A、Bに引き上げる支援を継続する必要がある。

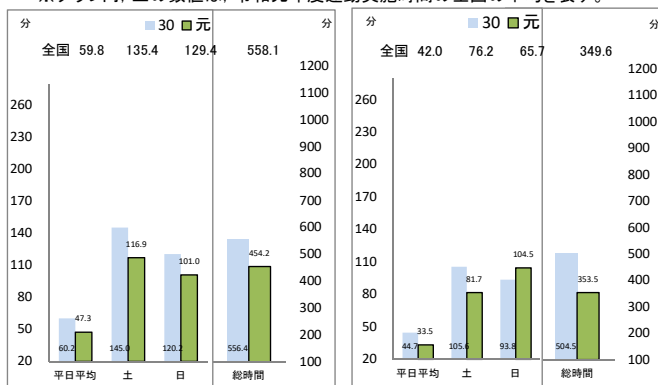
【小学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間) (平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和元年度運動実施時間の全国の平均を表す。



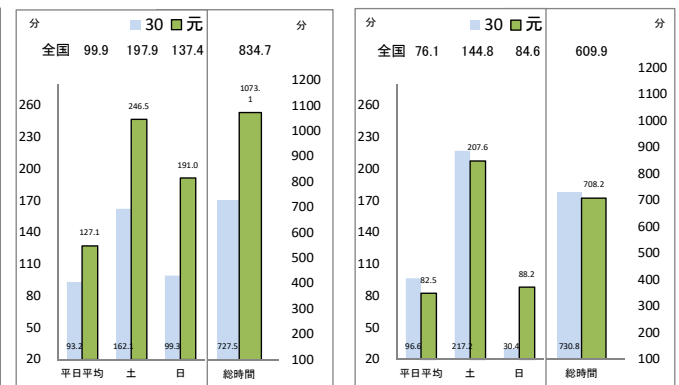
※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間) (平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

〈現状及び課題〉

- ・1週間の総運動時間は、全国と比較して「短い」という結果であった。
- ・平日、土日ともに全国平均と比較して男女ともに「短い」結果であった。また、昨年と比較しても男女ともに運動時間が短くなっている。
- ・運動例を示したり、PTAで啓発したりするなどして、運動時間の確保に力を入れる必要がある。

〈現状及び課題〉

- ・男子は、平日、土日ともに運動実施時間が昨年度より増え、全国平均と比較しても上回っている。
- ・女子は、平日の運動実施時間が短くなっている。
- ・女子の運動実施時間の増加が必要である。特に、平日における運動実施時間の確保に向けた手立てが必要である。

【改善策】

【小学校】

- ・家庭との連携を図りながら、児童が積極的に運動できる環境を整える。

【中学校】

- ・体力・運動能力調査の結果などを基に、生徒自身の課題を把握させ、体力向上に向けた取組を自主的に行える働きかけを行う。

【共通】

- ・教科体育で行ったことが、休み時間や家庭での運動の日常化につながるようするための方策を検討し実施する。
- ・「チャレンジかごしま」への積極的な参加など、子ども達が意欲的に運動に取り組むことのできる場を設定する。
- ・「きかい100スポーツクラブ」等の関係団体と連携を図り、家庭で継続してできる運動の紹介を行う。

令和元年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

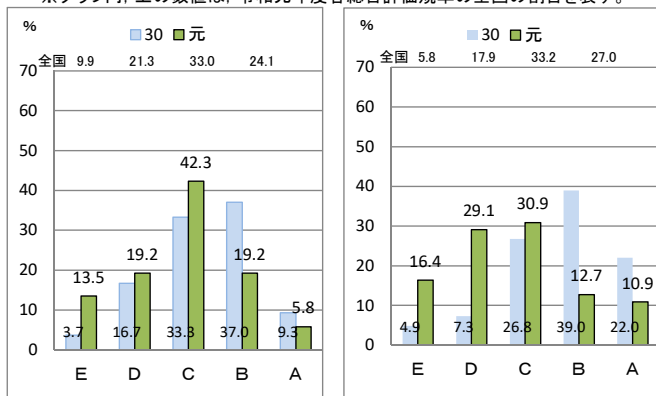
徳之島町 教育委員会

【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕

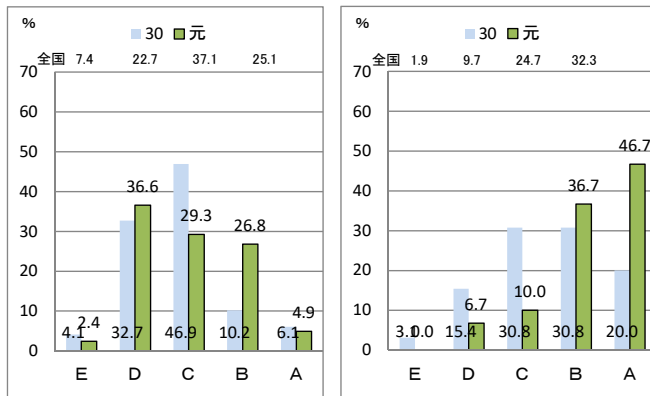
※グラフ内、上の数値は、令和元年度各総合評価規準の全国の割合を表す。



【中学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点~64点 C:50点~57点 D:42点~49点 E:41点以下

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

中学校 A:57点以上 B:47点~56点 C:37点~46点 D:27点~36点 E:26点以下

〈現状及び課題〉

- ・全国と比較して、男子はA・B群の割合が低く、C・E群の割合が高い。女子もA・Bの割合が低く、D・Eの割合が高い。
- ・前年度と比較すると、男子はA・Bの割合が減少し、C・D・Eの割合が増加している。女子も、A・Bの割合は減少し、C・D・Eの割合が増加している。
- ・男女ともに、A・Bの上位群が大幅に減少している。

〈現状及び課題〉

- ・全国と比較して、男子はC群が下がり、その分D群の割合が高くなっている。女子は、A・B群が大幅に増え、下位群が減少している。
- ・前年度と比較すると、男子はC群からB群への割合が増え上昇が見られた。女子は、A・B群の割合が増加し、D・E群は1ケタまで減少した。
- ・中学生においては、町内の中心校が研究指定校となり、体力向上に努めてきた成果が、顕著に数値に表れてきたのではないかと考えられる。

【小学校 運動実施時間】

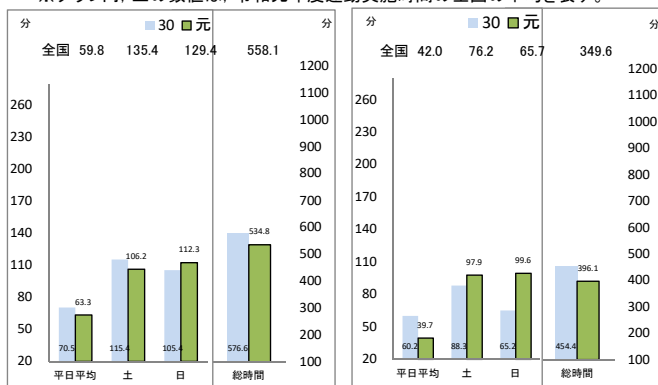
〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和元年度運動実施時間の全国の平均を表す。



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

〈現状及び課題〉

- ・運動実施時間については、全国との比較で、男子は平日が多く、休日が少ない。女子は、平日が少ないが、土・日は大幅に上回っている。
- ・前年度と比較すると、運動の総時間は、男女共に減少傾向にあるが、女子は全国平均を上回っている。

【中学校 運動実施時間】

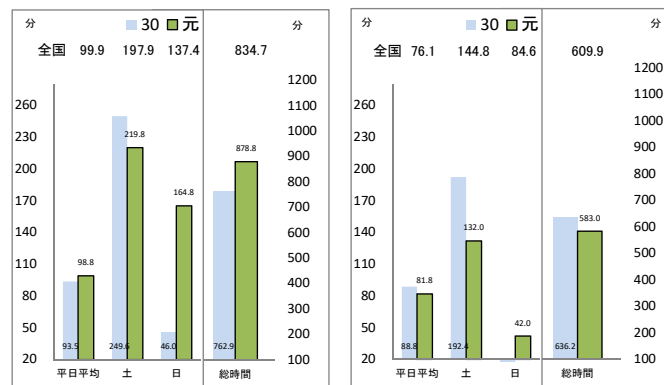
〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和元年度運動実施時間の全国の平均を表す。



※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

〈現状及び課題〉

- ・運動総時間は、全国との比較で男子の平日は同程度、土・日は大幅に上回っている。女子は、平日が上回っている一方、休日が少ない傾向にある。
- ・前年度と比較すると、男子の総時間が大幅に伸びているが、部活動休養日の影響で、女子の休日の運動実施時間が少なくなっていることから、家庭における体力向上策について検討していく必要がある。

【改善策】

【小学校】「体力アップ！チャレンジかごしま」の積極的な取組の推進

- ・心と体の一体化を目指した教科体育の一層の充実

【中学校】「体力アップ！チャレンジかごしま」積極的な取組の推進

- ・家庭で取り組む自主的な運動の推進

【共通・その他】

- ・社会教育課との連携を図った少年団及び運動部活動指導者への啓発(土曜授業の趣旨を含めた)
- ・町体育部会の充実(授業を通じた研修会の実施)
- ・体育・保健体育の授業時や運動部活動時の地域人材の効果的な活用

令和元年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

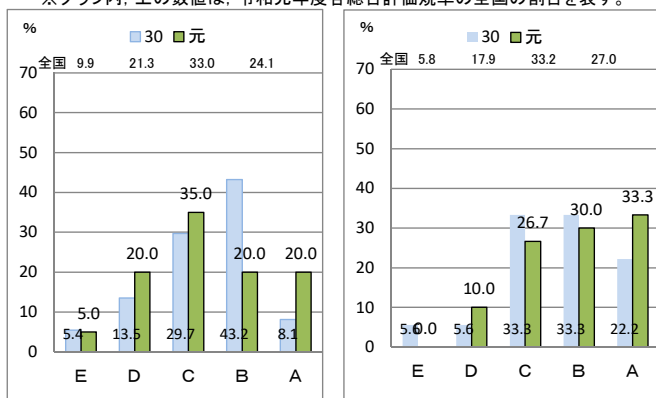
天城町 教育委員会

【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕

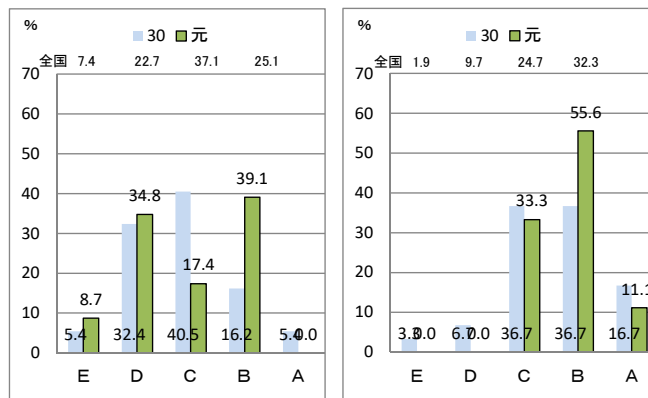
※グラフ内、上の数値は、令和元年度各総合評価規準の全国の割合を表す。



【中学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

小学校 A: 65点以上 B: 58点~64点 C: 50点~57点 D: 42点~49点 E: 41点以下

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

中学校 A: 57点以上 B: 47点~56点 C: 37点~46点 D: 27点~36点 E: 26点以下

〈現状及び課題〉

- ・ 男子は、AとBの割合の合計が11.3ポイントが減少し、CとDの割合の合計が11.84ポイント増加している。
- ・ 女子は、Dの割合が4.4ポイント増加している。
- ・ 課題としては、男子はC、D、Eの児童が増加傾向にあるので、体力及び運動への興味・関心を高めるとともに、男女とも、Cの児童をB、Aへ引き上げるための授業改善や運動量の確保等が必要である。

〈現状及び課題〉

- ・ 男子は、Bの割合が22.9ポイント増加し、Cの割合が23.1ポイント減少している。
- ・ 女子は、Bの割合が18.9ポイント減少している。
- ・ 課題としては、小学校と連携し、男子のE、Dの生徒の体力及び運動への興味・関心を高めるとともに運動の習慣化を図っていく必要がある。女子は改善傾向が見られるので、継続的に運動量の確保等をしていき

【小学校 運動実施時間】

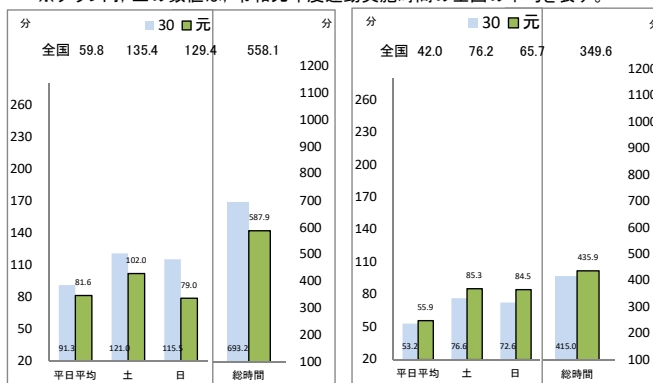
〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和元年度運動実施時間の全国の平均を表す。



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

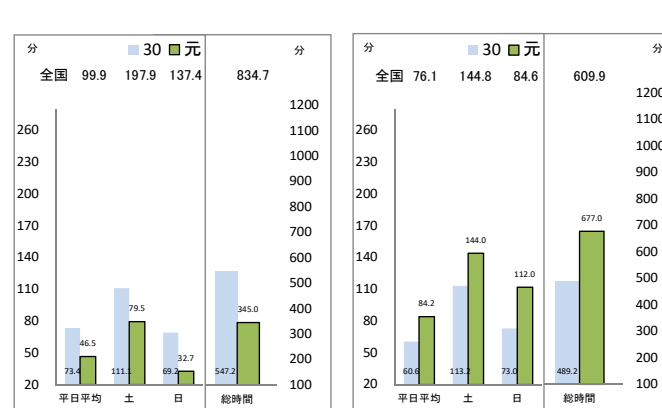
【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

〈現状及び課題〉

- ・ 1週間の総運動時間は、男子は、105.3分減少し、女子は、20.9分増加している。
- ・ 総運動時間を見ると男子は、全国平均を上回ってはいるが、昨年より105.3分減少しており、運動時間の確保及び習慣化が課題である。女子は、全国平均を大幅に上回っており、昨年からも20.9分の増

〈現状及び課題〉

- ・ 1週間の総運動時間は、男子は、202.2分減少し、女子は、187.8分増加している。
- ・ 男子は、総時間が著しく減少しており、全国平均の半分以下の運動時間となっている。女子は、全国平均を上回り、改善傾向が見られる。
- ・ 今後は、男子の運動時間の確保及び習慣化を図っていく必要がある

【改善策】

【小学校】

- ・ 1校1運動の確実な実施や運動することの楽しさを味わわせる体育の授業等の充実
- ・ 保健体育の授業や部活動における「かごしまの子ども体力向上プログラム」の積極的な活用

【中学校】

- ・ 学校体育及び部活動等、また学校外での運動の習慣化
- ・ 運動のよさの啓発及び生徒自身の体力の変容の把握

【共通・その他】

- ・ 教科体育を中核とした体力向上の推進及び「体力アップ! チャレンジかごしま」の積極的な活用

令和元年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

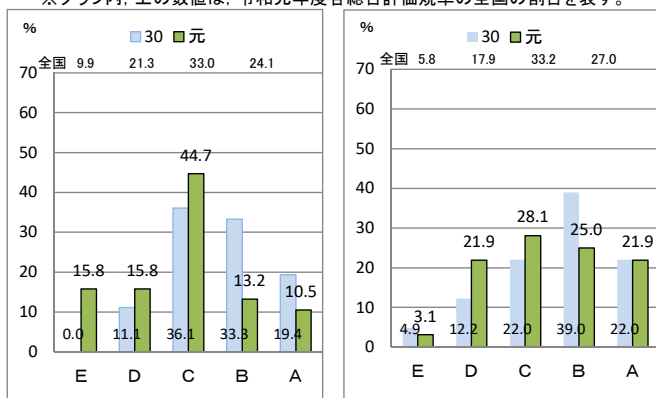
伊仙町 教育委員会

【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕

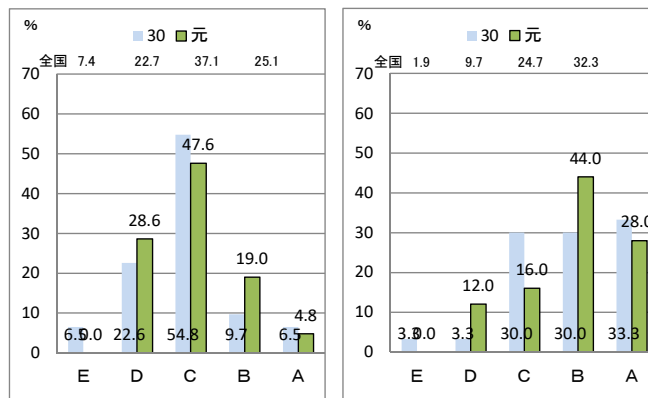
※グラフ内、上の数値は、令和元年度各総合評価規準の全国の割合を表す。



【中学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

小学校 A: 65点以上 B: 58点~64点 C: 50点~57点 D: 42点~49点 E: 41点以下 中学校 A: 57点以上 B: 47点~56点 C: 37点~46点 D: 27点~36点 E: 26点以下

〈現状及び課題〉

- ・ 男子はA, Bの割合が9%ほど減少した。女子はC, Dの割合が、7%ほど増加した。男女ともに、全国と比較するとBの割合が少なく、Dの割合が多い。
- ・ 男子は、正規分布を保っているがEが増加し、二極化が進んでいると分析される。運動を苦手と感じる子どもがどのような課題を抱えているのか把握し、補足的な運動を取り入れていく必要がある。
- ・ 女子は、正規分を維持しつつ、Eが減少している。ただ全体の平均がBに近づいていくよう全体の底上げが継続して必要である。日常的

〈現状及び課題〉

- ・ 男子は、A, Cの割合が若干減少した。女子も同様にA, Cの割合が減少した。男女ともにEが減少し、Bの割合が大幅に増加した。
- ・ 男子は、中間層Bの割合が9.3%増加したが、全国の比率には及んでいない。Eが減少していることから改善傾向にあるものの、今後も全体の底上げを図っていく必要がある。
- ・ 女子は、正規分布で、しかも全体のバランスがBを最大値として底上げが図られている。今後、Eの0%を維持しつつ、Aの割合を高められるように個々の課題をより高められる場の設定を積極的に行っていく必要

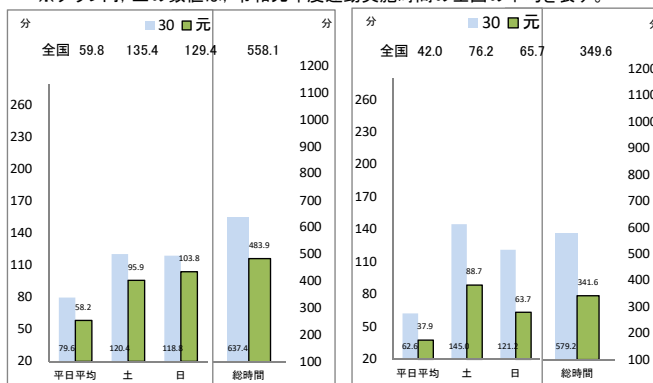
【小学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間) (平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和元年度運動実施時間の全国の平均を表す。

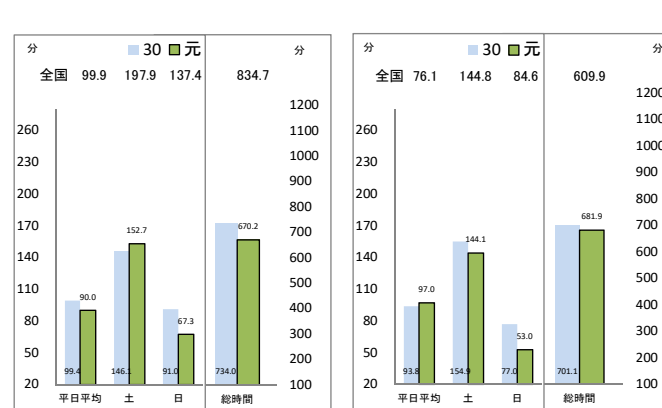


【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間) (平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

〈現状及び課題〉

- ・ 前年度と比較すると男女ともに、総時間は減少傾向である。特に、週末の土、日曜日の減少が激しいことから休日の過ごし方に、課題があることが分かる。
- ・ 全国と比較した運動実施時間は、1週間の総運動時間、曜日別ともに男女とも下回っている。男子は土、日曜日で、女子は平日の落ち込みが大きい。スポーツ少年団等に加入していない子どもへの手立

〈現状及び課題〉

- ・ 前年度と比較すると男女ともに、総時間数は若干減少傾向である。特に、男女とも日曜日の運動時間が減少が大きい。部活動が休みの日の運動時間の確保に向けた手立てが課題である。
- ・ 運動実施時間は、1週間の総時間を全国と比較すると男子が下回り、女子が上回っている。平日の運動時間が全国を上回る女子に比べ、男子は平日も時間が少ない。特に部活動に入っていない子どもへの手立

【改善策】

- 【小学校】
 - ・ 体育授業導入時に体力テストの分析から求められる体力に重点を当てた運動実施時間の確保
 - ・ 「体力アップ！チャレンジかごしま」の積極的な活用
- 【中学校】
 - ・ 保健体育の授業時や部活動時の「かごしまの子ども体力向上プログラム」の積極的な活用
 - ・ 「体力アップ！チャレンジかごしま」の積極的な活用

【共通・その他】

- ・ 家庭でできる運動やスポーツを促す具体的啓発資料の充実
- ・ 体育・保健体育の授業における体力づくりや体づくり運動の積極的な導入
- ・ 体育・保健体育の授業時や運動部活動時の地域人材の効果的な活用

令和元年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

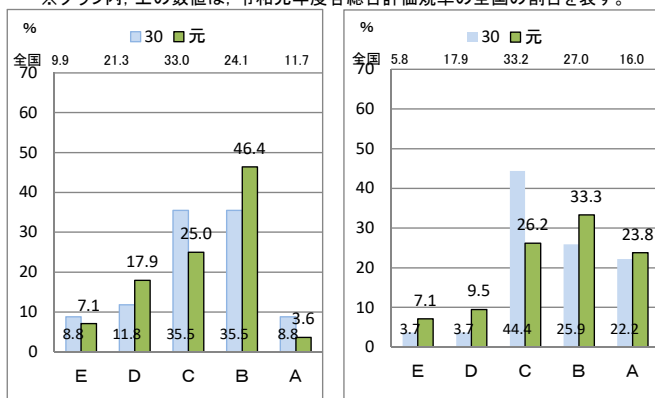
和泊町 教育委員会

【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕

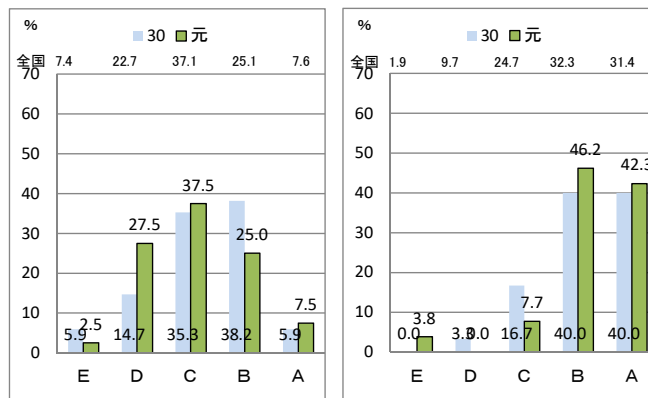
※グラフ内、上の数値は、令和元年度各総合評価規準の全国の割合を表す。



【中学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

小学校 A: 65点以上 B: 58点~64点 C: 50点~57点 D: 42点~49点 E: 41点以下 中学校 A: 57点以上 B: 47点~56点 C: 37点~46点 D: 27点~36点 E: 26点以下

〈現状及び課題〉
 ・ 男子はほぼ全国平均並み。B層の伸びは、中位層からの体力向上が見られる。A層への伸びは、今後更に個々の運動目標を設定したり、得意なことや粘り強く取り組んだりすることの大切さを含めて、運動に取り組めるように工夫していく必要がある。
 ・ 女子は全国平均を上回っている。A層とB層で55%を占め、C層からB層への体力向上も見られる。D層とE層については、今後、個に応じた、興味関心を高めたり、運動する機会を確保するなど、体力向上に努めていく必要がある。

〈現状及び課題〉
 ・ 男子はA層、B層ともに全国並みである。E層からD層への体力向上が伺える。C層、D層からB層へいかに高めていくかが課題である。町内中学校は中規模校と極小規模校であるため、学校の特質に応じた運動の取組が必要となってくる。
 ・ 女子は全国を大きく上回っている。A・B層の割合が高く、90%近くある。課題は、中位・下位層の生徒に対して、個に応じた指導や集団での運動の中でA~E層の生徒がともに高め合える運動を取り入れるなど工夫していく必要がある。

【小学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)

【中学校 運動実施時間】

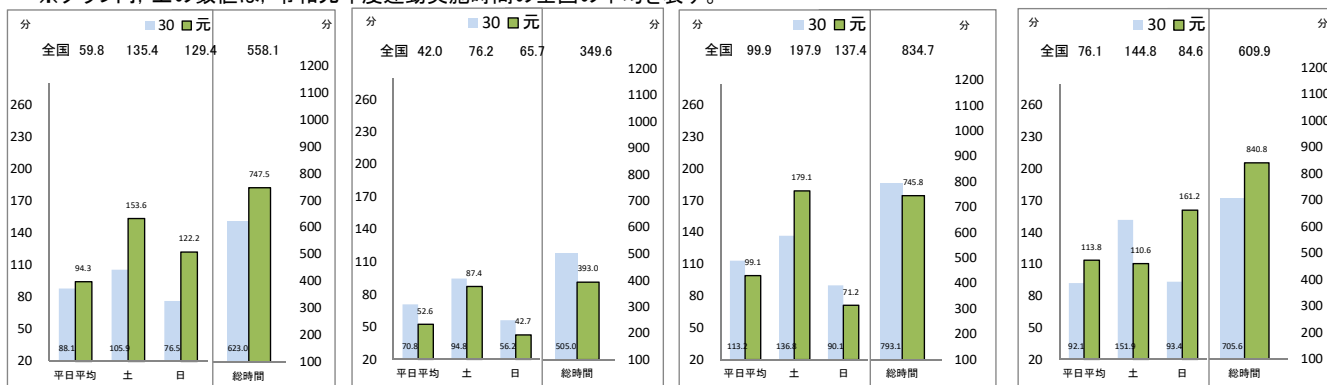
〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和元年度運動実施時間の全国の平均を表す。



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜~金曜の運動実施時間(分)の平均 ※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

〈現状及び課題〉
 ・ 男子は全国平均を上回っている。週総時間で約180分(約3時間)増加している。平日平均で94分ということは、スポーツ少年団等を中心に、毎日の運動時間の確保によることも要因と考えられる。
 ・ 女子は全国平均を上回っている。昨年と比較すると、週総時間で約110分、平日平均と日曜日の運動時間が約20分程度少なくなっている。個々の児童の興味関心にもよるので、適度な時間を確保してバランスよく運動に取り組ませていく必要がある。

〈現状及び課題〉
 ・ 男子は全国平均よりやや少ない。週総時間で約90分、平日と土曜日は同じだが、日曜日の運動時間が約60分少ない状況である。理由の一つとしては部活動の適正な運動時間によるものと考えられる。
 ・ 女子は全国平均を大きく上回っている。昨年比でも、1週間の総時間で約140分増加。平日平均で113分は、生徒自身が「十分に運動している」という意識の表れとも言える。日曜日でも全国平均の約2倍であり、部活動をはじめ地域スポーツクラブでの運動も理由として考えられる。

【改善策】

【小学校】

・ 各学校の各校一運動や「チャレンジかごしま」、地域スポーツクラブ「元気！わどまりクラブ」での運動など更に連携していく。体育科授業では、資質・能力育成の3つの柱に基づいた計画的な授業改善に努める。また、運動に親しみ、楽しむ機会として、親子・地域でのスポーツ・レクリエーション・ニュースポーツの活動の充実も図っていく。

【中学校】

・ 中学校は女子の運動時間及び体力の実態が高い傾向にある。運動の日常化が図られていると考える。男子については限られた時間の中で内容・運動方法の工夫改善を図り、意欲を高め、具体的な目標をもって取り組めるよう指導していく必要がある。各校一運動や「チャレンジかごしま」への取組、地域スポーツクラブでの運動なども継続していく。

令和元年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

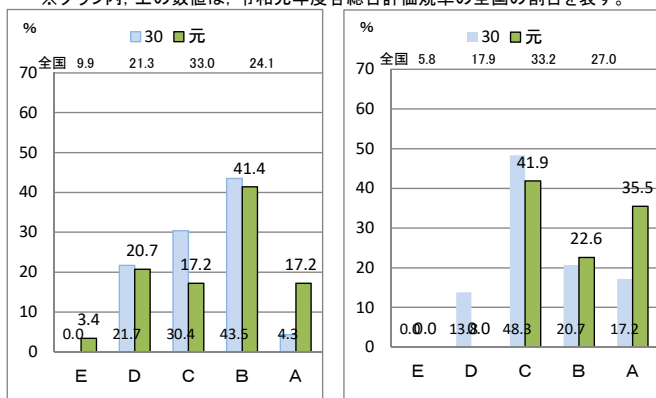
知名町 教育委員会

【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕

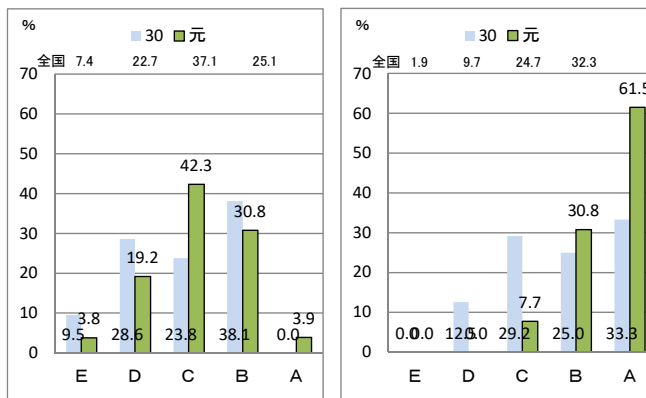
※グラフ内、上の数値は、令和元年度各総合評価規準の全国の割合を表す。



【中学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

小学校 A:65点以上 B:58点~64点 C:50点~57点 D:42点~49点 E:41点以下

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

中学校 A:57点以上 B:47点~56点 C:37点~46点 D:27点~36点 E:26点以下

〈現状及び課題〉

- ・ 男子は、Aが13ポイント増加する一方、Eが3ポイント増加している。
- ・ 女子はDEの割合が0ポイントで、昨年よりBの割合が2ポイント、Aの割合が18ポイント増加している。
- ・ 男女ともに、児童の体力及び運動への興味・関心を高め、Cの児童をB、Aへ引き上げる取組が必要である。

〈現状及び課題〉

- ・ 男子は昨年よりEの割合が5ポイント、Dの割合が9ポイント減少している。
- ・ 女子はDEの割合が0ポイントで、運動を苦手とする児童は少なくなっている。
- ・ 男女ともに、全体的にA、Bの割合が上がっているが、Cの生徒をB、Aへ引き上げる取組が必要である。また、男子については、E、Dの生徒への運動に対する興味・関心を高め、運動をする習慣が必要である。

【小学校 運動実施時間】

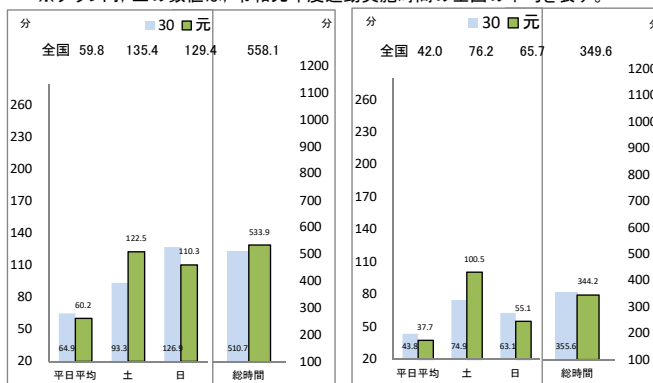
〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和元年度運動実施時間の全国の平均を表す。



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

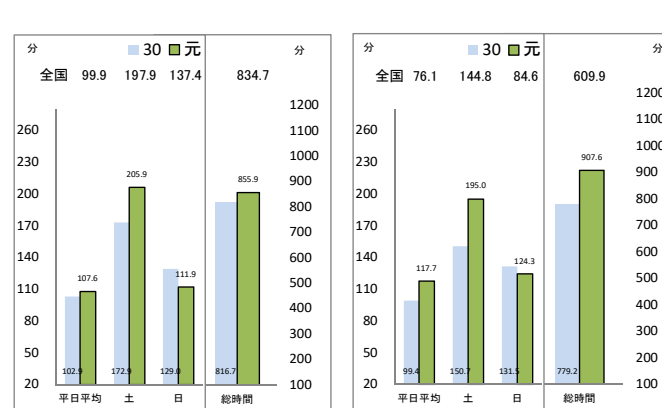
【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

〈現状及び課題〉

- ・ 1週間の総運動時間は、全国平均と比較すると、男女ともに「わずかに長い」結果であった。
- ・ 平日は、全国平均と比較しても男女とも運動時間がわずかに短い。
- ・ 土曜日は、全国平均より長く、日曜日は全国平均よりわずかに短い。

〈現状及び課題〉

- ・ 1週間の総運動時間は、全国平均と比較すると、男女ともに「長い」結果であった。
- ・ 平日は、全国平均と比較しても男女ともにわずかに長い。
- ・ 土曜日は、全国平均より長く、日曜日は全国平均よりわずかに短い。

【改善策】

【小学校】

- ・ 社会体育等の取組を充実させ、生涯スポーツにつながるような体験活動などの推進

【中学校】

- ・ 運動部活動の運営・指導の工夫改善に関する共通理解

【共通・その他】

- ・ PTAや家庭教育学級等で運動に関する研修会の開催や親子体力づくり等の推進
- ・ 小中連絡会等で、適切な運動の時間及び目的に応じた運動等についての研修
- ・ 休日における運動の習慣化やスポーツの環境整備に向けた事業の実施と広報の工夫

令和元年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について (体力総合評価、運動実施時間における課題と対策)

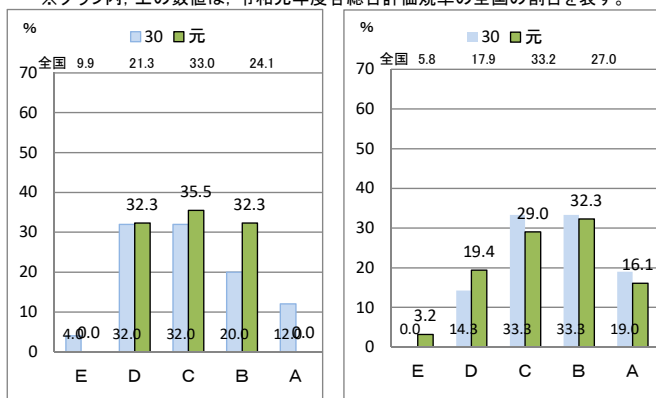
与論町 教育委員会

【小学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕

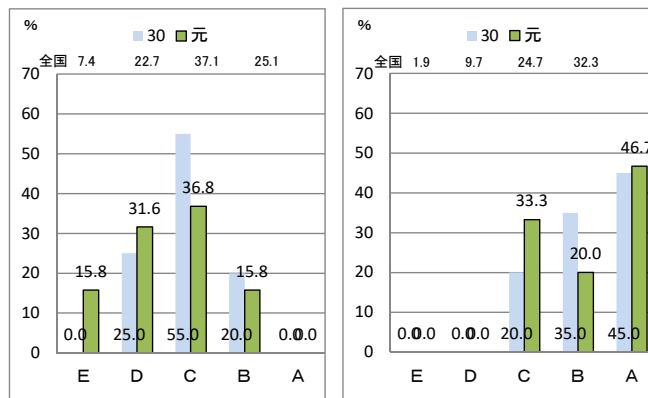
※グラフ内、上の数値は、令和元年度各総合評価規準の全国の割合を表す。



【中学校 体力総合評価】

〔男子〕

〔女子〕



※ グラフの横軸は、総合評価規準(得点)を示す。

小学校 A: 65点以上 B: 58点~64点 C: 50点~57点 D: 42点~49点 E: 41点以下

※ グラフの縦軸は、総合評価規準の児童生徒の割合(%)を示す。

中学校 A: 57点以上 B: 47点~56点 C: 37点~46点 D: 27点~36点 E: 26点以下

〈現状及び課題〉

- ・ 男子は昨年と比較すると、A・Eの数値が減少している。女子は昨年と比較すると、D・Eの数値の増加している。
- ・ 全国との比較では、男子はやや高く、女子は同じ程度である。
- ・ 児童が個々の状態に合わせて体力づくりをしたり、体育の授業内で技能だけでなく運動能力を高めたりする工夫が求められる。
- ・ 日常における運動量の確保を図る取組が必要である。

〈現状及び課題〉

- ・ 男子は昨年と比較し全体的に下位項目の数値が増加している。女子は昨年と比較し、上位項目の数値が増加している。
- ・ 女子は昨年と比較し、体力及び運動能力が高くなる傾向が見られるが、男子は低くなる傾向が見られる。これは、昨年度も同様の状況が見られた。
- ・ 全国との比較では、男子はやや低く、女子は高い傾向が見られる。

【小学校 運動実施時間】

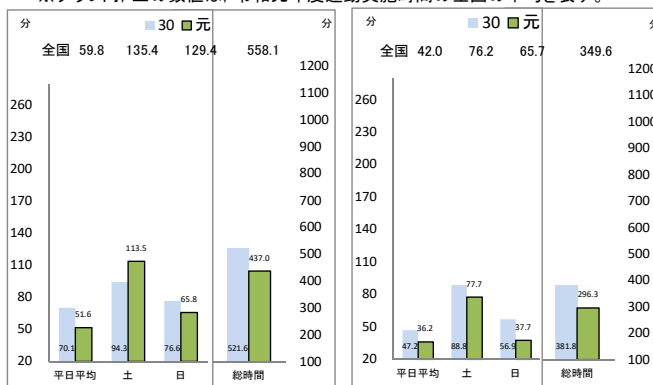
〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)

※グラフ内、上の数値は、令和元年度運動実施時間の全国の平均を表す。



※ グラフの横軸の平日平均は、月曜～金曜の運動実施時間(分)の平均を示す。

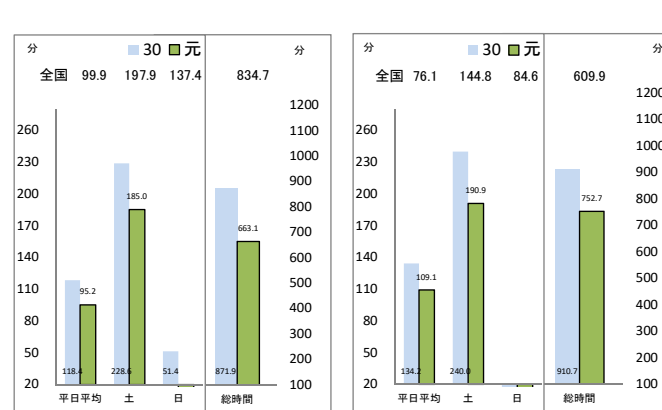
【中学校 運動実施時間】

〔男子〕

〔女子〕

(平日の平均及び土日)(1週間)

(平日の平均及び土日)(1週間)



※ グラフの縦軸は、それぞれの運動実施時間(分)を示す。

〈現状及び課題〉

- ・ 昨年度と比較し、男子は土曜日の総時間が増加したものの、その他の項目は男女ともに減少している。
- ・ 全国と比較しても、男子の土曜日以外の項目は全国を下回る数値となっている。
- ・ 男子の土曜日は少年団等での活動であることが予想される。所属

〈現状及び課題〉

- ・ 昨年度と比較し、総時間、平日、休日において、男女ともに減少している。
- ・ 全国と比較して、男女ともに運動時間が短い現状である。
- ・ 日曜日は部活動休止日であるため、運動時間が短くなることは想定される

【改善策】

【小学校】

- ・ 小学校版「体力アップ！チャレンジかごしま」への学校全体での取組と他校との連携
- ・ 「外遊びの日」を啓発するための、「ノーメディアデー」や「ノーゲームデー」の位置付け

【中学校】

- ・ 中学校版「体力アップ！チャレンジかごしま」への取組の推進と運動部活動以外に所属する生徒が運動への興味・関心を高めるための取組の充実

【共通・その他】

- ・ 体育(保健体育)の学習における、運動量の確保と運動能力向上につながる授業改善
- ・ 一家庭一運動、一シマー運動の推進